平成２７年度

教育委員会点検・評価報告書

平成２８年１１月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　２

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

１ 点検・評価の対象
２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３

１ 教育委員会の活動状況の概要報告・・・・・・・・・・・・・　３
２ 重点施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　８
３ 重点施策の評定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５４

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・　５７

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３

Ⅵ 参考資料
１　平成２７年度教育行政執行方針
２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ
３　平成２７年度　各種基本計画の進捗状況
・ 学校教育基本計画
・ 第４次社会教育中期計画
・ 文化振興基本計画
・ スポーツ振興基本計画

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされました。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、平成２７年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（１９項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめました。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ってまいります。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検・評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、平成２７年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施しました。

２ 実施の流れ

⑴ 教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵ 平成２７年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価しました。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶ 教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（Ａ～Ｄ）で、評価を実施しました。

Ａ：達成しているもの
Ｂ：おおむね達成しているもの
Ｃ：達成見込みであるが一部課題があるもの
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの

⑷ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する外部の方からの意見、助言をいただきました。

学識経験者

氏　　名	所　　属　　等
石　井　憲　一	元日本工学院北海道専門学校　参与
福　川　喜　衍	登別市退職校長会　会長

Ⅲ 評価結果

１ 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議については、毎月下旬に開催しました。必要に応じて開催する臨時会議は、２７年度は行いませんでした。

会議においては、登別市教育委員会教育長に対する事務委任規則に従って、教育長委任事務以外の事務における議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承されました。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行いました。

(2) 平成２７年度　登別市教育委員会「定例会議」の概要

第１回 会議	4/23 16:30	議案第1号　　教職員の懲戒処分にかかる内申について 議案第2号　　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 情報提供1 平成27年度登別市組織機構図(教育委員会) 2 平成27年度教育委員会事務局職員名簿 3 平成27年度登別市小中学校の児童･生徒数・学級数調書 4 平成27年度登別市立学校主要行事予定表について 5 平成27年度登別市小中学校｢校長会｣･｢教頭会｣三役等 6 第40回登別こいのぼりマラソンについて 7 地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正に伴う事務について 意見交換から(委員の意見・感想) ・生涯スポーツの観点からも推進委員は幅広い年齢層の方がなるべき。 ・土曜授業については、先生方、子どもたち、保護者も好意的に取り組んでいただいていると感じている。
第２回 会議	5/28 16:30	議案第3号　登別市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第4号　登別市社会教育委員の委嘱について 議案第5号　登別市立図書館協議会委員の任命について 情報提供1 「登別市文化振興基本計画」、「登別市スポーツ推進基本計画」のパブリックコメントの実施について 2 運動会の割り振り 意見交換から(委員の意見・感想) ・図書館協議会委員の人数は、本市の規模から考えると妥当と考える。 ・近隣の市で美術を学ぶ教室を開設しているが、継続することで活動も盛り上がるし質も上がると考える。 ・文化の振興は近隣や北海道を含めた文化の構造にどう関わり合うかだと考える。
第３回 会議	6/18 16:30	議案第6号　平成27年度教科用図書第10採択地区調査委員の委嘱について 議案第7号　平成26年度教育行政事務の管理執行状況の点検･評価に係る学識経験者の活用及び選任について 情報提供1 工事発注状況及び平成26年度耐震診断結果について 2 平成27年度登別市デンマーク友好都市中学生派遣交流事業について 3 第65回社会を明るくする運動メッセージ伝達式の参加について 4 教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について

		5 平成27年度における通学合宿事業の実施状況等について 意見交換から(委員の意見・感想) ・耐震工事は児童生徒の生命にかかわることなので、時間がかかるのは理解するができるだけ迅速に進めてもらいたい。 ・教育広報は、市民の方にも教育委員会や学校の状況を理解いただける貴重な場である。
第４回 会議	7/30 16:30	報告第1号　教職員の懲戒処分内申の結果について 報告第2号　平成27年度第2回登別市議会定例会一般質問について 議案第8号　登別市社会教育委員の委嘱について 議案第9号　第2次登別市文化振興基本計画の策定について 議案第10号 第2次登別市スポーツ推進基本計画の策定について 情報提供1 夏休み前の保護者への登別市教育委員会からのお知らせについて 2 ＡＬＴ新規招致者について 3 のぼりべつ夏祭り等の特別巡回について 4 給食センター衛生管理委員会の設置について 意見交換から(委員の意見・感想) ・18歳以上から選挙権が与えられることになると、学校教育での啓発や授業での扱い等が大切になっていくと考える。 ・ＮＰＯ法人おにスポは５年計画で若い人材も含めて活動している。そのようにいろいろなところで身近なクラブづくりに取り組んでいる方が地域にいることが活動の原点と考える。 ・門限は状況により差異があるが、できるだけ実態に合った設定をしていくべき。
第５回 会議	8/27 16:30	報告第3号　平成27年度教科用図書第10採択地区教育委員会協議会採択結果について 議案第11号 登別市公民館条例施行規則等の一部を改正する規則について 議案第12号 登別市立図書館条例施行規則の一部改正について 情報提供1　夏休み学校図書館1日限定開放の実施状況について 意見交換から(委員の意見・感想) ・図書館の利用者カードの交付に係る住所要件等を削除することで、利用者の利便性が高まり、利用者数の増加と事務の簡素化が図られると考える。 ・夏休み中でも図書に親しむ機会を増やすことはありがたい。冬休みにも期待。 ・登別小、登別中が設けた外国人観光客に対して英語で接する機会を、今後も多くの方に見てもらえるようにした方がいい。
第６回 会議	9/24 17:00	議事日程第1　登別市教育委員会委員長の選挙について 第2　登別市教育委員会委員長職務代理者の指定について 報告第4号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 報告第5号　平成27年第3回登別市議会定例会一般質問について 議案第13号 平成27年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告について 議案第14号 平成27年度全国学力･学習状況調査「北海道版結果報告書」への掲載の同意について 情報提供1 ＡＬＴ新規招致者の紹介について 2 登別中学校での登別市総合防災訓練について 3 教育フォーラム開催について 4 平成27年度全国学力・学習状況調査の結果について

		5 「市民スポーツ・健康フェスティバル」について 6 登別市文化協会創立50周年記念事業について 7 第6回登別市学校給食展の開催について 8 市内小学校学芸会・公開研究会について 9 教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について 意見交換から(委員の意見・感想) ・「北海道版結果報告書」への掲載は、改善方策についても合わせて掲載することや学習の領域別のレーダーチャートになっていることなどから、本市の学力向上対策の参考になると考え、掲載を合意する。 ・他の学校運営協議会の取組がわからないので、フォーラムの時は様々な活動がわかるとありがたい。
第７回 会議	10/29 16:30	議案第15号　平成26年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価報告について 情報提供1 平成27年度登別市功労者表彰及び登別市表彰の被表彰者について 2 平成27年度全国学力・習状況調査クロス集計(学力と学習状況)について 3 登別市子ども会育成連絡協議会創立50周年記念事業について 4 第11回図書館まつりについて 5 携帯電話やスマートフォン等についてのアンケート調査の実施について 意見交換から(委員の意見・感想) ・時間の使い方が上手な子は点数や理解度が高いという結果が出ている。ゲームをまったくやらない子より1時間以内している子の方が点数が高い結果も出ている。
第８回 会議	11/26 16:30	議案第16号 平成27年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への掲載の同意について 議案第17号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 情報提供1 平成27年度教育ふれあいウィーク実施状況について 2 携帯電話やスマートフォン等についての調査結果の報告について 3 市民プール敷地の取得（公有財産の所属替え）について 4 幌別西小学校敷地内の樹木倒壊に伴う車両損傷事故について 5 教育委員会広報「教育のぼりべつ」の発行について 6 全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書の公表について 7 アイシン精機株式会社登別事業所からの寄贈について 意見交換から(委員の意見・感想) ・保護者や地域の方に現状を知っていただくことから公表が望ましい。対策を練ることからも同意して積極的に情報を得ることも必要。 ・スマホなどの使用に関しては、まずは大人への啓発が大切。 ・教育フォーラムでは講師の話をもう少し聞きたいという声があった。さらコミュニティスクールを進める視点で話をしていただいてよかった。
第９回 会議	12/24 16:30	報告第6号　平成27年第4回登別市議会定例会一般質問について 報告第7号　平成28年度登別市教育行政執行方針について 議案第18号 登別市立学校学校医等表彰について 情報提供1 平成28年登別市成人祭について 2 学校支援地域本部事業の文部科学大臣表彰受賞について 意見交換から(委員の意見・感想) ・芸術に触れる機会が、今年は2回あってよかった。

		・がん教育も含めて低年齢のうちから自分の健康は自分で守る、自分の命を大切にするという教育は重要。
第10回 会議	1/21 16:30	議案第19号　教育行政執行方針について 議案第20号　登別市青少年会館運営規則の一部改正について 情報提供1 平成28年度登別明日中等教育学校の合格状況について 2 スクールバス運行事業の一部見直しについて 3 平成27年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果について 4 平成27年度文部科学大臣優秀教職員表彰の被表彰者の決定について 5 平成27年度登別の教育について 6 平成27年度卒業式出席者の日程調整について 7 平成27年度胆振管内教育委員会委員研修会について 8 指定管理者の指定に係る告示等について 9 登別市婦人研修の家の所管替えに伴う関係条例等の改廃について 10 登別市総合体育館リニューアルオープンセレモニーについて 意見交換から(委員の意見・感想) ・一貫した教育や学校給食に関した表記など、わかりやすい表記が必要。 ・将来の健康維持のためにもスポーツに親しむ機会を多く設けてほしい。
第11回 会議	2/18 16:30	報告第8号　市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理の報告について 報告第9号　登別市いじめ防止基本方針の策定に係る臨時代理の報告について 議案第21号 登別市婦人研修の家条例施行規則の廃止について 議案第22号 登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 情報提供1 平成28年度登別市教育行政執行方針について 2 登別市郷土資料館における展示資料の紛失について 3 平成27年度図書館要覧について 4 「図書館講演会」について 5 平成27年度卒業式出席者の日程調整について 意見交換から(委員の意見・感想) ・子どももそうだが、保護者も読書の大切さを学ぶ機会を創出してよい。 ・基本方針のダイジェスト版を配布して周知を図るべき。 ・いじめに関しては早期発見、早期対応をお願いしたい。
第12回 会議	3/25 16:30	報告第10号 教職員人事の内申に係る臨時代理の報告について 報告第11号 平成28年第1回登別市議会定例会一般質問について 報告第12号 教育委員会事務局職員の人事異動発令に係る臨時代理の報告について 議案第23号 教職員の懲戒処分に係る内申について 議案第24号 登別市教育委員会事務局処務規程の一部改正について 議案第25号 登別市総合体育館条例施行規則の一部改正について 情報提供1 室蘭市への区域外就学の見直しについて 2 「ケータイ・スマホ　３つのルール」の取組状況について 3 平成28年度進路状況について 4 平成27年度登別版コミュニティスクールの実施状況について 5 郷土資料館特別展「初めまして！－平成27年度資料－」開催について 6 平成28年度市内小中学校入学式について 意見交換から(委員の意見・感想)

		・コミュニティスクールを進める中で、校長や教頭の人事異動の期間があまり短くならないよう検討をしてもらいたい。 ・コミュニティスクールにおいて、地域の伝統芸能の継承や地域全体での避難訓練の実施等が進み、地域の方の参加率も上がっていると聞く。地域の活性化にもつながっている。 ・区域外通学の見直しについては、理解が得られるよう慎重に進めてもらいたい。

(3) 調査活動の実施状況

教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①土曜授業の視察

12/19　幌別小学校　　武田教育長

1/ 23　幌別中学校　　武田教育長

②公開研究会等の視察

11/11　登別小学校：垣内委員長・赤井委員・堅田委員

11/13　富岸小学校：赤井委員・武田教育長

11/19　幌別東小学校：武田教育長

2/ 5　幌別小学校：垣内委員長・赤井委員・武田教育長

③教育ふれあいウィーク視察

11/6　教育フォーラム（市民会館中ホール）　垣内委員長・赤井委員・武田教育長

10/31・11/7　市内一斉学校公開日「ふれあいウィーク」土曜授業視察

若草小・鷲別小・青葉小・幌別小～垣内委員長　　青葉小～赤井委員

幌別西小・西陵中～武田教育長　　富岸小～赤井委員

④8/25･26　北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会

苫小牧市　　垣内委員長・森口委員・赤井委員・武田教育長

⑤5/25　　胆振管内教育委員会連絡協議会総会　垣内委員長

2/23･24　胆振管内教育委員会委員研修会

洞爺万世閣　垣内委員長・森口委員・赤井委員・武田教育長

⑥入学式出席

西陵中学校(4/6)　垣内委員長　　青葉小学校(4/7)　垣内委員長

鷲別中学校(4/7)　森口委員　　緑陽中学校(4/7)　赤井委員

登別小学校(4/8)　堅田委員　　富岸小学校(4/8)　赤井委員

⑦運動会参観

幌別西小学校・青葉小学校(6/6) 垣内委員長　富岸小学校(6/6) 赤井委員

幌別小学校・幌別東小学校(6/13) 武田教育長　鷲別小学校(6/13) 森口委員・武田教育長

登別小学校(6/13)堅田委員　　若草小学校(6/20) 垣内委員長・武田教育長

⑧学芸会参観

若草小学校(10/17) 幌別東小学校(10/18) 幌別西小学校(10/25)　垣内委員長

登別小学校(10/18)　堅田委員

⑨卒業証書授与式出席

鷲別中学校(3/11)　森口委員　　緑陽中学校(3/11) 赤井委員

幌別中学校(3/12)　垣内委員長　　登別中学校(3/12) 堅田委員

青葉小学校(3/18)　垣内委員長　　鷲別小学校(3/18) 森口委員

富岸小学校(3/18)　赤井委員　　登別小学校(3/18) 堅田委員・武田教育長

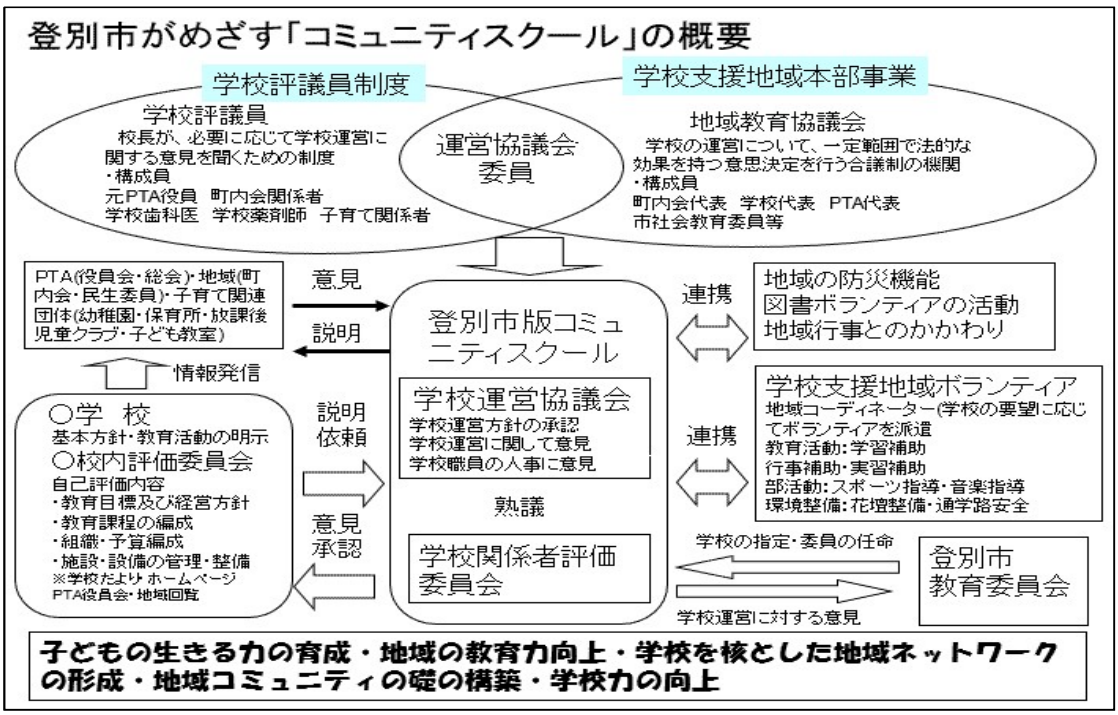
⑩その他　第 65 回社会を明るくする運動メッセージ伝達式(7/13　鷲別中学校)

垣内委員長・赤井委員・武田教育長

２ 重点施策の評価

項　　目	１　地域とともにある学校
点検内容	社会全体で子どもを育てる体制づくりと学校評価に基づく経営改善を進め、家庭、地域から信頼される学校づくりに取り組む。「登別版コミュニティスクール」の一層の定着を図り、家庭・地域社会と連携した「地域とともにある学校づくり」を推進する。

取組状況



○学校運営協議会の活動状況

	月	日	参加内訳	主　な　議　題
幌	7	2	地域1 PTA3 学校4	ふれあい農園等体験活動　校区内交通安全対策　学力向上対策
別	12	3	地域3 PTA3 学校4	いじめ防止の取組　体力向上対策　学校評価　学校力向上の取組
小	2	25	地域0 PTA3 学校4	放課後子ども塾　学校評価結果　次年度学校経営方針
登	6	4	地域・PTA7 学校4	今年度学校経営方針　いじめ防止基本方針　学校保健委員会
別	11	26	地域20 PTA10 学校10	（中学校と合同）各校取組交流　中学校区児童生徒の歯の健康
小	3	3	地域・PTA7 学校4	学校関係者評価　児童の健康　次年度の行事予定
若	5	8	地域・PTA8 学校5	学校経営方針　道徳教育基本方針　コミスク組織運営　情報交流
草	7	21	地域・PTA6 学校5	学校評価の取組　道徳的な取組　生徒指導　情報交流
小	12	16	地域・PTA8 学校5	各コミュニティの活動の振り返りと今後　情報交流
	3	9	地域1 PTA7 学校5	学校関係者評価　次年度の活動の方向性検討　情報交流
鷲	6	29	地域6 PTA0 学校2	学校経営方針　昨年度までの課題確認　学校改築記念行事等説明
別	9	24	地域6 PTA0 学校3	学校経営進捗状況　130周年記念事業　今後の方向性確認
小	1	6	地域6 PTA1 学校2	学校関係者評価委員会　28年度年間行事　新校舎落成関係確認
幌	4	27	地域4 PTA3 学校3	教育活動や地域活動確認(ふれあい農園など)　学校関係者評価
東	6	22	地域4 PTA4 学校3	学校適正配置関係　放課後子ども塾
小	10	30	地域4 PTA3 学校4	学校中間評価　学力向上の取組　いじめの状況と防止取組

	2	24	地域4 PTA4 学校4	学校評価結果と改善策検討協議
幌	5	26	地域6 PTA1 学校3	学校経営方針　学校適正配置関係
西	11	7	地域6 PTA1 学校3	子どもの状況と課題の共有　防災訓練等年度前半の取組評価
小	2	25	地域5 PTA1 学校3	学校評価結果を踏まえた成果と課題の共有　次年度学校経営
富	6	15	地域6 PTA5 学校3	学校経営方針承認　協議会役員選出
岸	11	17	地域4 PTA5 学校3	特色ある教育活動の取組状況　学校評価委員会の設置　周年行事
小	2	29	地域4 PTA5 学校3	次年度の協議会の方向性　学校関係者評価
青	5	29	地域4 PTA2 学校2	学校運営　特色ある教育活動　耐震化工事
葉	12	14	地域4 PTA1 学校2	学校評価　いじめ・不登校の状況　全国学テと体力調査結果
小	3	16	地域4 PTA1 学校2	学校関係者評価　次年度学校経営方針　40周年記念行事
幌	4	14	地域4 PTA0 学校6	学校経営方針　土曜授業の推進　いじめ防止基本方針
別	8	31	地域4 PTA0 学校6	一学期の成果と課題　学校評価の進め方　学校適正配置関係
中	2	5	地域3 PTA2 学校6	学校評価結果　次年度学校経営方針と重点説明
西	6	1	地域2 PTA3 学校2	学校経営方針　いじめ防止基本方針
陵	12	19	地域2 PTA3 学校2	全国学テ結果　土曜授業状況　学校評価進め方
中	3	7	地域4 PTA1 学校2	学校評価結果　コミスク取組反省
鷲	6	11	地域6 PTA1 学校5	学校経営方針　今年度の土曜授業
別	10	30	地域4 PTA0 学校5	３つのコミュニティごとの活動反省と次年度の展望
中	2	24	地域4 PTA0 学校2	学校評価結果
登	6	10	地域5 PTA1 学校3	学校改善プラン説明　職場体験学習　熊舞発表関係
別	11	26	地域4 PTA1 学校3	（小学校と合同）全国学テ分析　放課後学習会　キャリア教育
中	2	23	地域6 PTA1 学校2	学校評価関係　次年度の学校経営方針
緑	6	1	地域5 PTA6 学校3	協議会委員と設置要綱、計画確認　学校経営方針確認　意見交換
陽	8	27	地域4 PTA6 学校3	全国学テ結果と1学期分学校評価の報告　協議会計画意見交換
中	1	26	地域3 PTA3 学校3	2学期分学校評価と情報教育、全国体力調査結果報告　意見交換
	3	15	地域5 PTA5 学校3	次年度学校経営計画と学校改善プランの説明　意見交換

○教育フォーラム

平成27年11月6日(金)18:00～20:00　市民会館中ホール　参加者数93名（市民参加希望者含む）

・基調講演「地域とともにある学校づくり～コミュニティスクールと地方創生」

文部科学省コミュニティスクール推進員（国立大学法人北海道大学学務部長）出口　寿久氏

・登別版コミュニティスクール取組概要の説明　　市教委教育部学務主幹　　櫻井　貴志

・学校運営協議会委員による中学校区ごとのグループ討議

○各校の土曜授業取組状況　※原則として土曜授業は公開。

実践校

	月	日	1校時	2校時	3校時	備　考
幌	4	18	授業	いじめ撲滅集会		集会活動
別	5	30	授業	学校花壇づくり・ふれあい農園田植え体験		地域連携行事
中	6	27	授業	中体連報告会	いのちの大切さを学ぶ教室	集会活動
	7	11	授業	学力コンクール		学力向上の取組
	8	29	授業	学校祭事前集会	学校祭部門活動	学校祭準備
	9	12	授業			合唱中間発表(音楽)
	9	26	授業	地域合同避難訓練（東小参加）		地域連携行事

	10	31	授業			ふれあいデー
	11	7	授業	校内主張大会		ふれあいデー
	12	12	授業		いじめ撲滅全校集会	集会活動
	1	23	茶道体験	授業		地域連携行事
	2	6	授業		学級懇談	参観日　学級懇談

協力校

	月	日	1校時	2校時	3校時	備　考
幌別小	7	11	短縄チャレンジ			短縄以外、版画写生会他
	8	29	写生・版画			文化的行事
	9	26	授業			アイヌ文化学習（4年総合）
	11	7	授業			修学旅行プレゼン(5・6年)
登別小	4	18	授業			PTA総会　学校運営説明
	8	29	OMB練習・収穫祭	体力テスト	授業	地域行事参加(地獄祭り)
	10	3	授業			登別地区総合防災訓練中止
	10	31	授業	すもう学習まとめ	道徳一斉授業	ふれあいデー
若草小	7	11	授業		体力向上	チャレンジテスト・縄跳運動
	8	22	授業		安全指導	チャレンジテスト・集団下校
	9	12	授業	学力・体力向上	津波対応避難訓練	縄跳運動・地域連携行事
	10	31	授業			ふれあいデー
	11	14	授業			チャレンジテスト活用
	12	5	授業		大掃除	チャレンジテスト活用
鷲別小	6	27	授業		学級懇談	参観日・宿泊研修説明
	8	29	芸術鑑賞会		授業	新体育館落成記念芸術鑑賞
	10	31	授業			ふれあいデー
	12	5	授業		学級懇談	参観日
幌東小	8	29	授業			東っ子タイム発表会
	10	3	地域合同避難訓練(幌中参加)			地域連携行事
	10	31	授業			ふれあいデー
	12	5	授業			参観日
幌西小	7	11	全校体力テスト			
	8	29	授業	地震津波避難訓練（西陵中参加）		地域連携行事
	11	7	授業		ケータイ教室(保護者も)	ふれあいデー
	12	12	標準学力検査　保護者対象アウトメディア講演会		長縄大会	講演会はPTA主催
富岸小	5	9	防犯教室		集団下校	
	9	26	津波避難訓練		学級活動	地域協働避難訓練
	11	7	授業			ふれあいデー
	12	5	小中連携事業		学級活動	緑中吹奏楽部演奏会
青葉小	5	9	授業	火災避難訓練	授業	
	6	27	授業		保護者引き渡し訓練	保護者参加
	9	26	授業	芸術鑑賞会		文化的な全校行事
	11	7	授業			ふれあいデー
西	7	11	授業	地域清掃		地域連携行事

陵中	8	29	授業	地震津波避難訓練(幌西小参加)		地域連携行事
	11	7	授業			ふれあいデー
	12	19	合格祈願餅つき			地域連携行事
鷲別中	7	11	授業		学級活動	チャレンジテスト活用
	8	29	学級活動	授業	道徳一斉授業	
	11	7	道徳一斉授業	生徒総会		ふれあいデー
	12	5	学級活動・道徳	道徳一斉授業	生活向上集会	
登別中	4	11	授業		学級懇談会	
	7	18	地獄祭り練習			地獄祭りオリエンテーション
	10	3	授業		立会演説会	登別地区総合防災訓練中止
	10	31	授業			ふれあいデー
緑陽中	7	18	授業			参観日
	7	25	安全指導	終業式	学級活動	全校一斉防犯教室
	9	26	授業			参観日
	11	21	授業	初めての雅楽講演会		文化的行事

※幌別中アンケートより

(生　徒) ・普段、なかなかできない体験を地域の人たちとできることが楽しい。

・地域にいろいろなことを教えてくれる人がいることがわかった。

(保護者) ・地域との合同避難訓練は、一緒にすることで意味があると思った。

(地　域) ・地域との活動は、細く長く続くのがよい。単発な取組は、地域は望まない。

評　　価	「登別版コミュニティスクール」に取り組んで２年が経ち、市内全小中学校で年３回程度行われる学校運営協議会では熟議がなされる基盤がつくられてきた。また、協議会委員間の交流を図るために教育フォーラムを開催することで、携わる方々の参画意識の向上につなげることができた。 子どもたちの土曜日の教育環境を整える「土曜授業」は、実践校で年10日、協力校各4～６日行い、学校支援地域本部事業と連携して、多様な教育活動を展開し、土曜日の学習環境と平日の教育活動の充実を図ることができた。
今後の方向性	「登別版コミュニティスクール」の一層の定着を図るために、各学校の運営協議会の活動が円滑に進むよう支援していくとともに、必要に応じて中学校区ごとの合同の運営協議会開催も視野に入れてもらうよう促していく。また、土曜日の学習環境のさらなる充実の一環として、土曜授業の実施を継続していく。

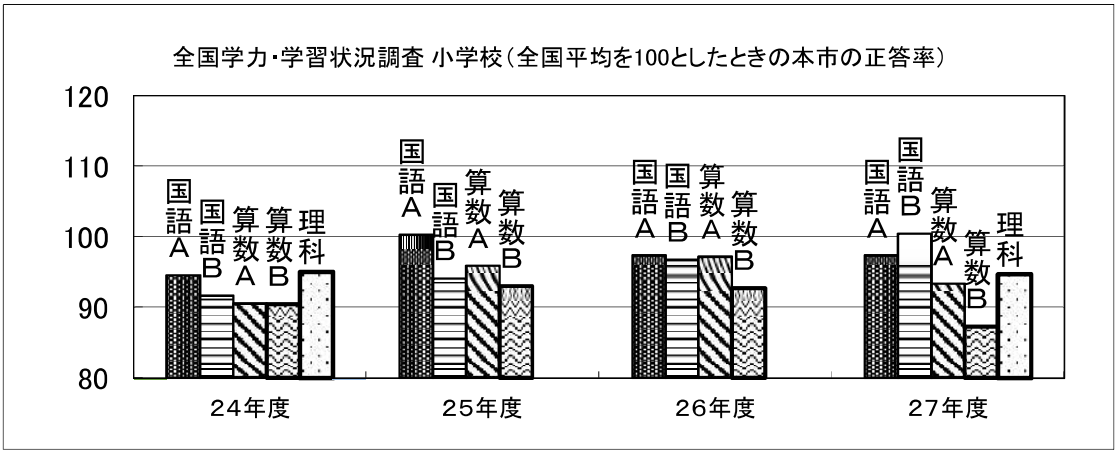
項　　目	**2　確かな学力の向上**
点検内容	「学ぶ意欲」、「活用する力」、「学習習慣の確立」を各学校の共通目標に掲げ、指導方法や指導内容に対する工夫改善の取組を支援するとともに、「学習教室」ではテキスト問題の提供や指導のサポートを行うとともに新たな教室の開設を図る。

取組状況

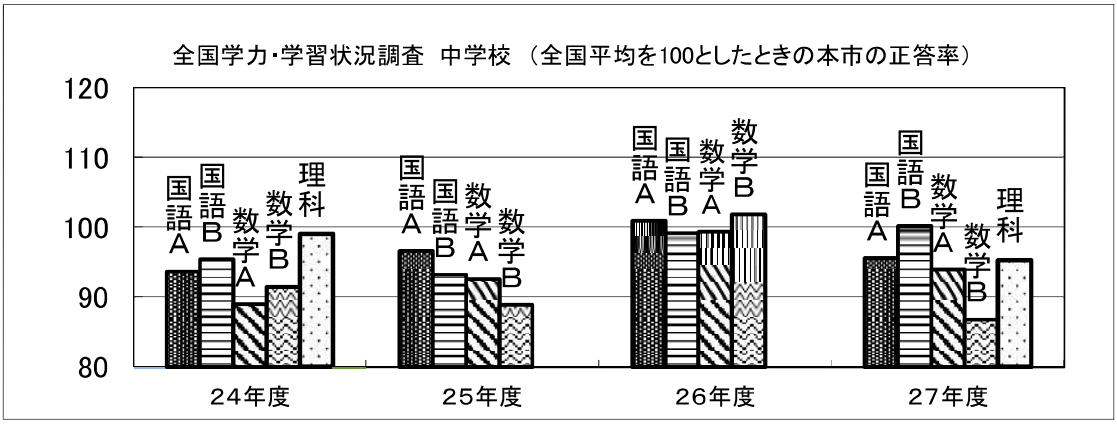
○全国学力・学習状況調査　市内小中学校結果分析と市の課題の明確化

(1) 全道平均を１００とした時の登別市の正答率の状況

小学校　・国語Ｂで全国平均正答率を上回っている。領域別では国語Ｂの「書くこと」で同様の結果が出ている。算数Ｂの「数と計算」「量と測定」「数量関係」は、全道や全国の平均正答率を下回っている。理科は３年前とおおむね変わらない状況。

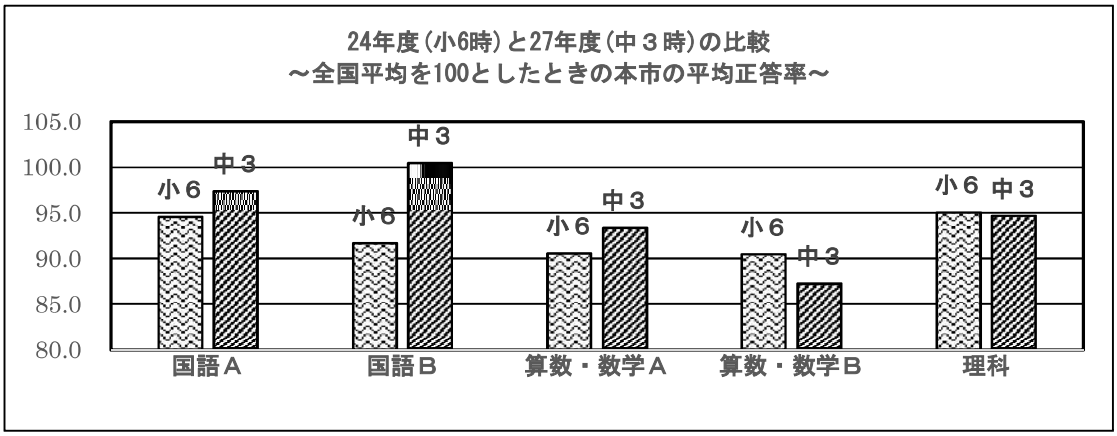


中学校　・国語Ｂで全国平均を上回っている。領域別では、国語Ｂの「話すこと・聞くこと」、「書くこと」は全国平均正答率を上回っている。数学Ｂの「図形」「関数」「資料の活用」は、全道、全国の平均を下回っている。



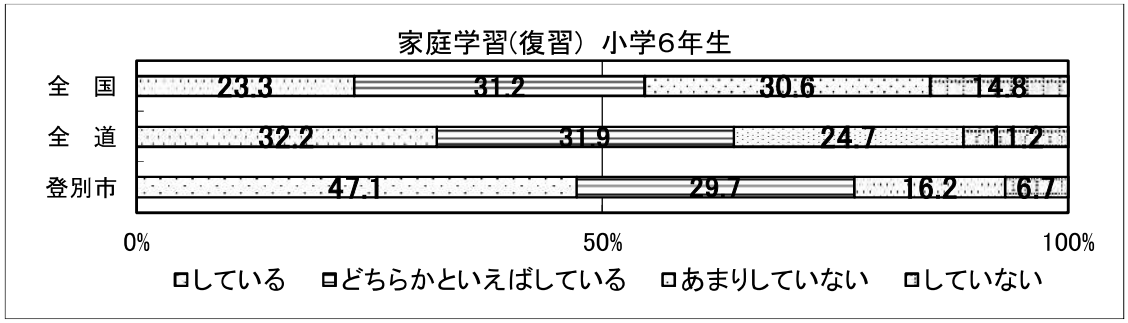
(2)小学６年時と中学３年時の変容

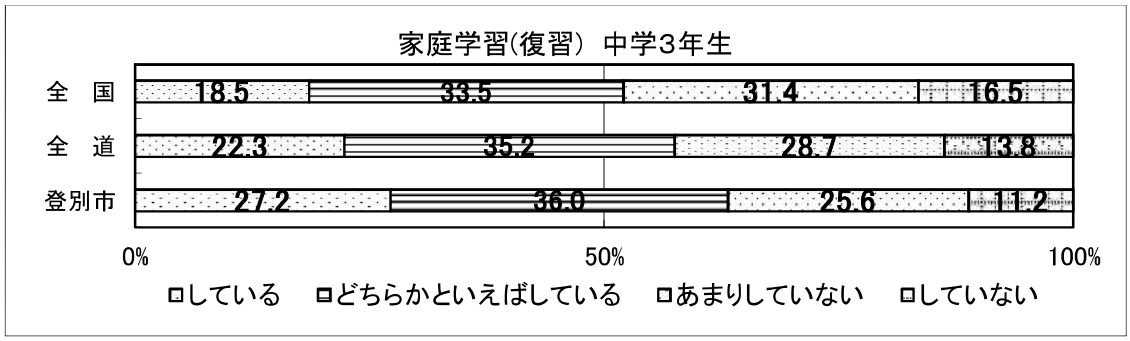
国語ＡＢと算数・数学Ａにおいて、小学校6年生の時から大きく改善が図られている。



(3)児童・生徒質問紙から

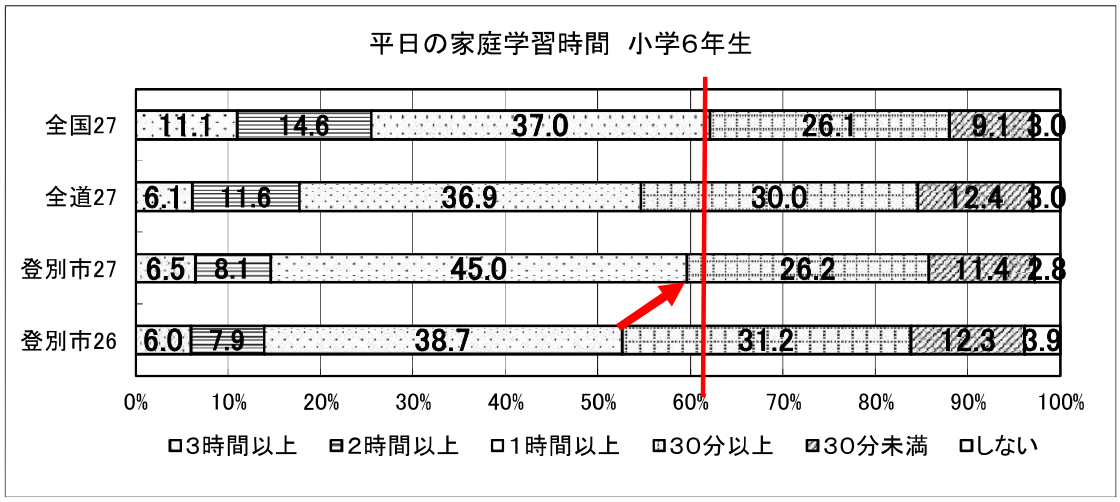
家で、学校の授業の復習をしている児童生徒の割合は、小中ともに全道や全国よりも高い。



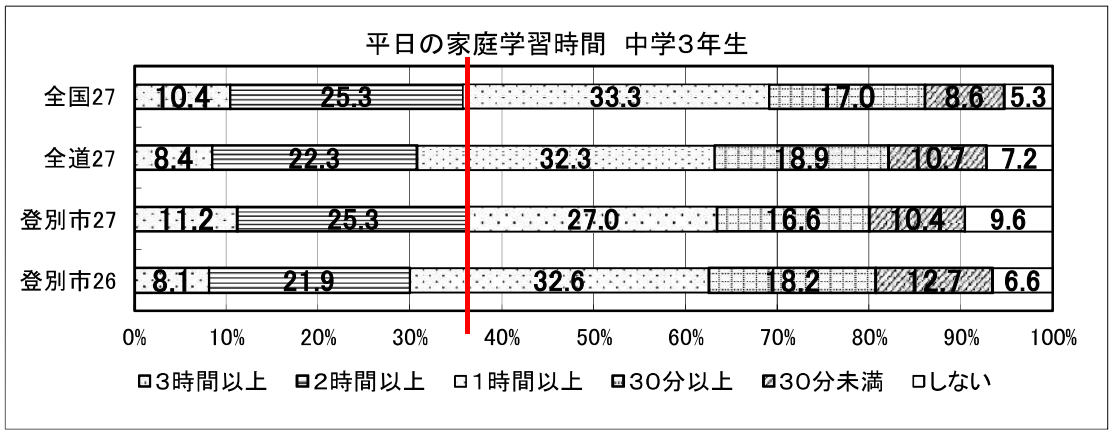


「１日の家庭での学習時間」全国･全道と本市（26・27年度）の比較

小学校は、「1時間以上」学習する割合が大きく伸びた。全道平均を超え、全国平均に迫っている。



中学校は、2時間以上学習している割合が全国を超えているが、「しない」割合も多い。



○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会～参加者：校長・教頭・学力担当教諭

第1回～6月23日　「３つの基本目標」と「８つの具体的な取組」の確認
各校自己採点データによる市教委分析　自己採点を受けての学力向上対策交流

第2回～11月20日 クロス(学力と学習状況)集計からの市教委分析　中学校区ごとの対策交流

第3回～1月20日　秋田県由利本荘市教育委員会教育長　佐々田亨三氏による秋田の学力向上の取組や、胆振教育局教育支援課長　川端香代子氏による管内の取組状況の説明・協議

②学習支援専門員の配置と学校支援

・配置　教育指導室に２名

・取組　４月　全国学テに向け「心構え」「復習問題(国・算数・理)」作成と各学校に配布
放課後学習教材「鬼っこチャレンジテスト」小学校用の改善と、中学校用の作成

７月　放課後学習開始に伴い、幌別東小に全学年分の問題提供
小中学校夏休み学習用「鬼っこチャレンジテスト」の作成と配信

2学期 全国学力・学習状況調査における登別市の結果からの分析と考察、資料の作成

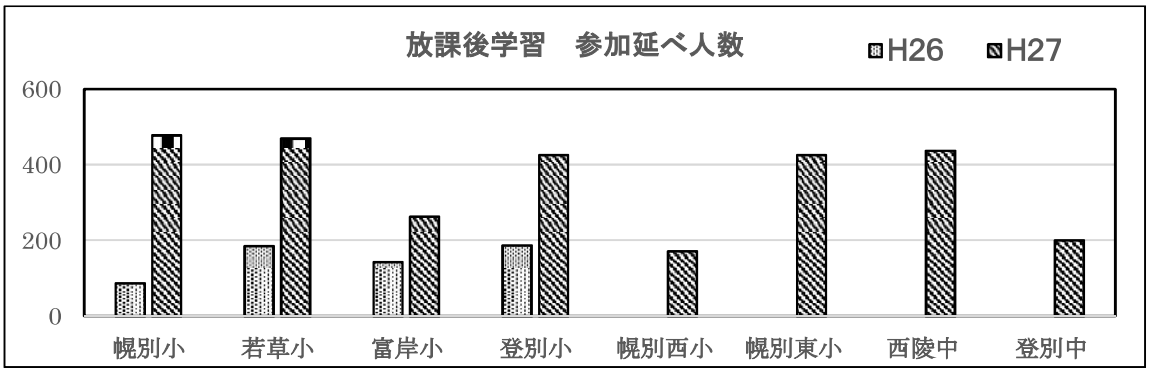
12月　小中学校冬休み学習用「鬼っこチャレンジテスト」の作成と配信

３月　「鬼っこチャレンジテスト」の改善

※随時～放課後学習の運営　児童生徒のつまずきに対応した「ヒントカード」の作成と活用

・放課後学習の推進状況

学校名	登録児童生徒数	取組の状況	指導員数
登別小	5年25名 6年18名	H26.9月開設 11回実施 参加延べ426名	9名
富岸小	5年22名 6年38名	H26.10月開設 9回実施 参加延べ人数263名	13名
若草小	5年19名 6年17名	H26.9月開設 18回実施 参加延べ人数470名	11名
幌別小	5年20名 6年25名	H27.1月開設 12回実施 参加延べ人数478名	9名
幌東小	1年 7 2年12 3年11 4年15 5年12 6年14	H27.7月開設　8回実施 参加延べ人数425名	24名
幌西小	4年14 5年9 6年10	H27.9月開設 10回実施 参加延べ人数171名	4名
西陵中	2年11名 3年4名	H27.4月開設 3年40回2年27回実施 参加延べ人数437名	2名(37回、40回)
登別中	1年～3年	H27.4月開設 39回実施 参加延べ人数約200名	2名(33回、23回)



開設校～小学校４校から６校に、中学校も２校新設した。中学校での学習サポートは専門性が問われるため、退職教員等外部人材活用事業により教職経験者を指導員に充てて実施した。学習会に参加した延べ人数は、２年目の学校において大きく伸び、取組の拡大がうかがえる。

○平成２７年度　長期休業中学習サポート実施状況

学校名	名　称	期　日	時　間	対　象	教　科	参加〈人	内　容
幌別小	夏チャレンジ学習	7/27･28	9～11	４～６年	国語･算数	159	チャレンジテスト･課題などなど
	冬チャレンジ学習	12/25･28	9～11	４～６年	国語･算数	142	
鷲別小	夏ひなわし講座	7/24･27･28	10～11半	４～６年	国語･算数	のべ178	チャレンジテスト･苦手な問題
	冬ひなわし講座	12/25･28	10～11半	４～６年	国語･算数	のべ123	
富岸小	夏学習サポート	7/28･29	9半～11半	５～６年	国語･算数	約180	漢字･文章題･少数乗除など
	冬学習サポート	12/25･26	9半～11半	５～６年	国語･算数	約190	休業中の課題
登別小	サマースクール	7/27～29	9～11半	４～６年	国語･算数	のべ117	基礎的･発展的内容（チャレン
	ウィンタースクール	12/25・28	9～11半	４～６年	国語･算数	のべ80	ジテスト･過去問含む）
青葉小	学習サポート	7/27～29	10:～11半	５～６年	国･算･理	約70	チャレンジテスト･過去問題
	学習サポート	12/24～25	10:～11半	５～６年	国･算･理	約60	
若草小	若草学びタイム	7/27～29	10～11半	２～６年	国語･算数	のべ302	チャレンジテスト･過去問題
	若草学びタイム	1/14～15	10～11半	２～６年	国語･算数	のべ192	短作文指導･算数の復習
幌西小	夏学習サポート	7/27～29	9～11	４～６年	国語･算数	50	ドリル、漢字検定問題
	冬学習サポート	12/25･28	9～11	４～６年	国語･算数	50	
幌東小	チャレンジスクール	7/27･28･29	9:30～11:15	２～６年	国語･算数	のべ123	国語･算数のプリント
	チャレンジスクール	1/14･15･18	9:30～11:15	１～６年	国語･算数	のべ152	
幌別中	夏期講習会	8/17～19	8:40～11:30	１～３年	国社数理英	約110	学期の復習（課題となった内容
	冬期講習会	1/12・13	8:40～11:30	１～３年	国社数理英	約100	、学力委テストに向けて）
鷲別中	夏学習サポート	7/27～29	9:00～11:30	１～３年	国社数理英	160	･生徒持参の課題等
	冬学習サポート	12/24･25･28	9:00～11:30	１～３年	国社数理英	160	･教科担任作成のプリント等
緑陽中	夏休み講習会	7/27～29	9～12	３年	国社数理英	60	１～３年の学習内容
	冬休み学習会	1/6～8	9～15	３年	国社数理英	30	
西陵中	夏休み学習会	7/27～29	9:00～11:00	１～３年	国社数理英	120	学期の復習
	冬休み学習会	12/22･24･25	9:00～11:00	１～３年	国社数理英	120	２・３年数学特設・２年英語特設
登別中	サマースクール	7/27･28･29	9～11	１～３年	数英	約70	自主学習･３年特設学習
	ウィンタースクール	12/21～24	9～11	１～３年	国社数理英	約70	

事後アンケートより：「地域のボランティアの方が来てくれたのですらすら解けて楽しかった。」「家だと怠けることがあるけれど、しっかり復習することができた。」等

評　価	全国学力・学習状況調査では、小中共に国語Ｂにおいて全国平均正答率を超えることができた。反面、算数や数学には課題がみられた。小6時と中3の比較では、3科目において大きく改善がみられた。家庭学習に関しては、時間や復習の割合などからも改善が進んでいる。教育課程課題検討委員会では、市内13校で課題を共有し中学校区で実践を交流することで、学ぶ意欲の向上や活用する力の指導法の改善につなげることができた。　放課後学習実施校は、昨年度4校から8校に増え、中学校でも開設することができた。学習支援専門員や地域ボランティアによる学校支援が効果を上げている。各学校では長期休業中の学習サポートも継続的に取り組んでおり、授業以外での学習の場の充実を図ることができている。
今後の方向性	引き続き校長会と共同で設置している教育課程課題検討委員会で協議を重ね、確かな学力の向上に向け指導の改善を促していく。また放課後や長期休業中の学習の機会の拡大や取組内容の充実を図り、児童生徒の基礎学力の定着や学ぶ意欲の向上に努め、小中学校ともに市内平均が全国平均と同等以上をめざしていく。

項　　目	3　教職員の資質能力向上
点検内容	「学校力向上総合実践事業」の成果が市内各学校に還元されるよう図るとともに研究実践奨励校の指定や巡回指導教員活用事業などの取組を進めると同時に、新しい学習スタイルに対応するための研修機会の充実に努める。

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域・教科	研　究　主　題	年度
幌別小	学習指導	確かな学力を育てる授業の創造～教師の授業力向上を目指して	26･27
登別小	学習指導	ことばを大切にして意欲的に学ぶ子どもの育成	26･27
富岸小	学習指導	一人一人が主体的に学び、共に高め合う子の育成	26･27
幌別中	その他	豊かな人間力を育てる教育活動の実践 ～学力向上と人間関係力の育成を目指して	26･27
幌西小	学習指導	一人一人の子どもが生き生きと表現しようとする学習過程の研究 ～国語科「書くこと」領域における指導を通じて～	27･28
若草小	道徳教育	自分で気づき、よりよく生きようとする心豊かな子どもの育成	27･28
鷲別小	学習指導	わかる・できる喜びを味わい、共に考えることが楽しい学習を目指して 通常学級サブテーマ：子どもの実態に合わせた算数の授業づくりを通して 特別支援学級サブテーマ：日常生活に役立つ算数の授業づくりを通して	27･28
青葉小	学習指導	進んで考え、伝え合う子どもの育成 ～算数科における問題解決的な学習の充実を通して～	27･28
鷲別中	学習指導	「主体的に学び、活用する生徒の育成」 ～自らの考えを表現し、互いに交流する活動を通して～	27･28
西陵中	学習指導	「向上心を持ち、学習に励む生徒の育成」 ～生徒の学ぶ意欲を引き出す（授業の）指導家庭の工夫を通して～	27･28

※公開研究会　11/11 登別小　11/13 富岸小　11/17 幌別中　2/5 幌別小

○巡回指導教員活用事業

巡回教員：辰田晃幸教諭　　本務校　若草小学校　　兼務校　鷲別小学校・幌別西小学校

学校名	若草小		鷲別小		幌西小	
指導教科	国語・算数		国語・算数		国語・算数	
指導学年	２年	６年	１年	５年	４年	６年
年間指導時数	１８９	１８８	７６	３９	４５	４５
若手教員	河田教諭	本間教諭	千田教諭	大岡教諭	高田教諭	幅田教諭

年間の指導時数合計：582時間　若手教員数6名

・取組の内容

チャレンジテストを活用した基礎・基本の確実な習得　家庭学習の手引きによる家庭学習の充実

１単位時間におけるタイムマネジメントの徹底　課題解決的な学習における指導方法の工夫と改善

教材、教具の効果的な活用とその作成　など

・成果　①若手教員への具体的な指導の実現

教科指導と教材研究が効果的かつ効率的に行うことができるようになった。

②全校体制での若手教員指導体制の確立

研修部によるブロック研修を中心に、若手教員の授業力の育成を進めることができた。

③定量的な評価が可能な指標の設定

アンケート結果を活用し、学習に対する意欲や内容を理解する力を高めることができた。

④文科省・国研及び道教委の指導資料等の活用

全国学力・学習状況調査の分析結果を生かした授業改善が定着した。過去問題の活用で定着が不十分な部分を意識して指導することができた。

○地域連携研修事業

視察研修　10/30・31　松村教諭・髙橋教諭（幌別中）

福井大学教育地域科学部付属中学校・北海道教育大学附属函館中学校

11/30　安宅校長・牧野教諭　(富岸小)

秋田県由利本荘市教育委員会・子吉小学校・由利中学校

登別市・白老町地域連携研修主体校報告会　1/13　14:00～16:00　市民会館大会議室

発表内容　由利本荘市の教育と2校の実践(学力向上・コミスク・特色ある教育活動)

アクティブ・ラーニングによる具体的な指導の在り方

参加者数　幌別小3名　幌西小3名　幌東小2名　鷲別小2名　青葉小4名　若草小1名　登別小4名

富岸小4名　西陵中3名　幌別中7名　鷲別中3名　緑陽中4名　登別中1名　白老町9名

○学校力向上に関する総合実践事業実施報告書(概要)　実践指定校～幌別小　近隣校～幌西小・幌東小

	具体的取組内容	実施内容及び成果	到達目標の結果 （　）：昨年度
教育課程等	○学力向上プランの策定 学校・学級プランの作成 ○児童の実態、学力調査の結果分析による学力向上プランの改善の実施　4回 ○学力向上に関わる学年学級経営交流会議～学期毎実施	○各学級でプラン作成。 １学期＝全国学テやＣＲＴ分析,日常の見取り踏まえて作成 ２学期＝単元テスト等学級の実態を関連させ手立てを修正 ３学期＝総括として、年末に成果と課題をまとめ可視化した。 ○学級・学年ごとの児童の実態を基に効果的な指導の在り方を探るため、学級学年経営交流会を各学期で実施し職員間で学び合い、検証を行った。	○保護者アンケート 「授業分かりやすい」 84.6%。(90.6%) 「ＴＴ等の指導形態の工夫」96.6%。(95.2%)
	○全国学力調査の自己採点結果による分析 ↓ 学力向上プランの改善	○複数教師で即日採点、教務分析、翌朝実態と傾向を全教職員に提示。補充指導に役立てる。８月結果到着後に再分析、指導の方策再提示。学年にも分析を行わせ学力向上プランの改善につなげ指導の手立てを焦点化した。	○分析と評価は年間2回実施。再指導ポイントのもと学年で分析し改善に取り組んだ。
	○標準学力検査（教研式ＣＲＴ）等の実施と分析	○対象は２～５年。算数科では領域により定着が不十分な部分あり言語活動を軸にした授業づくりを継続する。	○単元テスト正答率～数学的な考え方78%で課題
	○授業力を高める校内研修の充実	○年3回以上の研究授業を個々の教員が実施した。日常的に教員同士が学び合う環境の充実が図られた。	○全体9回 ブロック別22回 テーマ別9回 学年36回
	○子どもの実態に基づいたTTによる指導の推進 ○指導重点単元の設定とTTによる指導の推進	○日常から学級担任とＴＴ担当が連携して学習計画を策定し、共通理解のもと指導に当たることができた。 ○グループ別や習熟度別など、指導形態を工夫した授業展開を行うことができた。	○ＴＴ指導時数 国語:588時間(616時間) 算数:599時間(615時間) 理科:448時間(521時間)
	○長期休業における補充的指導の機会の設定、個に応じた指導	○長期休業中は、夏季冬季２日間補充学習を実施した。 ○配信のチャレンジテスト、サポート問題等のほか個の実態に応じた学習内容(教科書の復習等)を取り上げた。	○４～６年 夏季:のべ159名(143名) 冬季:のべ142名(166名)
	○補充的な学習指導時間の設定	○放課後学習を年12回実施し補充的な学習をさらに充実させた。学校支援地域本部コーディネーターと連携し9名の地域の先生に指導いただいた。	○5年生20名、6年生24名参加。市教委と連携して実施。
	○発達の段階に応じた「学習の約束」の作成	○全校で基本の型を設定し、学年の発達段階に合わせて修正を加え、統一性のある指導を行うことができた。	○保護者アンケート「授業分かりやすい」84.6%

	○9年間を見据えた学習用具の統一	○幌別中と幌東小と連携を深め、共通理解のもと指導をそろえることができた。	(90.6%)前年度比－6%
	○家庭での生活習慣づくりチェックシートの作成	○3年生以上で月2回実施。家庭学習の習慣化で効果があった。家庭を巻き込み生活改善を図ることができた。	○活用率90%(95%) 提出率75%強
	○学習環境整備や学習規律を定着させるための教師の自己チェックシートの作成	○授業内容、学級経営、行事指導などのチェックシートを作成。結果を可視化し改善方向を示すなどして、職員全体の意識向上につなげることができた。	○活用率100% 自己評価に基づく面談実施
	○特別な教育的支援を要する児童へのきめ細かな指導	○校内委員会で実態を共有し、個に応じた支援体制を確立することができた。 ○学習会の内容を生かし児童の実態把握を丁寧に行うことができた。若手教員に特に効果があった。	○年6回の指導公開.協議 関係教員等11名参加の ミニ研修実施
	○新体力テストの実施と分析 体力向上プラン策定と実施 ○全校短縄チャレンジタイム ○学級全員による長縄跳び ○体育での持久走等の継続	○種目数～6年2 5年8 3.4年4 1.2年1 実施。 ○過去3年間比較で5年生反復横とびなど平均値伸びた。 個々の目標設定と体育コーディネーター活用～効果的 ○体育の準備運動として年間継続　土曜授業で取組紹介 ○体育や、中休みや昼休みに日常的に実施 ○体育の準備運動で継続的に取り組み効果を上げた。	○5年女子50m走以外で全国平均超える。上体起こしや反復横とびの数値が全体的に伸びた。 ○全校平均200回以上 ○持久走上昇傾向
	○近隣の小学校間の連携	○授業参観等、近隣小学校と学期1回以上の交流を行った。意図的な交流の継続が重要であることを確認した。	○東.西小より2回2名 東.西小へ2回1名
	○幌別中との接続を見据えた授業交流や情報交流	○ソーシャルスキル育成・外国語活動で出前授業を実施し、中学校への接続のための環境整備を進めた。 ○統一した学習規律の運用に基づく効果を再確認した。	○情報交流年3回、出前授業年1回実施。 ○協議は年３回実施
	○登別市幼保小連携協議会に参加するなど連携教育の推進	○引継ぎや日常の情報交流を行う。学級編成などの共通理解等に役立てることができた。	○連携協議会全て参加 幼稚園来校と訪問実施
地域・家庭との連携	○学校支援地域本部事業のコーディネーターとの連携を図った体験的な活動の充実	○児童の読書環境充に向け図書ボランティアによる図書館運営支援を行っていただいた。放課後学習やスキー学習、交通安全等でボランティアに支えていただいた。	○図書3名(9名) スキー14名(14名) 放課後学習12回実施
	○学校支援地域本部事業のコーディネーターを中心とした水田での体験活動の推進	○田植え、稲刈り、収穫祭などの体験活動を推進。地域の方の協力による乗馬体験も計画通り実施できた。	○田植え46名(30名)、稲刈37名(20名)、収穫祭55名(23名)乗馬体験31名(19名)参加。
	○コミュニティー･スクール制度の積極的な活用	○学校運営協議会での熟議により、幼保小中や地域との連携をさらに進め、地域とともにある学校づくりを一層推進することができた。	○年3回の学校運営協議会を実施。授業参観後に行った。
	○地域と連携した土曜日の活用の在り方を見直し	○保護者や地域の方へ公開し、本校教育活動を理解していただくよい機会となった。土曜日を有意義に過ごすことの大切さを保護者や地域の方と共有できた。	○年4回、計画通りに実施した。
人材育成	○若手教員やスクールリーダー育成	○管理職による毎日の授業参観と指導 ○校長との授業研究と協議 ○若手層のみの短時間研修の実施	○毎日複数回実施 ○初任段階教員8名実施 ○日常的に実施
	○初任者研修等自校実施 ○テーマ別研修への近隣実践校教員の受け入れ	○日常の授業実践を中心とし、初任段階教員対象で実施した。校内や近隣校教員を講師としテーマ別研修実施。 ○実践につながるテーマ別研修を実施した。近隣校初任段階教員だけではなく管内２年次研修も受け入れた。	○初任者研修191時間 （うち授業実践23回） ○21回実施。 （うち近隣校10回実施）

	○日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化	○算数科では学年系投票や算数用語を整理し、探究型の授業を目指して授業改善を進めることができた。 ○市教育実践指定校として2月に学校公開を行った。	○ＴＴ指導研究授業3回 道徳研究授業３回他 ○幌中からも3名参加
	○通常学級在籍で支援が必要な児童への指導における研修	○学習会で特別支援教育の意義を再確認し、実際に則した実践的な研修を展開した。	○市特振協に関わる研修会や合同学習会参加
その他	○学校の改善サイクルの実質化と迅速化 ○外部からの継続的な助言指導と教育課程･指導方法の普段の見直し	○学校経営方針と学年や学級経営案の重点をリンクさせることで経営方針を意識した指導が全学級でなされた。 ○6月･11月 教育局指導班 学校経営や授業づくり助言 7月 岩井指導監による助言。学校力事業アドバイザー菅松久氏による助言。市内教職員に講演。 12月に同アドバイザー水上氏来校、助言。2月講演。	○改善サイクルは、前後期で年2回実施 ○いずれも授業参観の後に具体的な助言をいただいた。
	○道研との連携 ○外部からの継続的指導助言 ○成果や課題の積極的発信の研究成果の掲載 ○児童と向き合うための時間の確保	○学校力向上道南ブロック研で鈴木氏から助言受けた。 ○指導主事からの学校教育指導に基づき教育課程や指導方法等見直しを継続した。 ○視察の積極的な受入れと取組紹介、ＨＰでの研究成果の掲載 ○会議の効率的な運営、加配事務職員の活用、定時退勤デー（月2回）の設定などに取り組んだ。	○年3回の訪問 のべ６名来校 ○局10名.本別町7名.日高町6名.秋田県教委.秋田県由利本荘市 他

評　　価	学校力向上総合実践事業では、包括的な学校運営のあり方についての研究を進めるとともに、到達目標を明確にした取組を推進し、その成果をテーマ別研修等や近隣校との交流を通し広く発信した。 教育実践研究奨励校には、昨年度より1校増え、10校が研究に取り組むとともに、4校がその成果を広く公開し、研究の質を高め合うことができた。 巡回教員活用事業では、今年度も若手教員の具体的な指導を継続して行うことで高い効果を上げた。地域連携活用事業では、視察の報告を通し新しい学習スタイルに対応するための指導法の啓発につなげることができた。
今後の方向性	継続される「学校力向上に関する総合実践事業」や「地域連携研修事業」等の成果を市内各学校に還元する取組を一層促すと同時に、主体的に研究を進める「研究実践奨励校」の活動を支援していく。また、子どもたちが主体的、協働的に学ぶ新しい学習スタイルに対応するため、研修機会のさらなる充実に努める。

項　　目	**4　豊かな心の育成**
点検内容	子どもたちの「生命を大切にする心」や「他人を思いやる心」「善悪の判断」「規範意識や公共心」の醸成を図るため、自然体験や社会体験、ボランティア活動など体験活動の拡充に努め、道徳教育が推進されるよう支援する。

取組状況

○自然体験や社会体験、ボランティア活動など、豊かな心を育む体験活動

幌別小学校	通年　全学年による学級園を中心とした栽培活動 3年生による花壇への花の移植、草取り 通年　児童会活動として、リングプル・牛乳パックのリサイクル活動 4/10 青空教室(交通指導員の協力)　4/17 安全指導集会(講師：室蘭警察署員) 5～12月　幌中地区ふれあい農園　5/30田植え 10/3稲刈り 12/19収穫祭(小中学生・地域の方170名参加)

	6/17 4年生 水道出前教室 7/13 2年生 世代間交流　昔の遊び体験　16名の地域の方が協力 8/25 スマホ･ケータイ安全教室(5･6年)　講師：携帯電話会社担当者 9/26 アイヌ文化学習 4年生 市内アイヌ文化活動アドバイザー協力 9/27 乗馬体験(学校支援地域本部事業) 10/28 4年生総合 見学学習(白老アイヌ民族博物館) 11月 5年生総合(福祉の学習)　11/11しんた21(施設見学・車いす体験) 11/17 障害者団体による講話 12/21 非行防止教室 5･6年　(いじめ･ＳＮＳ･万引き･飲酒･喫煙･危険薬物)　講師：室蘭警察署員 2/8 4年生総合 地域学習(外部講師による講話) 2/9 5年生総合 認知症キッズサポーター養成講座
幌別東小学校	児童会によるリングプルの回収や「ほメッセージ」「ほめポスト」活動 学級園を中心に栽培活動　校外班による校区の清掃活動 ふれあい農園 5/30田植え 10/3稲刈り 12/19収穫祭 郷土芸能「幌別駒踊り」の継承 鉄南地区文化祭参加「東小マーチ」披露 3年 ドーピー建設工業やカント・レラ、地獄谷見学 1･2年世代間交流「ふれあい集会」 5年総合的な学習の時間（福祉）～介護施設「ツクイ」へ行き、お年寄りと交流
富岸小学校	5/9 命を守る学習 防犯教室 マクドナルド若草店の協力 花壇や学年園、生活科での栽培活動 玄関ホール・各教室での飼育活動 キウシト湿原学習 3年生 年2回実施 春秋の湿原観察や外来植物の駆除 クリンクルセンターとアイヌ民族博物館見学 4年生 亀田公園での自然体験活動　児童会によるリングプル回収、牛乳パックリサイクル 児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動 交通指導員感謝の集い　全校児童によるお礼の手紙贈呈 世代間交流　6/19　1年生　昔の遊び講座　地域の方20名参加 ふれあい農園活動　2年生・特別支援学級 富岸川遊び　ボランティアレンジャー河上氏・富岸町内会協力 認知症サポーター講座　4年生　親子もちつき大会
青葉小学校	5/15　キウシト湿原の会の方による出前授業（４年生） 5/21　ニジマス稚魚放流（１年生）　青葉スケートリンク実行委員会や地域の方 5/23　ネーチャーガイドによる出前授業（５年総合） ふれあい農園 5/12 2年生種イモ植え 8/28収穫祭「畑の先生」招いて感想発表 11/9 キウシト湿原での自然体験学習（４年生） 11/25　３年生社会科見学（酪農館・望月製麺・道南食品での見学と体験学習） 9/16 世代間交流 1年生 昔の遊び体験後、地域の方と給食交流 9/26 芸術鑑賞会 こぶし座によるアイヌや沖縄、日本古来の伝統音楽を鑑賞 9/28 製鉄体験 火伏せの儀式や鉧出し 5年生室蘭・登別たたらの会指導 牛乳パックやリングプルの回収 10/29 ニジマス釣り 6年生 青葉スケートリンク実行委員会や地域の方 11/27 クラブ感謝の会　講師の方24名に代表から感謝の手紙贈呈 2/1　６年生福祉学習（車いす体験、しんた２１利用者とのふれあい） 2/12　視覚障害者による出前授業

		2/4 4年生 虎杖浜水産工場でのたらこ詰め体験 アイヌ民族資料館や仙台藩白老元陣屋資料館見学 2/17　認知症サポート講座（5年生） 3/22・23 鉄の鍛錬を体験 5年生 室蘭・登別たたらの会指導
	若草小学校	5/12・14 3年生～6年生 自動車学校で自転車乗車・トラック内輪差・車の視覚等交通安全体験実施 5/28 ふれあい農園開園 1・2年生と地域の方でジャガイモの苗を植える 6/9 5年生・6年生 札幌交響楽団のコンサート鑑賞会に参加 年間を通して、児童会美化委員会が中心となり家庭や地域に呼びかけて「リングプル回収」活動を実施　6/26 恵愛病院に車椅子１台寄贈する 年間を通して、学校給食の牛乳パックを毎日、全学級で洗浄・乾燥・整理して回収業者に出している 7/16 世代間交流 2年生と地域の方が昔の遊びを通して交流　その後一緒に給食 7/23 茶の湯体験 6年生 表千家茶道教授 佐藤鉦淑子氏 市文化協会6名 9/ 3 ふれあい農園　1・2年生ジャガイモ収穫 10/21・22 4年生 福祉体験学習実施 車椅子乗車体験・点字読み書き体験・視覚障害者の生活体験 10/24 幼児1年生～6年生 ふれあい活動（昔遊び体験）を実施　地域教育協議会主催 10/31 ふれあい農園 ジャガイモ収穫祭 1・2年生が「畑の先生」を招待 11月上旬 町内会文化展　5会場(若草・美園・美園南・旭が丘・鷲別地区)に作品出展 11/20 いぶりＯＮＥと学ぼう！北海道新幹線出前授業　全校生徒 11/28 幼児1年生～中学生 ふれあい活動（餅つき・消防署見学）を実施　地域教育協議会主催
	鷲別小学校	下校時の地域のゴミ拾い(空き缶)～児童会が企画　世代間交流　牛乳パック回収 小動物の飼育や学級園の栽培活動 2/17 6年生が「鷲別子ども見守りたい」に感謝状贈呈 施設見学～アイヌ博物館　郷土資料館　室蘭青少年科学館　クリンクルセンター 各種講座～認知症サポーター講座　出前福祉講座　水道出前授業　縄文出前講座 食育教室　携帯電話・インターネット安全教室　邦楽鑑賞会 幼保小交流（学芸会に鷲別保育所とリリー文化幼稚園招待）
	幌別西小学校	4/10　縄文出前講座 6年生対象 7/10　邦楽鑑賞会 6年生対象 三曲協会による琴や尺八演奏指導 7/14　世代間交流 2年生対象 昔の遊び講座 7/15　ふれあい清掃 児童会によるリングプルの回収 11/27 北海道日本ハムファイターズ登別応援大使(中島選手・岡選手)との交流 12/6　第11回障害者週間記念事業で5年生約50名が体験発表 11/19 「未成年者喫煙防止講座」（6年） 11/7　「ケータイ安全教室」（5・6年） 11/24, 12/2, 12/16 「福祉の学習（総合的な学習）」（5年） 12/17 「認知症サポーターキッズ養成講座」（6年） 12/10 「租税教室」（6年） 2/19　「スキー学習」（5・6年） 4/17, 4/23 「交通安全教室」（全学年） 5/13　「校外班集会・集団下校」（全学年） 9/2　「栄養教諭食育授業」（4年） 9/17　「アイヌ文化学習」（4年） 11/11 「栄養教諭食育授業」（2年）

	登別小学校	児童会を中心に校区内公園清掃などの奉仕活動　リングプル回収 ふるさと農園　学級園等での栽培・育成活動　小動物とのふれあい活動 認知症サポーター講座、世代間交流（1年生） ＯＭＢ、地域行事（7月わくわく広場 8月地獄まつり）参加 5/9 サケの放流体験　希望生徒や保護者、地域の方参加 9/9 中村中氏を授業に迎え合唱練習 翌日市文化・スポーツ振興財団主催の同氏 コンサートで合唱披露し共演　希望児童15名参加 10/17 サケの採卵体験　登別さけ・ますふ化場　児童5人保護者他計13人参加 12/1　ＯＭＢ定期演奏会　5・6年生　保護者参観 12/11 邦楽鑑賞会 6年生 三曲協会による琴や尺八演奏指導 1/13　ものづくり体験教室～モザイクアート体験(児童や保護者の希望者) 2/2　豆まき集会～いじめ撲滅や交通安全に対する標語作成
	西陵中学校	7/11 校区内清掃活動 生徒会による書き損じはがきやペットボトルキャップの回収 10/22 海星学院生を招いての震災ボランティア報告会 10/7　保健師を招いての思春期教室～妊婦疑似体験2年生対象 10/27 1年職場訪問～新日鉄住金や自衛隊幌別駐屯所 10/29 2年職場体験～26事業所　10/20 3年職場訪問～25事業所
	登別中学校	校下の清掃奉仕活動（町内クリーン作戦）による地域の環境美化 性教育講座（妊婦体験） 8/21 幼児とのふれあい体験　3年生 8/26 ＪＲ登別駅で熊舞披露（外国人観光客向けに英語で紹介） 「一人一人が観光親善大使」の理念の下、英語版観光案内ＤＶＤ作成 8/29・30 地獄まつり参加　神輿や熊舞、吹奏楽演奏実施 10/23 AIRDO航空教室 全学年 航空関係の仕事内容を直接学習し職業観を深める 10/29・30 職場体験2年生 地域の事業所中心に13の職場で2日間実施 職場訪問 1年生 セイコーマートなりた店長成田氏による講話　11事業所訪問 3/18 お茶の間会議 地域の方と1年生がまちづくりについて意見交換
	緑陽中学校	ボランティア部による富岸子育てひろばでの幼児とのふれあい活動とケアハウスアンデルセンの丘でのデイサービス高齢者とのふれあい活動（毎週土曜日） 生徒会によるペットボトルキャップの回収 生徒会中心に「いじめ０運動集会」寸劇やいじめ撲滅宣言実施 10/20～29 富岸子育て広場での保育体験 対象:3年生121名 11/21 「はじめての雅楽」鑑賞会と演奏体験 北之台雅楽アンサンブル ２年生宿泊研修時における上級学校訪問・体験学習の実施
	幌別中学校	4/ 7 入学式でのおもてなし活動 4/18 いじめ撲滅集会　生徒会長によるいじめ撲滅宣言 5/10 登別こいのぼりマラソン手伝い～演奏やパソコン業務、給水、タグ受け取り 5/18 海老名市との調印式に参加　海老名市立大谷中と交流 6/23 「命とクルマ～遺された親からのメッセージ」全校生徒 講師：北海道交通事故被害者の会代表　前田敏章氏 8/19 10/10　登別温泉外国人観光客への観光ボランティア　防災ボランティア局 9/26 地域との合同避難訓練

		10/16 美術鑑賞出前講座（近代美術館） 10/22 ２年職業体験（セ・ジュネスでの入所者との交流、三愛病院での社会体験） 10/24 どさんこ☆子ども全道サミット地区会議　3年生2名参加 10/28 クリンクルセンターオータムコンサート開催　吹奏楽部 11/23 市制執行45周年記念夢フォーラムグループワークに2名参加 12/5 介護付有料老人ホーム セ・ジュネスで吹奏楽部演奏 ボランティア部手伝い 7/17 12/12 いじめ防止ありがとう集会 生徒会主催 メッセージコンクールなど ふれあい農園 5/30田植え 10/3稲刈り 12/19収穫祭170名参加 12/28 もちつきボランティア　セ・ジュネスに防災ボランティア局訪問 1/23 茶道体験　3年生　緑ヶ丘町内会女性部茶道サークルが協力 2/ 7 地域教育協議会音楽を楽しむ会（吹奏楽部出演）
	鷲別中学校	通年 生徒会によるペットボトルキャップの回収→海星学院に届けワクチン支援に協力 6月 ボランティア部による地域清掃活動や花壇の土おこしと苗植え 5/23 3年生徒による通学路清掃 5/29 生徒会による生活向上集会 生活向上週間を事前設定 各委員会ごとの取組実施 6/9　札幌交響楽団音楽鑑賞 7/22 ＮＴＴケータイスマホ安全教室 10/3 海岸海洋浴ウォーキング祭り ボランティア部参加 会場設営や野菜販売協力 1年 6/16郷土資料館長による講演、7/7地域探索 2年 10/16市観光振興グループによる講演 10/28温泉の各施設で職業体験 11/3鷲別地区文化祭に美術部やギター・マンドリン部参加・学校祭作品出展 11/28中学校区もちつき大会でのギター・マンドリン部演奏

※その他、ふぉれすと鉱山での自然体験・登別三曲協会による邦楽鑑賞会・入浴体験（全小学校）
スキー授業（青葉小除く小学校）

○「人権の花」「生命尊重･思いやりの心を育てる人権教室」

人権の花　5/19　幌西小で花の苗贈呈式　2・4年生・ひまわり学級がプランターに植込み
11/26　幌西小で人権の花感謝状贈呈式

人権教室　5/25鷲別小2年生 623幌東小2・4年生 8/24若草小4年生 9/17青葉小5年生 11/17富岸小4年生 11/26幌西小2・4年生 12/10登別小4年生

評　　価	自然体験や社会体験、ボランティア活動など体験活動が前年度に比べ拡充したと答えた学校は、小学校で7校、中学校で2校であり、7割に上った。体験活動が豊かな心の育成につがなっていると答えた学校は10割だった。 学校独自の取組や学校教育グループや社会教育グループからの支援だけではなく、学校支援地域本部事業、各種団体、地域事業所などの支援もあり、様々な体験活動がなされた。 また、市内の小学校のほとんどが法務局や地域の人権擁護委員会が開催する事業に参加し、子どもの人権意識を高める取組を進めた。
今後の方向性	豊かな心の育成については、読書活動や人権教育、道徳教育の充実を促すとともに、様々な体験活動を創出していくための支援を重ねていく。また、道徳の教科化に向けた動きを的確にとらえ、円滑に進めることができるよう情報を発信していく。

項　　目	5　読書活動
点検内容	学校での朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせ、調べ学習などの活動を推奨するとともに、学校図書館司書の拡充を図り、子どもたちが本に親しむことのできる環境づくりに努める。

取組状況

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝10分	読み聞かせ・貸出返却	図書委員の読み聞かせ
幌別西小	毎朝10分	読み聞かせ・飾付・貸出・本の整理	図書だよりの発行
幌別東小	水曜10分	読み聞かせ・お話会	読書の木・目標設定
青葉小	水曜以外10分	読み聞かせ・飾付	異学年読書交流他
鷲別小	月水10分・火20分	読み聞かせ・環境整備・新刊紹介	小学生新聞を授業活用
若草小	火木10分	読み聞かせ・環境整備・新刊紹介	図書委員の読み聞かせ
登別小	火金15分	読み聞かせ・環境整備・新刊紹介	月１回中休み読書
富岸小	火曜10分	月２回程度、朝の読み聞かせ	児童ボランティア活用
幌別中	毎朝10分	読み聞かせ・貸出返却	生徒による読み聞かせ
西陵中	毎朝10分	活動なし	学級文庫入れ替え
鷲別中	月水10分・火20分	読み聞かせ・図書紹介	前後期に分けて本購入
登別中	毎朝10分	活動なし	委員会による運営
緑陽中	毎朝10分	環境整備・読書啓発	生徒による読み聞かせ

○学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議および児童書展

1 ねらい　読書に関する指導や学校図書館整備に関する活動などについて情報交換や交流を図り、市内各校の学校図書の充実及び児童･生徒の学校図書館活用の活性化を図る。

2 日　時　平成27年6月26日　15:00～

3 参　加　①小・中学校司書教諭及び学校図書担当者16名　②市内学校図書ボランティア14名
③読み聞かせの会「おはなしぽけっと」代表　須藤和恵氏
④市立図書館2名　児童室担当者　⑤学校教育グループ担当者

4 内　容

(1)　児童書展　TRC（図書館流通センター）による小・中学校向けの調べ学習図書・辞典・事典・学校図書館における基本図書の展示と見計らい

(2)　学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

①講演：「ビブリオバトルの学校での実践について」　講師：室蘭工業大学准教授　須藤　秀紹氏

②グループ別交流：「学校司書の配置による有効性と効果」中学校区ごとに分かれて交流

○登別市学校司書連絡会議

1 ねらい　市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

2 内　容　活動内容の交流・図書館便りなどの意見交換・本の整理に関する情報交換・英語の本の読み聞かせに関する情報交換　その他

○長期休業中の学校図書館の開放（小学校のみ）

読書活動推進の一環で実施。休業中の日時を設定し児童に対し学校司書による貸し出し業務を行う。

利用状況～夏休み75名・貸出冊数149冊　　冬休み114名・貸出冊数153冊

○学級への団体貸出

市内小学校全8校の希望する学級に、学期ごとに貸し出しを実施。

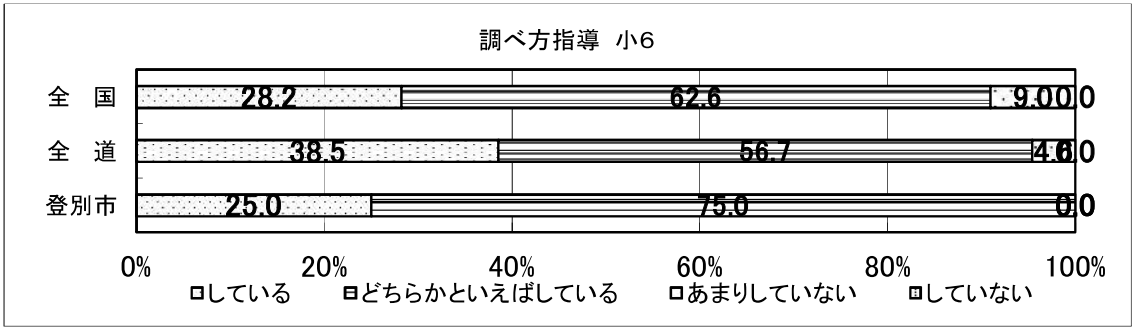
実績：92学級に貸し出し。（実施率87.6%）　全体延べ貸出冊数9810冊

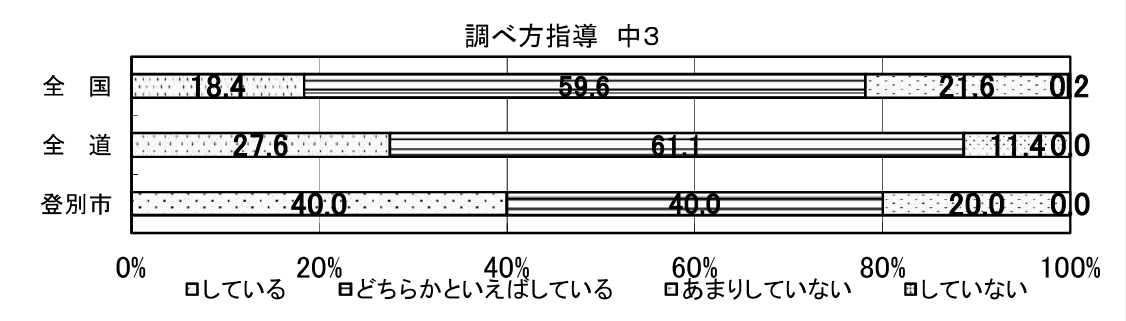
○小・中学生の読書感想文・感想画コンクール

応募件数：感想文491作品（入選65作品）・感想画82作品（入選12作品）

○調べ学習推奨状況～平成２７年度全国学力・学習状況調査　学校質問紙

「本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導しましたか」



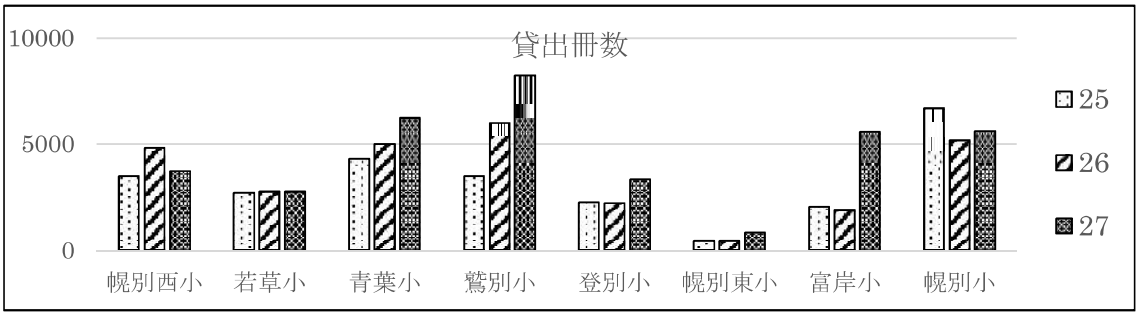


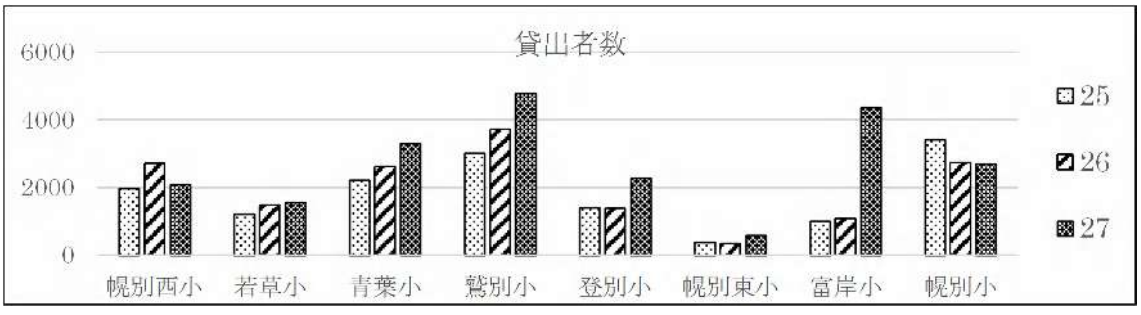
小学校は、「している」「どちらかといえばしている」を合わせて１００％で、全国や全道を上回る。

中学校は、「している」が４０％で全国や全道を上回るが、１校は「あまりしていない」と回答。

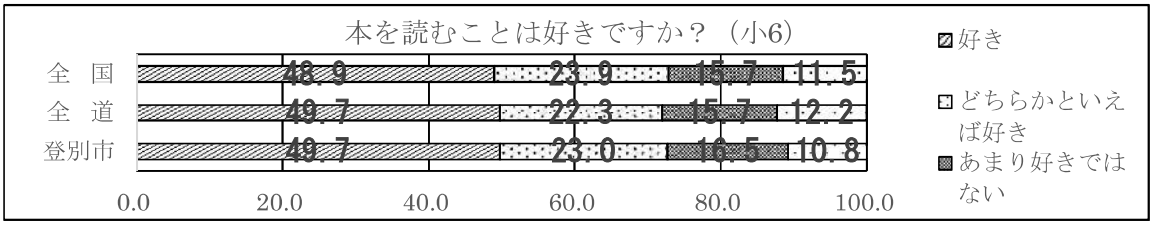
○学校図書館担当職員（学校司書）の拡充　全小学校に配置（昨年度は4校のみ）

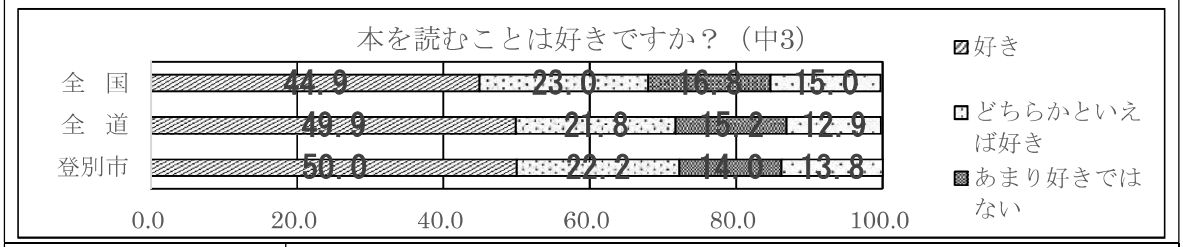
富岸小・青葉小に１名、若草小・幌別東小に１名、鷲別小・幌別小に１名、幌別西小・登別小に１名、曜日ごとに配置。





○「読書は好きですか」（全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙より）





評　　価	学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議と学校司書連絡会議を核に各校での推進状況を交流し合い、図書館機能の充実を図った。結果、調べ方指導では中学校で、「読書が好き」な児童生徒は小中学校で全国平均を上回った。学校司書は全小学校に配置、26年度と比べ貸出者数・貸出冊数ともに大きく伸びた。
今後の方向性	全小学校に配置した学校図書館担当職員中心に中学校との連携を促し、中学校区で学校図書館のさらなる活用を図る。学校図書担当･学校図書ボランティア連絡会議と学校司書連絡会議の活動を通し、各校の取組のよさを自校に還元できる機会の充実を支援する。

項　　目	**6　体力向上**
点検内容	一校一実践の取組や新体力テストの活用、体育インストラクターの派遣など学校における体力向上の取組を支援するとともに、子どもたちの日常的、継続的な運動習慣の確立をめざし、地域における運動や外遊びの機会の確保、家庭における生活習慣の改善などの取組を啓発する。

取組状況

○平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析（実施時期：平成27年6～7月）

小学校　5年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ソフトボール投げ(m)	体力合計(点)
全国	533,861	138.8	33.9	16.5	19.6	33.1	41.6	51.6	9.4	151.2	22.5	53.8
北海道	20,953	139.5	35.4	17.2	19.1	32.9	40.6	46.3	9.6	150.1	23.1	52.7
H27登別	200	138.7	35.0	15.9	20.2	37.3	43.8	52.3	9.7	145.2	22.0	53.8
H26登別	237	139.4	34.6	16.5	19.6	35.0	41.5	49.0	9.6	154.3	23.8	54.0
H25登別	199	139.8	35.3	16.7	19.7	34.5	36.8	41.9	10.1	151.0	22.8	51.0

小学校　5年女子

全国	512,467	140.0	33.8	16.1	18.4	37.4	39.6	40.7	9.6	144.8	13.8	55.2
北海道	20,557	140.8	34.9	16.8	17.5	37.2	38.3	35.0	9.8	143.6	13.8	53.6
H27登別	189	141.3	36.1	16.3	18.1	41.7	39.8	38.4	10.0	142.3	13.8	54.6
H26登別	207	140.0	34.8	15.9	17.7	39.5	39.1	36.1	9.8	145.0	13.8	54.3
H25登別	190	141.2	35.5	16.1	16.8	39.2	35.7	30.7	10.4	142.2	13.7	51.4

中学校　2年男子

	実施数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm	反復横とび(点	持久走(秒)	20mシャトルラン(回)	50m走(秒)	立ち幅とび(cm)	ハンドボール投げ(m	体力合計(点)
全国	503,995	159.7	48.5	28.9	27.4	43.1	51.6	392.6	85.6	8.0	194.1	20.7	41.9
北海道	20,937	161.2	50.0	29.6	26.6	41.6	49.7	408.3	79.8	8.2	193.8	20.4	40.1
H27登別	190	161.1	50.6	29.1	26.8	39.6	52.0	409.4	82.6	8.2	194.9	19.0	39.6
H26登別	188	161.7	50.6	30.4	25.9	42.1	50.1	402.9	75.0	8.4	194.3	20.1	39.4
H25登別	184	161.0	50.7	29.6	26.9	41.7	51.2	396.0	82.5	8.2	188.8	19.9	40.1

中学校　2年女子

全国	482,035	154.8	46.8	23.7	23.3	45.5	46.1	290.0	58.1	8.8	167.3	12.8	49.1
北海道	20,548	155.3	47.0	23.4	21.1	43.9	43.4	308.2	49.5	9.1	161.8	12.1	44.8
H27登別	179	155.2	47.0	23.0	19.6	42.3	43.8	333.7	52.4	9.1	158.1	11.2	43.1
H26登別	166	154.4	46.8	23.4	20.1	44.2	43.4	301.3	47.2	9.3	164.2	11.9	44.1
H25登別	174	155.5	48.6	23.9	20.6	41.1	43.3	301.2	44.9	9.1	166.7	11.9	44.5

小学校男子～体力合計は、全国と比較してほぼ同じ。昨年度から２年続けて全国水準を維持。反復横跳びやシャトルランは全国平均を上回った。

小学校女子～体力合計は、全国と比較して－0.6Pまで向上した。過去3年間の中で一番全国平均に迫った。握力、前屈、反復横跳び、ボール投げで全国を上回った。体重は全国比＋3.3Pで肥満傾向。

中学校男子～体力合計は、全国と比較して2.3P低い。反復横跳び、立ち幅跳びは全国平均を上回った。体重は全国比＋2.2Pで、肥満傾向がみられる。

中学校女子～体力合計は、全道平均と比べ5.5P低い。種目別で全国を上回った種目はなかった。特に上体起こしは全国比6P低い。体重は、全国比＋3.3Pで、肥満傾向は解消されつつある。

○体力向上１校１実践内容

幌別小	長縄記録会（全学年 9～11月）学級ごとに練習　全校で記録会実施 短縄（全学年 通年）記録カードをもとに練習。7月にチャレンジタイム設定 体力テスト講習会（教職員 6月）保体部中心に体力テストの正しい実施方法確認
幌西小	長縄跳び大会（全学年 12月）学級で休み時間に練習。連続跳躍回数を競う。 持久走記録会（全学年10月）個人で休み時間に練習。個々の目標に応じた距離を走る。
幌東小	どさんこ元気アップチャレンジ「短縄跳び全道大会」全校児童エントリー 管内どさんこ元気アップ選手権「立ち幅跳び」全校児童エントリー
青葉小	長縄跳び（全学年 6～2月）毎火曜、学級ごとに取り組む。7月記録会、2月大会実施
鷲別小	マイペースランニング（全学年10月5～7日間）グラウンドにコース設定。走った周記録 なわとび記録会（全学年11月3週間）がんばりカードを活用して意欲化を図る。
若草小	なわとび（全学年 通年）年間通して取り組む。短縄や長縄の記録会を実施
登別小	なわとび（全学年 通年）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 すもう（全学年 6～9月）体育の時間に実施　夏・秋場所を設定する。 マラソン（全学年 8～9月）自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。
富岸小	なわとび道場（全学年　通年）毎朝のなわとび実施 小中連携縄跳び指導（全学年　12月）緑陽中体育教諭と3年生が児童を指導 親子ｄｅ体力測定（11月）おにスポ協力のもと親子体力テストを実施
幌別中	長縄跳び（全学年 5～7月）陸上記録会に合わせた体力づくり　昼休みに時間設定

西陵中	ダンス（全学年　9月2回）ヒップホップダンスを、講師を招いて実施
鷲別中	長縄跳び（全学年 6・12月）体育専門委員会で実施。3分間の回数を学年で競う。 ダンス（1・2年　2月）ヒップホップダンスを、講師を招いて実施する。
登別中	導入5分間アップ(全学年・通年)授業導入時の筋トレ、ＳＡＱ等神経トレーニング実施 体力アップイベント(全学年・3回)フリースロー、長縄大会など生徒による企画と実行
緑陽中	ダンス指導（1・2年生 3学期）インストラクターによる指導　長縄跳び（全学年）

○新体力テストの活用

・調査の結果を生かし、全学校で体力向上に向けた計画を策定し、改善に取り組んだ。

・全学年で体育時に体力テストの種目を取り入れたり、中休み等の遊びの中で活用したりして、継続的に体力向上を図った。

・結果を基に体力アップメニューを個別に作成、長期休業中に取り組む学校もあった。

○総合型地域スポーツクラブ「おにスポ」による体育コーディネーターの活用(子ども健康・体力改善事業)

市内全小学校にスポーツ指導員を派遣。

派遣内容　・「体育の授業」質向上支援～ストレッチ体操指導等、安全に運動に取り組む姿勢の育成支援
マット運動等専門的な動きの指導、指導時の補助

・体力向上を図る取組の支援～１校１実践の効率よい運用の支援　休み時間等の取組の充実
スポーツに慣れ親しむ態度の育成

○体力の向上に向けた、地域や家庭に対する啓発

各学校では、学力のみならず体力向上には規則的な生活習慣づくりが重要という観点から、各種通信で保護者や地域に対して啓発を繰り返した。学校運営協議会でも調査結果や学校での取組を紹介し、協力を仰いだ。特に家庭には道教委作成の生活リズムチェックシート等を活用し、運動習慣の定着を促した。

評　　価	各種施策の成果が出て、今年も小学校において全国水準に達している。スポーツ指導員の派遣により、1校1実践の内容の充実が図られた。基本的な生活習慣の改善に向けての啓発が繰り返され、運動習慣の定着にもつながっている。
今後の方向性	スポーツ指導員の支援のもとに行われている1校1実践の取組や新体力テストの全学年での活用を一層促すとともに、子どもたちの日常的、継続的な運動習慣の確立を継続して図る。課題となる中学生の体力向上にむけ、小中の連携を進めるとともに、家庭での生活習慣の改善や地域での運動の機会の充実を促していく。

項　　目	**7　健康教育の推進**
点検内容	アレルギー対応は、保護者と学校、給食センターが情報を共有し連携を図るとともに「学校生活管理指導表」を活用し、子どもたちが安全・安心な学校生活を送ることができるよう努める。薬物乱用防止や性教育の指導については、警察署など関係機関と連携を図るとともに、外部指導を活用した教室の開催を促す。

取組状況

○アレルギー対応

①情報の共有

・学校や関係機関（医療関係や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童生徒の状況、緊急時の対応、その他研修内容等を交流し連携を図った。

・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②対応の流れ

・就学時検診の際に食物アレルギーを有する児童を把握。（アレルギー調査や面談票の活用）
保護者が配慮等を希望する場合は、学校生活管理指導表の配布と医療機関への受信を指示。希望しない

場合は経過観察や日常指導。

・面談票や学校生活管理指導表をもとに学校が面談。（面談者は管理職及び栄養教諭、養護教諭等）

・面談内容や提出書類をもとに学校や給食センターでの対応を検討し、取組プラン（案）を作成。校長から依頼を受けたセンター長は調理場における対応を決定し、実行する。

・予定献立表及び詳細な分析表をＨＰ等で保護者に配布。　※進級時や進学時も同様。

③実際の対応～学校から提出される「給食申込書」により対応。

牛乳アレルギー：小学校25名→豆乳に変更15名　麦茶に変更10名

中学校（明日中等含む）16名→豆乳に変更6名　麦茶に変更10名

④給食センターからの情報発信

各学校に対し食物アレルギーの児童・生徒用（学校等配布）　予定献立表（小中学校・児童生徒へ配布）

予定献立（主な材料名：小中学校へ配布）、使用品目のアレルゲン表示一覧表（小中学校へ配布）

ランチメール（小中学校へ配布）

○フッ化物洗口の実施状況　（　　）：昨年度

学校名	開始	対象数	実施数	割合
幌別小	H18	318人	301人	95%(96%)
幌別西小	H21	327人	319人	98%(97%)
幌別東小	H18	74人	72人	97%(96%)
青葉小	H20	342人	317人	93%(92%)
鷲別小	H22	306人	300人	98%(97%)
若草小	H18	337人	324人	96%(94%)
登別小	S54	175人	175人	100%(99%)
富岸小	H24	514人	452人	88%(88%)

学校名	開始	対象数	実施数	割合
登別中	H23	92人	90人	98%(96%)
幌別中	H25	214人	193人	90%(82%)
西陵中	H25	184人	150人	82%(76%)
緑陽中	H25	387人	307人	79%(73%)
鷲別中	H25	263人	232人	88%(73%)

実施率　小学校：94.4%　中学校：85.3%

(昨年度)　(93.9%)　(77.2%)

○薬物乱用防止教室

幌別小	12/21　5・6年　危険ドラックの恐ろしさについて室蘭警察署員による講話
幌西小	2/4　6年 薬物の恐ろしさ等について、室蘭警察署員による講話
幌東小	11/4 飲酒や喫煙、薬物乱用の防止について室蘭警察署員による講話
青葉小	7/15 3年　薬物の恐ろしさと、犯罪との関係について室蘭警察署員による講話
鷲別小	2/16 6年　シンナーや麻薬の恐ろしさについて、室蘭警察署員による講話
若草小	関係機関資料活用による学級担任からの指導
登別小	7/22 6年 たばこや薬物の危険性について、室蘭警察署員による講話
富岸小	6年　室蘭警察署員による、薬の恐ろしさと絶対に使用してはいけない旨の講話
幌別中	10月　全学年　薬物の恐ろしさについて関係機関資料活用による自校教員の講話
西陵中	2/5全学年　室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
鷲別中	11月 3年 札幌市から薬剤師を招いて薬物に関わる講話
登別中	1/15 全学年 室蘭警察署生活安全課職員による講話～薬物の種類や薬害、依存について
緑陽中	1学期 関係機関提供のビデオ教材を活用し指導　自校教員による実施

○性教育

幌別小	全学年、保健体育の時間、性の指導年間計画に基づき実施。（関係機関等資料活用） 行事前の健康指導（5・6年　8月）養護教諭による具体指導の実施。
幌西小	全学年で、より良い共同生活の在り方等を学習。5・6年で男女のちがい（心と体）について学ぶ。（関係機関等資料活用）
幌東小	全学年で保健体育の時間、性の指導年間計画に基づき実施。（関係機関等資料活用）

青葉小	全学年、年4回、関係機関資料等を活用し男女のちがいやジェンダー、個人差、赤ちゃんの誕生やＨＩＶ等、学級担任や養護教諭を実施した。
鷲別小	全学年、発達段階に応じ命や思春期等について関係機関資料を活用し実施。
若草小	全学年、年2回、関係機関資料等を活用し性の指導年間計画に基づき実施。
登別小	4年8月に身体の変化 5年6月に男女の特性 6年8月に感染症を学習。（関係機関等資料活用）
富岸小	全学年、年3回、関係機関資料等を活用し学級担任が領域ごとに実施。
幌別中	1年2月　養護教諭による「性機能の成熟」　2年9月　市保健師による「命と生き方」 3年3月　養護教諭による「性感染症の予防」
西陵中	2年10月 市保健師による指導。妊婦さん体験などを通し性の知識から妊婦の苦労まで学んだ
鷲別中	全学年で養護教諭による指導。性の指導年間計画に基づき実施。（関係機関等資料活用）
登別中	2・3年7月　思春期教室として、妊娠や出産、性感染症について授業実施。講師は市保健師
緑陽中	3年対象 性に関する疾病、妊娠や出産について授業実施。講師は市保健師

評　　価	アレルギー対応については、手順を明確にし学校や関係機関と連携をしながら進め、子どもたちが安心・安全な学校生活を送ることができるよう努めた。フッ化物洗口については、今年度も全小中学校で実施し、中学校での実施割合も伸びている。外部講師を活用しての安全教育に関しては、「薬物乱用防止」や「性教育」の視点で、自分の身は自分で守る意識を高めることができた。
今後の方向性	アレルギー対応については、対応の方針を作成し、市としての統一した体制づくりを強固なものにしていく。薬物乱用防止教室や性教育に関しては、学校医や関係機関と連携を図り、できるだけ専門的な知識を要する方を講師に招き、児童生徒に適切な情報を与え、健康を考える機会の充実を促す。

項　　目	**8　特色ある教育活動**
点検内容	「スキー授業」や「温泉入浴体験」のほか「キウシト湿原」を活用した環境学習など、地域の自然や特性を生かした学校での取組を支援する。英語教育については外国人の英語指導助手を活用した小・中学校でのコミュニケーション能力の育成や外国の文化や歴史への興味を高める国際理解教育の展開を促す。「消費者教育」や「租税・年金教育」などを奨励し、次代に対応した知識の習得を図る。

○地域の自然や特性を生かした学校での取組支援

・「スキー授業」　　青葉小学校以外の小学校７校の児童、延べ892名が参加。

アンケート（登別小を除く6校）結果

児童：「楽しかった」81%「また滑りたい」79% 楽しかった理由「スキー場で滑ることができた」42%

保護者:「楽しいと感じている」91%「授業を継続したほうがよい」73%

※青葉小学校はスケート教室を実施。地域実行委員会でリンクを造成しているのでその支援を行った。

・「温泉入浴体験」　411 名参加　市内小学校全8校の3年生対象に実施。

幌別小39名～9/29登別石水亭（温泉街見学・カントレラ・ボランティアガイド活用）

幌別西小53名～9/17第一滝本館（ドーピー建設工業見学・ボランティアガイド活用）

幌別東小11名～9/16清水屋（ドーピー建設工業見学・カントレラ・ボランティアガイド活用）

青葉小65名～9/17ホテルゆもと登別（足湯体験・ボランティアガイド活用）

鷲別小54名～9/25登別万世閣（温泉街見学）

若草小61名～9/29登別グランドホテル（カントレラ・ボランティアガイド活用）

登別小38名～9/25パークホテル雅亭（温泉街見学・ボランティアガイド活用）

富岸小90名～9/8ホテルまほろば（郷土資料館・温泉街見学・ボランティアガイド活用）

・環境学習

各小中学校～ふれあい農園等で野菜などの栽培と収穫。花壇での栽培。

キウシト湿原での学習　富岸小　3年生　年2回実施　春秋の湿原観察や外来植物の駆除

青葉小　4年生　5・11月　出前授業や野外活動

他　ニジマス稚魚放流（青葉小）富岸川遊び（富岸小）リングプル回収（幌別小・幌東小・若草小・幌西小・登別小）サケの放流（登別小）牛乳パック回収（鷲別小）ペットボトルキャップ回収によるワクチン支援協力（鷲別中・西陵中・緑陽中）

○英語教育

・26年度に作成した「登別市小中学校英語教育推進プログラム」に則り、小学校ではコミュニケーション能力の素地を養うことを、中学校ではコミュニケーション能力の基礎を養うことをねらいにおき、9年間を見通した学習を進めるよう支援した。

ＡＬＴの派遣（4名配置）～数多くネイティブな英語に触れる機会の創出→各学校に週1回以上派遣

小学校の外国語活動(5・6年)、中学校の英語の授業で補助指導をした。

小学校1～4年では、生活科や総合的な学習の時間等で年10時間程度国際理解教育を行った。

小学校への年間派遣回数～356回（2名分）　中学校への年間派遣回数～375回（2名分）

・地域の特性を生かした取組

登別地区（登別小～外国人観光客に自作の観光案内を配布　登別中～熊舞を英語で紹介し披露）

○消費者教育

北海道消費者協会から講師(道髙氏・古河氏)を招いての「消費者教育」授業の実施

1/15　西陵中2年生　授業内容：「ネットやスマホの利便性と危険性、ＳＮＳの基礎的な知識について」

グループワークを通して、自分だけの基準で考えると相手の迷惑につながることに気付かせた。

○租税・年金教育

・租税教室～税務署職員や振興局職員、税理士、市職員による出前授業

小学校全8校で実施（昨年度7校）　内容～税金の種類、暮らしと税との関連　など

中学校1校で実施（昨年度1校）　内容～社会資本の整備や公共サービスについて　など

・税に関する標語（対象：小6児童）　市内全小学校より437点応募　室蘭税務署長賞など16名入選

・税についての作文（対象：中学生）　西陵中より1編応募　北海道納税貯蓄組合連合会会長賞受賞

・税をテーマとしたポスター（対象：中学生）　鷲別中6点.緑陽中11点応募

北海道知事賞奨励賞～緑陽中、胆振総合振興局長賞3名受賞

・税に関する絵はがきコンクール（対象：小6児童）　市内小学校2校154点応募

・租税教育推進校への感謝状贈呈（室蘭税務署長より）　鷲別小学校

・年金教室　11/7　西陵中で実施（土曜授業で行い地域にも公開）

評　　価	スキー授業や温泉入浴体験、環境学習など、地域の自然や特性を生かした学校での取組を支援することができた。 英語教育については、国際観光都市という本市の特色を生かし、外国人観光客の来登を活用した国際理解教育の展開を支援することができた。また、登別市小中学校英語教育推進プログラムに則したコミュニケーション能力の育成を進めることができた。 消費者教育や租税・年金教育など、学校の実態に即して進めることができた。
今後の方向性	次年度も引き続き、地域の自然や特性を生かした取組を支援し、登別のよさを体感できる機会の充実に努める。英語教育についてはコミュニケーション能力の育成とともに、国際感覚を養う活動の推進を図る。

項　　目	9　幼保･小･中連携教育
点検内容	「幼保・小・中連携協議会」を中心に、校種ごとの特性や課題を把握し、円滑な継続をめざすための子ども同士の交流活動を実施し、一貫性のある指導が図られるよう努める。

取組状況

○平成２７年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

・日常の情報交流について

事　　案	発 信 元	内　　容
流行性疾病による学級閉鎖	学教G	・学校名・学年・罹患率・欠席者数
気象警報等による緊急対応	学教G･学校	・暴風雨雪警報・注意報発令時：市、学校区の対応
不審者情報・凶悪事件	社教G･学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学　校	・年間行事予定・学芸会･運動会･卒入学式案内
学校だより	学　校	・月１回作成　１部配布
教育ふれあいウィーク案内	学教G	・事業一覧(掲示用)　10/26～11/7
教育委員会広報	学教G	・教育行政全般の活動報告

・指導者・子どもの交流について

幼保･小･中連携協議会	幼保小中	7/16登別市幼保・小・中連携協議会 ○出席：幼稚園代表･保育所代表･校長会代表･教育委員会 ○内容：27年度の取組と今後の事業の推進について
	幼保小	3/25「幼･保･小」実務担当者会議(合同引き継ぎ会) 出席者：白菊幼稚園4名　登別聖心幼稚園2名　リリー文化幼稚園2名　コロポックルの森2名　室蘭にある幼稚園6園9名　市内保育所8名　市内小学校26名 ･日常から子どもを指導している職員が、就学前の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後予想される課題について、情報や意見の交換を行った。
１日体験入学	小学校 登別中 幌別中 西陵中 緑陽中 鷲別中	2月　新1年生と1年生の交流を物づくりや生活科の授業体験などを通して実施 11月　小6年生対象で体験授業と授業見学、吹奏楽鑑賞 11月　小6年生対象で授業見学、生徒会役員による説明 11月　小6年生対象で授業参観とオリエンテーション実施 小6年生対象に、現1・２年生と授業体験実施 10月　6年生授業参観
交流活動	鷲別中校区 緑陽中 幌別中 鷲別小 幌西小 幌東小	11/28 幼児児童生徒交流(餅つき体験やマンドリン演奏鑑賞) 富岸小へのなわとび講座実施　小学生へ技の伝授 幌東小での吹奏楽部の演奏　児童との交流 10/15 鷲別保育所とリリー文化幼稚園児、学芸会観覧 9月 登別明日生徒による国際理解に関する交流 運動会練習時、幌東保育所の幼児と登別地獄囃子を舞踊
幼小中合同避難訓練	登別地区	10/3 津波合同避難訓練→悪天候のため中止
小中合同避難訓練	幌別中地区 西陵中校区	9/26 幌東小･幌別中合同で津波対策避難訓練実施 中学生が小学生を見守りながら、一緒に避難所に向かう 8/29 幌西小・幌別西地区町内会と合同で訓練。市防災担当

		職員から講話を受ける。
家庭科～保育体験	鷲別中	10/21･22　3年生　鷲別保育所で保育体験
	登別中	8/21 3年 コロポックルの森 美術で製作の絵本披露
	緑陽中	2学期 2年生 富岸子育て広場で幼児との関わり方を学ぶ
総合的な学習の時間	登別中	10/29・30 職業体験　2年生　コロポックルの森
	幌別中	10/22　職業体験　2年生　市内小学校3校と白菊幼稚園、幌別東保育所にて実施。直接幼児や児童と交流
	西陵中	10/29　職業体験　2年生　市内幼稚園保育所で体験
幼稚園・保育所視察	幌別小	教員が白菊幼稚園発表会を視察
	幌西小	小2交流時に教員が富士保育所を視察
	登別中	保育や職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察
	鷲別中	保育体験の時に合わせて鷲別保育所を視察
	緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察
	幌別中	職業体験に合わせて白菊幼稚園、幌別東保育所を視察
	西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園や保育所を視察

評　　価	3年目の取組になり、日常的なつながりが定着してきている。子ども同士の交流活動を実施し成果を上げたが、日頃からの職員間の交流は、時間の関係上、大きく進むということはなかった。3月の新入学児童合同引き継ぎでは、市内だけではなく、市外の幼稚園からの参加も継続でき、一人一人のきめ細かな引き継ぎを行うことができた。幼稚園や保育所の視察は実施に向けて工夫が必要だった。
今後の方向性	幼保･小･中連携協議会を中心に、子ども同士の交流はもちろん、教職員同士の相互理解を深めることができるような連携に努める。また、系統的・継続的な指導を通して、小中一貫した教育（連携型）の推進に取り組む。

項　　目	**10　安全対策**
点検内容	通学路の安全対策については、「登別市通学路安全推進協議会」を開催して、危険箇所を現地調査するなど改善に向けた取組を推進する。また学校施設の耐震化については、診断結果を計画に反映させるとともに、青葉小学校校舎の耐震化工事を実施する。鷲別小学校については校舎の建て替え工事に着手し、平成28年度末の完成をめざす。

取組状況

○通学路の安全対策

・危険箇所を現地調査するなど改善に向けた取組

7/3 通学路合同点検（参加者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・登別市役所土木公園グループ・北海道札幌方面室蘭警察署・登別市教育委員会学校教育グループ）

点検箇所

	種別	危険箇所	状況
1	市道	登別市登別本町1丁目(国道から登別小学校まで)	大型車両等が速度を上げて走る
2	国道・道道	幌別町8丁目（道道と国道がぶつかる交差点）	交通量が多く、事故が多発
3	市道	幌別町5丁目と7丁目の間の市道(学校前Ｔ字路)	交通量が多く、横断が危険
4	道道	道道幌別停車場線と道道弁慶幌別線の交差点	交通量多く、一方しかガードなし
5	道道	道道幌別停車場線幌別町1丁目から8丁目まで	ガードレールが設置されていない

6	道道・市道	美園サンクス前交差点	鷲別方面からの車両左折事故多い
7	市道	若草中央公園と児童センター間の道路	横断歩道なく飛び出し多い

11/26 通学路安全推進協議会（参加者：北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部
登別市役所都市整備部土木グループ・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ）

・点検箇所への対応

	上記危険箇所への対応
1	危険箇所に追加する。看板等の設置と交通指導で対応。
2	危険箇所として追加しない。通学経路の変更で対応。
3	危険箇所に追加する。市と道の混同構造で特殊。看板の設置と交通指導で対応。
4	危険箇所に追加する。道が平成27年9月、3カ所にガードレールを設置し解決済み。
5	危険箇所として追加しない。道路形状等からガードレール設置の必要がないと判断。
6	危険箇所に追加する。既に歩道位置を変更済みなので再変更は困難。看板の設置と交通指導で対応。
7	危険箇所に追加する。公園の利用に影響しないよう看板の設置と交通指導で対応。

※危険箇所の対応については、学校に通知するとともにＨＰに掲載。

・交通安全教育に関わる学校での安全教育

小学校～入学前の学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し　実際に保護者と歩くことを推奨
新学期に合わせて交通安全教室実施　入学後一定期間、教職員による登下校指導実施
自転車等の実地指導実施

中学校～新学期に合わせて交通安全教室実施　自転車通学認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発

・メール配信システム～室蘭市や伊達市など、西胆振６市町の定住自立圏連携事業が進める、保護者向けのもの。学校から、災害･不審者情報などをいち早く確実に伝えるため普及を図っている。

実践校　（　　）：昨年度　～7校（6校）

登録数　（　　）：昨年度　～富岸小学校353世帯(357世帯)　登別小学校155世帯(154世帯)
幌別西小学校200世帯(188世帯)　青葉小学校230世帯(229世帯)　幌別小学校217世帯(213世帯)
幌別東小学校54世帯(61世帯)　　若草小学校198世帯

○青葉小学校校舎の耐震化工事

・普通教室等の外壁面の耐震補強　15ヶ所
・H28年度予定～理科室等の内部間仕切り壁の耐震補強　15ヶ所





○鷲別小学校校舎の建て替え工事

・４階床までの、躯体コンクリート打設完了（全体工事の35%完了）
・H28.12月完成予定





	校　　舎	体　育　館
構　　造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
階　　数	４階建て	２階建て
床 面 積	5,361.53㎡	1,118.09㎡
建築面積	1,865.39㎡	1,193.04㎡
屋上までの高さ	約15.65ｍ（海抜約21ｍ）	約11.85ｍ（海抜約17ｍ）

・地震や津波を想定した避難訓練実施状況

学校名	取　組　内　容
幌別小学校	避難訓練(地震・火災)　5/8 教室から避難　9/30 休み時間の避難 簡易避難訓練(通年)　地震・火災等を想定した初期動作の確認 集団下校訓練　学期１回　校外班ごとによる下校訓練 9/7 津波発生時の避難訓練実施 幌別中まで一斉避難
鷲別小学校	地震対策避難訓練(6/30予告あり　7/15予告なし)　7/15高台避難の講話
若草小学校	9/12 若草町内会と合同津波避難訓練 全児童330名町内会35名参加 避難ルート確認
富岸小学校	5/8　地震・火災時の避難経路確認　6/30 中休み避難訓練 9/26 地域連携避難訓練(津波避難) 緑陽中グラウンドまで避難 富岸町内会参加の講話と避難訓練(保護者も参加)
青葉小学校	6/27 保護者引き渡し訓練 9/15 地震･津波想定避難訓練･青葉の森に避難
幌別西小学校	8/29 西地区連合町内会合同防災訓練（地震・大津波避難訓練）西陵中と校区内13町内会121名、保護者30名を含む約640名で実施
幌別東小学校	9/26 鉄南連合町内会・幌別中と連携した地区避難訓練を実施　幌別中まで避難 10月 地震・津波を想定した避難訓練　幌中まで避難 2月 津波を想定した避難訓練　工学院女子寮ドミトリーまで避難
登別小学校	5/13 地震･火災避難訓練　9/24 登別中学校と合同避難訓練は悪天候で中止 11/2 津波対応避難訓練実施
緑陽中学校	地震避難訓練･津波対処法講話　避難訓練実施･自分の身は自分で守る指導強化
西陵中学校	8/29　西地区連合町内会合同防災訓練（地震・大津波避難訓練）幌西小と校区内13町内会121名、保護者30名を含む約640名で実施
登別中学校	5/7 地震や火災、津波関係避難訓練 10/3 登別市総合防災訓練中止→釜石東中事例ＤＶＤ視聴　避難方法確認

幌別中学校	9/26 幌東小と合同で地域による大津波避難訓練を実施　幌別中が避難場所 3/18 校内で地震による火災発生を想定した避難訓練
鷲別中学校	6/4避難訓練(地震･津波)　室蘭総合自動車学校裏の高台まで避難 10/1避難訓練(地震･火災)

評　　価	通学路の安全対策については、危険箇所と対応策を明確にし、改善に向けた取組を進めることができた。鷲別小学校校舎の建て替え工事や青葉小学校校舎の耐震化工事は計画通りに進めることができた。地震や津波を想定した避難訓練については、各学校の状況に応じて行い、児童生徒が自ら命を守る意識を高めた。
今後の方向性	今年度取り組んだ内容のさらなる充実を図り、安全対策を進めていく。学校施設に関しては、鷲別小学校校舎建て替え工事、青葉小学校耐震化工事を継続するとともに、登別中学校の耐震改修実施設計に取り組む。

項　　目	**11　不登校･いじめ対応**
点検内容	各学校が「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめ防止基本方針」を策定したので、学校の実態に応じた取組を支援するとともに、「不登校・いじめ等対策会議」を開催して、情報共有や事例研究などに取り組み、いじめの起きない環境づくりに努める。不登校については、要因が複雑・多様化していることから、スクールカウンセラー・心の教室相談員・スクールソーシャルワーカーを活用した相談体制の充実を図るとともに、子どもたちの登校支援を行う「適応指導教室」や地域ボランティアの協力による「体験教室」の充実に努める。

取組状況

○いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

・第1回登別市不登校･いじめ等対策会議

日時：平成27年5月20日（水）14：30

参加：校長会代表･教頭会代表･各小中学校担当･教育委員会（教育指導専門員･ＳＳＷ含む）

内容：27年度本市不登校･いじめ認知数･教育相談状況･27年4月状況報告

27年各種事業確認･情報交流「各校の今年度の取組」

・第2回登別市不登校・いじめ等対策会議

日時：平成28年2月17日(水)15：00

内容：27年度の状況の共有と活動内容確認、28年度の各種事業確認

・第1回ふれあいサポート懇談会　日時：平成27年7月3日(金)14：30

不登校児童生徒を担当する教職員対象。生徒理解の方法や支援の仕方の具体を共有した。

第2回ふれあいサポート懇談会　日時：平成26年10月16日(金)14：30

不登校児童生徒を担当する教職員対象。当該児童生徒の興味・関心に即した支援の在り方を学んだ。

講話「不登校児童生徒への対応等について」講師　健千窯　津村　健二氏

・第1回教職員研修会（事例研修会）日時：平成27年6月24日(火)14：30　参加人数186名

講演「崩れないクラスづくり～特別支援教育の視点から」

講師　プール学院大学教育学部教育学科准教授　松久　眞美氏

第2回教職員研修会（教育講演会）日時：平成27年11月25日14:30　参加人数180名

講演：「不登校児童生徒への接し方」　講師：登別市児童デイサービスセンターのぞみ園長　河内哲也氏

・サポート懇談会(7月3日･10月16日)　　・教育指導専門員による相談(電話・来室)11件

・学校訪問　年2回（6月中旬・9月中旬）　・中学校区地区別情報交流会（3月）

・いじめ関係　アンケート調査(年2回)　取組状況調査(年2回)　対応状況調査(年3回)

・保護者懇談会～希望により随時開催(定例懇談会は毎月第2火曜日)
・体験教室「陶芸教室」（健千窯）水曜午前　学校の申し出で協議し随時実施　27年度は4名通級
・適応指導教室「スタディ広場」火曜～木曜　学校の申し出で協議し随時実施　27年度は4名通級

○ＳＣ･ＳＳＷ･心の教室相談員の支援

・不登校出現件数・いじめ認知件数の推移　（単位：件数）

不登校出現件数の推移
（病欠以外の欠席累計30日以上）

	H23	H24	H25	H26	H27
小	6	7	8	5	4
中	30	26	25	23	22
計	36	33	33	28	26

いじめ認知件数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27
小	27	19	26	9	22
中	5	50	22	11	3
計	32	69	48	20	25

・ＳＣ(スクールカウンセラー)～2名配置
配置校：西陵中・鷲別中・緑陽中　派遣回数81回　総時間数309時間　280件（26年度は316件）

相談内容内訳　（単位：件数）

相談者	不登校	いじめ	暴 力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	その他	合 計
児童生徒	72	4	1	10	1	3	2	7	3	103
保護者	56	2	0	4	0	1	0	2	8	73
教職員	76	3	0	7	0	3	2	4	9	104
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）～２名配置　活動状況　全学校を訪問

活動時間	10:30～16:15
対　　象	支援児童生徒　保育所2人　小学校16人　中学校14人　その他2人
問 題 別	家庭環境24件 不登校8件　児童虐待10件 発達障害4件 非行不良3件　他
訪問回数	学校39件　家庭6件　関係機関7件

・心の教室相談員：鷲別中88日･幌別中84日･緑陽中104日･西陵中84日 相談69件(前年度24件)

○「登別市いじめ防止基本方針」の策定

平成26年3月までに市内小中学校で策定した「学校いじめ防止基本方針」に基づく各学校の取組（学校や家庭、地域との連携や、組織的な対応）の一層の充実を図るために策定し、それぞれの責務や役割と各組織の役割の明確化を図り、いじめの早期発見・早期対応の一層の推進を進めた。

評　　価	不登校・いじめ等対策会議を中心に、いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくりに努めた。課題としては、不登校出現率やいじめ認知数が26年度同様という点。個々の状況に応じて適応指導教室や体験教室を通してきめ細やかな支援に努めるなど、支援体制の充実が必要。市全体としては市いじめ防止基本方針を策定し、いじめの早期発見・早期対応の組織的な取組の一層の推進を図った。
今後の方向性	今後も情報交流や研修内容の充実に努めるとともに、組織的に実態をとらえ早期対応を進めることに力点を置く。市及び各学校が策定しているいじめ防止基本方針に基づく対応の充実を推進する。

項　　目	**12　特別支援教育**
点検内容	就学前からの教育相談や就学指導に加え、その後の一貫した支援を行うため「登別市就学指導委員会」を「登別市教育支援委員会」と改称するとともに、教育委員会に「特別支援教育推進指導員」を配置し、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図る。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況～10月1日現在　　（　）：昨年度

	小　学　校	中　学　校
知的障害学級	7学級 13名 (5学級 12名)	4学級 7名 (4学級 8名)
自閉･情緒学級	9学級 33名 (8学級 34名)	4学級 20名 (4学級 16名)
肢体不自由学級	3学級 4名 (2学級 2名)	2学級 2名 (2学級 2名)

担当教員	38名(38名)
介助員	6名(6名)
学習支援補助員	15名(15名)

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内　　容
巡回教育相談(道特セン)	学教G	8/24~8/26　相談者：保育所3名･幼稚園6名･小学校5人
教育支援委員会 9月～12月	学教G	○適正就学に向けた取組 ・委員の幼稚園･保育所訪問観察･検査、担当者との懇談 ・諮問：11/19　答申：12/17（全委員出席） ・総合検査：11/21　検討審査：12/3～8
就学支援委員の学校訪問	学教G･対象校	9～11月実施
1日体験入学	全小学校	2月各学校で実施
新入学児童合同引き継ぎ	幼･保･小	○3/25幼保･小実務担当者会議(就学時引き継ぎ)

・保護者の了解のもと各種検査を実施し、保護者との面談に活用。

・市内病院の医師や地域の特別支援高等学校と市内小中学校特別支援学級の担任等で構成したチームにより対象と考えられる幼児や児童生徒を観察、担任等との話し合いを通して、適切な就学を検討・決定した。

・保育所や幼稚園、療育機関との連携を保ち、多くの情報を得て生かした。

②その後の一貫した支援

・各種研修会

登別市特別支援教育振興協議会第１回研修会　8/6 登別小学校　23名参加

講師：胆振教育局教育支援課義務教育指導班指導主事　坪川寛司氏　WiscⅣ 活用と実技

登別市特別支援教育振興協議会第２回研修会　1/5　登別小学校　17名参加

講師：胆振教育局教育支援課義務教育指導班指導主事　坪川寛司氏　WiscⅣ 活用と実技

・特別支援学級作品展・・・・・・・・10月30日（金）～11月6日（金）

内容　：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

主催者：登別市特別支援教育振興協議会

参加　：展示作品合計80点　（小学校50点　中学校30点）

・特別支援教育懇談会・・・・・・10月28日（水）

内容：登別市内の障がい者団体と教育委員会が市内小中学校の特別支援教育在り方を意見交換。
本市の特別支援教育の現状と課題や、学校や家庭、地域、関係団体協力や連携の在り方について

参加：登別市障がい者福祉関係団体連絡協議会：１名　　肢体不自由児者父母の会：２名
手をつなぐ育成会：３名　　登別市ことばを育てる親の会：３名

③特別支援教育推進専門員の取組

・全ての特別支援学級を訪問。児童生徒の観察や担任等との話し合いを通し、学校生活の状況を把握。年度末には就学に関する情報提供を行い、その後の教育活動に活用した。

・必要に応じ学校と他機関との連携を進め、問題の解決を支援。

評　　価	市教育支援委員会を中心に、教育相談や就学指導を的確に実施し、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図った。特別支援教育推進専門員による学校や関係機関、保護者とのきめ細やかな連携に基づき、支援を継続することができた。特に就学に関する指導は、関係機関との密接な連携と保護者との丁寧な面談により進めることができた。
今後の方向性	個別の教育支援計画に基づき、幼少期から一貫した支援が図られるよう努めるとともに、市特別支援教育振興協議会と連携し、一人一人の教育的ニーズに応じた支援の実現に努める。

項　　目	**13　社会教育**
点検内容	「人々の支え合いと活気ある社会づくり」や「知識、技能などの学習成果を地域社会に還元できる知の循環型社会」の実現をめざした「第４次社会教育中期計画」に基づき、各種施策を展開する。地域の人材を登録、公開している生涯学習人材バンクを整備するとともに、郷土の歴史や文化に関する各種講座の開催を奨励し、ふるさとへの愛着心と誇りを育む。

取組状況

○「第４次社会教育中期計画」に基づいた主な各種施策

①青少年教育＝これからのまちづくりを担う青少年の健全な育成と地域教育力の向上

学校支援本部事業 ボランティア103名 （昨年は43名）	各中学校区 通年	コーディネーターを配置し土曜日に体験活動を実施　参加5049名 幌中=ふれあい農園･音楽を楽しむ会　鷲中=昔の遊び体験･もちつき体験・消防署見学　緑中=親子もちつき、茶道教室、ｽﾎﾟｰﾂﾁｬﾝﾊﾞﾗ　西陵中=親子ふれあいスポーツ大会等　登中=さけの採卵体験､史跡めぐり
少年の主張大会	登別中6/1	中学生による意見発表大会　市内6校12名出場
放課後子ども教室	鷲小・東小	放課後に子どもが安心して活動できる居場所づくり ひなわしメート＝149名登録　はまなすメート＝49名登録
子ども110番の家	通年(H27 登録者更新)	地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所　472件設置 内訳：鷲中校区123件 緑中校区113件 幌中校区128件 西中校区50件 登中校区58件
成人祭	市民会館	市と実行委員による企画、運営　出席者340/594人　H28.1.10
通学合宿	ネイチャーセンター	小学5.6年生対象に共同生活を通し生活習慣の向上を図る １回目5/26～5/30　２回目6/16～20　３回目9/29～10//3　４回目10/27～31　のべ167名の参加

②成人教育＝幅広い年齢層に対応した学習活動の推進と自主学習の支援

登別ときめき大学	85名登録	市教委の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習基礎コース9講座　連携コース96講座　受講者482名
市民マイプラン講座		サークル等が企画した講座や学習会を支援する 利用団体＝20団体（文化・工芸団体）
胆振女性リーダー養成研修	2名派遣	女性リーダーの資質向上と地域づくりのための団体活動の活性化が目的　8/20～22　国立女性教育会館（埼玉県）

③高齢者教育＝自主的な学びの支援と、地域社会への学習成果の還元促進

登別ときめき大学	85名登録	成人教育と重複

④全世代教育＝世代の枠を越えた学習や地域活動の支援と新しい公共を担う人材の育成

登別ときめき大学	85名登録	成人教育・高齢者教育と重複
市民マイプラン講座		成人教室と重複

年越し手打ちそば教室	20人	ボランティアグループＳＬＧを講師として伝統的食文化であるそばの打ち方を体験し学ぶ。

○生涯学習人材バンクの整備

・「生涯学習人材バンク ハンドブック」を平成13年度に発行。15年度、21年度更新。

・今年度の取組

改訂版を発行。個人講師、団体講師、仲間の募集という3つの活動区分で記載。利用する学習者の立場から検索しやすくするために改訂。市民マイプラン講座も掲載。データベースは事務局で管理。改訂版発行後にホームページに掲載。

登録者数　76名（平成21年度　54名）　80団体（平成21年度　113団体）

新規登録数 7名～エクササイズや女性論、合唱やピアノ、民謡、尺八、三味線、生け花

9団体～フォルクローレ、フラダンス、ジャズダンス、社交ダンス、民謡、書道、郷土史

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励

・縄文出前講座　4月　市内小学校4校で実施（6年生　10クラス　254名参加）

・アイヌ文化講座　2月26日　北海道大学アイヌ・先住民族研究センター客員教授の佐々木利和氏を招いて、演題「アイヌの時代」で講演。アイヌ施策の現状について学ぶ機会を提供した。参加者48名。

・古文書教室　2月　北海道博物館学芸員　三浦泰之氏による北海道の古文書紹介。参加者31名。

3月　市教委学芸員による古文書読解講座3回。参加者延べ55名。

・白石市学芸員による白石市の歴史紹介や発掘された白石城について講演。8月23日　参加者50名

・郷土資料館特別展　「戦争と登別」7月17日～9月23日　見学者855名

「登別のお宝！資料展」（カルチャーナイト）　9月20日　見学者16名

「はじめまして！－平成27年度新資料－」　3月8日～4月10日　見学者184名

・郷土資料館企画展　「五月武者人形展」4～5月　「さくら写真展」5～6月　「おひな様人形展」2～3月

・各種講演、調査参加「縄文人の冠婚葬祭」（6月　室蘭縄文文化研究会総会）

「博物館での体験的学習について」（7月　教職員初任者研修）

「史料が語る武士団の移住」（7月　郷土文化研究会）

「鷲別歴史散歩」（8月　鷲別4丁目サロン）

「火おこし体験活動」（8月　登別小学校体験クラブ）

「史料から読み取る登別～鷲別中学校区に残る史料」（10月　鷲別中1年）

「鷲別と教育・学校」（11月 鷲別子どもの見守りたい創立10周年記念を祝う会）

「資料館ボランティアについて」（12月　総合文化館スタートアップ講演会）

「近現考古学のススメ」（1月　美術博物館大学）

・その他　北海道主催イベントでまが玉や縄文服の貸し出し

評　価	「第４次社会教育中期計画」に基づいた各種施策を進めるとともに、使いやすい生涯学習人材バンクを目指して改訂を行った。郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励も例年同様実施し、市民がふるさとへ愛着と誇りを持つことができるよう各種事業を推進した。
今後の方向性	郷土資料館や市立図書館、登別市文化・スポーツ振興財団等のネットワーク化を図り、登別の自然や暮らし、歴史や暮らしなどを学ぶ機会の充実を図り、市民意識の醸成とふるさとに対する愛着や誇りを一層高めていく。

項　　目	14　家庭教育
点検内容	家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展を支援し、家庭での教育力の向上を図る。子ども会育成連絡協議会や地域のボランティア団体、企業の協力を得て、「通学合宿」や「放課後子ども教室」、「学校支援地域本部事業」「家族の時間づくりプロジェクト」などの事業を実施し、地域社会の中で、子どもたちをのびのびと健やかに育てる環境づくりに努める。

取組状況

○家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展の支援　　参加者1,491名

ﾘﾘｰ文化幼稚園	10/1　親子で秋の果物狩り　講師：ほりぐち果実園スタッフ 10/30 クリスマスリース作り　講師：澤田知子氏（フラワーショップ青葉） 11/11 ヤマハミニコンサート　講師：ヤマハ音楽教室スタッフ
登別ｶﾄﾘｯｸ聖心幼稚園	8/28　エアロビ　講師：Stage Fitness Academy 9/18　緑風園訪問（園児の発表・高齢者との交流） 10/9　スポンジテニス 講師：登別市スポーツ推進委員 11/6　そば打ち体験　講師：ボランティアグループＳＬＧ（郷土資料館） 1/22　フラワーアレンジメント　講師：横尾賢治氏（花善）
白菊幼稚園	6/17　陶芸教室　講師：佐藤　彰氏（工房「ふきの陶」） 7/8　保護者交流会　亀田公園屋内施設 10/5　料理実習　講師：上森洋子氏（就労支援施設ビアチェーレ製造指導員）
白雪幼稚園	7/10　ふれあい祭　コロポックルの森及び周辺町内会 10/30 ハロウィンパーティー　講師：日野拓郎氏 12/8　お餅つき大会　講師：日野拓郎氏
登別小学校	7/15　工場見学（北海道キッコーマン千歳工場・千歳ワイナリー） 10/8　スイーツデコ製作　講師：クラフトハートトナカイ　モルエ中島店 11/12 ヨガ　講師：廣瀬淑子氏
幌別東小学校	6/22　携帯・スマホ安全教室　講師：富士通エフ・エム・オー（株）北海道支社 9/24　音楽鑑賞会　演奏：幌別中学校吹奏楽部 11/28 陶芸体験　講師：登別窯
幌別小学校	5/25　雑巾づくり・給食試食会 7/13　工場見学　カルビー千歳工場　岩塚製菓千歳工場 9/30　料理教室・給食試食会　講師：水白繁子氏 10/27 小物づくり　講師：井上由貴絵氏 1/27　スポンジテニス・フロアカーリング　講師：登別市スポーツ推進委員 2/23　食育講演会・給食試食会　講師：中山重夫校長
幌別西小学校	7/16　スポンジテニス　講師：登別市スポーツ推進委員 9/11　陶芸教室　講師：津村千鶴子（健千窯） 11/11 ハーブ料理教室　講師：磯野みゆき氏
青葉小学校	7/6　肌水づくり　講師：山下千春氏（アロマ環境協会認定アロマセラピーインストラクター） 10/28 あて布づくり・給食試食会
富岸小学校	6/15　ガーデニング講習会　講師：岩浅喜子氏（花づくりネットワーク） 9/19　アロマのクラフトとプチレッスン　講師：小野美樹氏（優box） 11/19　木の実でリース作り　講師：澤田知子氏（フラワーショップ青葉） 2/18　子育て講演と給食試食会　講師：中谷　通恵氏（NPO法人　お助けネット）

若草小学校	11/2　施設見学（カルビー千歳工場） 12/18 ヨガ　講師：Stage Fitness Academy 2/23　ハーブ料理教室　講師：磯野 みゆき氏・清水 まさみ氏
鷲別小学校	9/8・10/20　陶芸教室　講師：津村 千鶴子氏（健千窯） 11/11 そば打ち体験　講師：ボランティアグループＳＬＧ（郷土資料館） 2/25　スポンジテニス　講師：登別市スポーツ推進委員

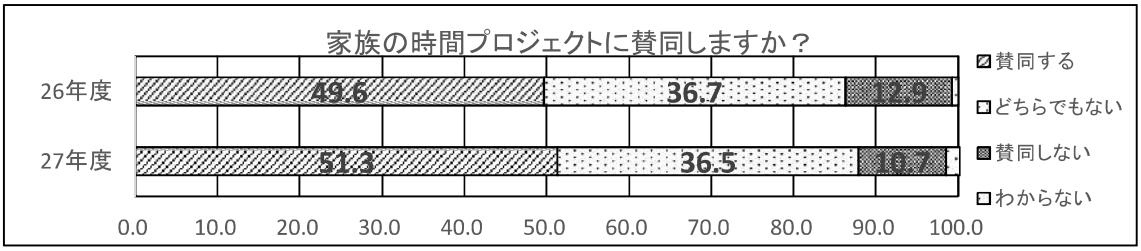
・家庭教育作品展　11/9～11/12　登別市民会館　6学級　104作品
・家庭教育勉強会　親子で「朝活！」～子どもの生活習慣づくり　7/10
講師：北海道教育庁胆振教育局教育支援課　社会教育指導班主査　松岡賢晃氏　参加11名
・家庭教育講演会　9/8
テーマ：「運動と脳の機能は関係あるの？」講師：北星学園大学社会福祉学部特任教授　武田秀勝氏
参加46名　「運動の大切さを実感」「食生活を見直したい」との声が多数寄せられた。
・親子の実験教室　お菓子の着色料を知ろう！11/14　講師：一般社団法人北海道消費者協会　参加16名

○子ども会育成連絡協議会や地域のボランティア団体、企業の協力を得た事業の実施
・「通学合宿」　みんなで学ぶ「子ども村」　場所：ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」
目的～基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせるとともに、協調性や責任感を育む。
対象～小学5.6年生対象　2地区に分け、4泊5日、年4回実施。（平日は施設から登校）計167名参加。
運営～地域ボランティアの協力や北海道の学校サポーター派遣事業を活用して実施。
幌別小・幌別西小・幌別東小・登別小グループ 1回目6/16～20 45名参加 2回目10/27～31 37名参加
青葉小・富岸小・若草小・鷲別小グループ 1回目5/26～30 51名参加 2回目 9/29～10/3 34名参加
児童や保護者のアンケートからは、協力することの大切さを自覚するとともに、自分でできることの発見など、違う環境での生活が貴重な体験の機会になっているとの結果が得られている。

・「放課後子ども教室」
目的～放課後に子どもたちが安全・安心にて過ごすことができる活動拠点（居場所）を設け、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。
役割～小学校の余剰教室等を活用し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ、文化活動を実施する。
活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで　10～3月午後4時まで
運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
鷲別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」　合計94日間実施
登録児童数　1年24名　2年31名　3年25名　4年19名　5年27名　6年23名　計149名
月別活動内容　4月 7日間　5月 8日間 1年生を迎える会　6月 8日間　7月 9日間 流しソーメン
8月 7日間　9月 8日間　10月 8日間 お茶会　11月 8日間 百人一首会　12月 7日間 クリスマス会
1月 7日間 もちつき大会　2月 8日間 豆まき・百人一首会　3月 9日間　6年生を送る会
幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」　合計88日間実施
登録児童数　1年7名　2年10名　3年11名　4年10名　5年8名　6年3名　計49名
月別活動内容　4月 6日間 こいのぼり作り　5月 7日間 1年生歓迎会・畑作り　6月 9日間
7月 9日間 川遊びや山散策　8月 5日間 収穫祭　9月 8日間 スポンジテニス
10月 9日間 ゴミ拾い活動お茶会　11月 8日間 お茶会　12月 8日間 クリスマス会
1月 5日間 もちつき大会　2月 7日間 節分・雪遊び（鉱山）　3月 7日間　6年生を送る会

・「学校支援地域本部事業」　参加者5,049名　ボランティア登録数103名（昨年度43名）
全小学校に世代間交流事業実施　2年生児童と地域のお年寄りとの交流
幌別中学校区　ふれあい農園
5/30　田植え　園児・児童・生徒122名　保護者35名　地域協力者・教職員48名　計205名
10/3　稲刈り　幼児・児童・生徒85名　保護者26名　地域協力者・教職員37名　計148名
12/19 収穫祭 幼稚園児5名 児童・生徒83名 保護者30名 教職員35名 地域協力者他17名　計170名
※昨年に比べお米の収穫量が増えた。幌中1年生が土曜授業で取り組んだおかげで参加数が増えた。
幌別中学校区　音楽を楽しむ会　参加者約100名
室蘭マリン少年少女合唱団を迎え、幌中吹奏楽部の演奏や楽器体験コーナーなどを実施し、音楽を楽しむ機会を創出した。
鷲別中学校区　ふれあい活動　昔あそび（射的やドン作りなど）
10/24　幼児・児童　約150名　保護者50名　教職員10名　地域ボランティア20名　計約230名
鷲別中学校区　ふれあい活動　餅つき体験・消防署見学・鷲別中ギター・マンドリン部演奏
11/28　幼児・児童　約160名　保護者約80名　地域ボランティアのべ10名　計約250名
緑陽中学校区　茶道教室
9/27　児童13名　保護者6名　生徒1名　青嶺高茶道部8名　講師　寺嶋宗恵氏　他教職員4名
緑陽中学校区　親子餅つき会
11/28　幼児56名　児童生徒270名　保護者・地域協力者・教職員など211名　他教職員4名　計537名
緑陽中学校区　スポーツチャンバラ体験会　2/27　児童9名　講師1名　保護者3名　教職員2名
西陵中学校区　親子ふれあいスポーツ大会
11/14　児童32名　保護者26名　来馬地区子ども会関係者15名　教職員4名　計77名
西陵中学校区　スキー体験学習支援事業　5・6年生へのスキー指導支援　協力者22名
登別中学校区　さけ稚魚放流体験　5/9　幼児4名 児童17名 保護者7名 ボランティア6名他教職員数名
登別中学校区　さけ採卵体験　10/17　児童5名 保護者2名 ボランティア2名　ふ化場職員他数名

・「家族の時間づくりプロジェクト」
25年度から国土交通省観光庁が推進する「家族の時間づくりプロジェクト」を実施して3年目。
目的　①家族の会話やコミュニケーションの場の増加　②公共施設利用による歴史や文化を身近に体験できる場の増加　③市内テーマパーク利用推進により市内経済の活性化　④有給休暇の取得率及びワークライフバランス向上の機会増加
内容　子ども(学校)と大人(企業)の休みのマッチングを行い暦にない独自の３連休以上の休みを創出。
実施日　平成28年1月29日(金)～31日(日)　※27年度は、全13校同日実施。
参加校　市内小中学校13校　市内私立幼稚園４園
参加人数　4,036名（小中学校3529名　幼稚園507名）　協賛施設利用割合27.9%（昨年度27.0%）
協賛：(株)登別マリンパークニクス (株)登別伊達時代村 登別温泉ケーブル(株) 登別市文化・スポーツ振興財団 ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶ 市社会教育グループ
後援：北海道曹達(株)幌別事業所 室蘭商工会議所 連合北海道室蘭地区連合会 連合北海道登別地区連合会 登別観光協会 登別商工会議所 登別市連合町内会 登別市私立幼稚園協会
共催：北海道運輸局室蘭運輸支局･登別市校長会･登別市
主催：登別市教育委員会



評　価	多様な実技講習会や講演会、作品展を支援するとともに、「通学合宿」や「放課後子ども教室」では望ましい生活習慣の定着や放課後の居場所づくりで、「学校支援地域本部事業」では、各中学校区での様々な活動で、「家族の時間づくりプロジェクト」では、家庭での時間の創出を促すことで、家庭の教育力向上を図ることができた。各活動は子ども会育成連絡協議会や地域のボランティア団体、企業の協力を得て実施し、子どもたちを育てる環境づくりに努めることができた。特に学校支援地域本部においては長年の構成が認められ文部科学大臣表彰を受けるに至った。
今後の方向性	家庭や地域の教育力の向上を図るため、引き続き実技講習会や講演会開催を支援するとともに、様々な事業を通して、地域社会の中で、子どもたちをのびのびと健やかに育てる環境づくりに努めるとともに、家庭の教育力の向上を図っていく。また「学校支援地域本部事業」のさらなる充実が図られるよう、実行委員会と連携を深めていく。

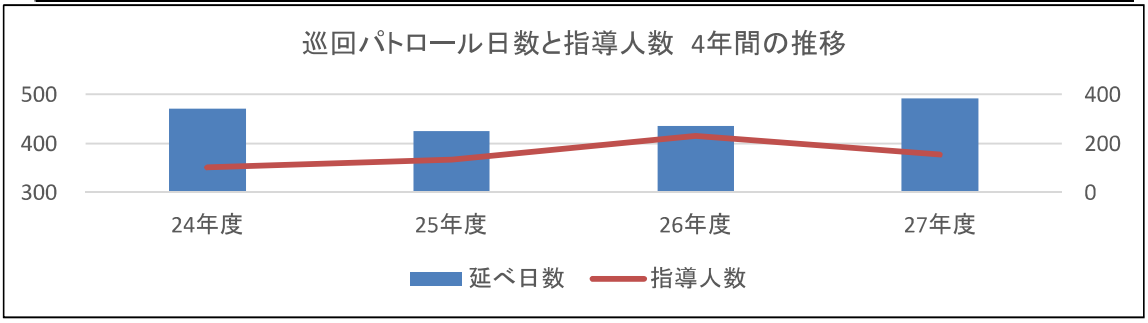
項　目	**15　青少年の健全育成**
点検内容	青少年センターを中心として、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに取り組むとともに、関係機関で構成する各種連絡協議会において情報を共有し不審者対策や非行の未然防止対策の充実に努める。ネットトラブルの防止を図るため、ネットの正しい利用方法を学ぶ「インターネット安全教室」の開催を促すとともに、保護者への啓発やネットパトロールなどに取り組む。

取組状況

①登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導など

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況　対象：高校生まで　　（　）内人数：女子

	通常巡回		特別巡回	合　計
	鷲別･緑陽　中校区	登･幌･西･明　中校区	（列車添乗･祭典その他）	
延べ日数	217日	218日	57日	492日
年間回数	389回	390回	157回	936回
延べ人員	564人	557人	356人	1,477人
指導人数	90人(30人)	53人(23人)	10人(1人)	153人(54人)



※指導の内訳　(単位：件数)

	自転車等			危険な行為			その他(ゲームコーナー含む			合　計		
	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27	H25	H26	H27
13歳未満	9	68	25	56	89	93	6	13	7	71	170	125
13歳	7	5	4	1	1	7	0	0	0	8	6	11
14歳	2	23	1	2	4	7	0	0	0	4	27	8
15歳	4	4	0	1	4	0	0	0	0	5	8	0
16歳	10	4	2	0	0	0	0	0	0	10	4	2
17歳	19	9	3	2	0	0	0	0	0	21	9	3
18歳	13	4	4	1	3	0	0	0	0	14	7	4
合計	64	117	39	63	101	107	6	13	7	133	231	153

「自転車等」指導内容と推移（前年度比）

無灯火16件(－23件)　並進運転11件(－26件)　二人乗り4件(－20件)　逆走6件(－10件)　他

「危険な行為」指導内容と推移（前年度比）

道路遊び39件(－16件)　スケートボード25件(＋9件)　キックスケーター16件(±0件)　他

「その他」指導内容と推移（前年度比）　公園の水栓放水6件(－7件)　他

・万引き状況　（調査を依頼し報告を受けたもの）　（単位：件数）

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
24年度	6	1	1	12	20
25年度	5	2	0	16	23
26年度	2	3	0	20	25
27年度	12	2	0	9	23

※市内大型店４店舗、市内コンビニ19店舗、その他25店舗、計48店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況　（単位：件数）

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷲別地区	その他	合計
24年度	0	0	10	13	0	23
25年度	0	1	9	12	1	23
26年度	0	1	13	8	0	22
27年度	0	3	15	11	0	29

②各種連絡協議会での情報の共有

・登別市青少年指導委員連絡会（学校教員30名・一般28名　計58名）

組織概要、26年度活動結果、27年度活動重点項目、27年度活動計画、その他を確認

重点項目と成果

①巡回指導体制の充実　②関係機関や団体との連携強化　③環境浄化活動の推進

④非行防止調査・啓発活動の推進　⑤不審者への対応

⑥子ども110番スタディちゃんの家の拡充

「子ども１１０番スタディちゃんの家（通学路等での不審者対策）」設置状況　平成28年3月10日現在

中央町:57件	常盤町:19件	登別東:35件	富士町:17件	富岸町:30件	美園町:37件
若草町:50件	中登別:3件	登別温泉:7件	登別本町:12件	幌別町:38件	鷲別町:30件
新川町:11件	片倉町:10件	柏木町:12件	青葉町:2件	カルルス:1件	千歳町:14件
緑町:5件	若山町:13件	新生町:44件	栄町:11件	桜木町:14件	

平成27年度末の設置数472件　（昨年度490件）

・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議

構成：小学校・中学校・中等教育学校代表教諭

教育委員会(部長 参与 総括主幹 主査 教育指導専門員 専任指導員 青少年支援員 児童生徒支援員)

ねらい：各校における生徒指導の現状や課題などについての情報交流、協議を深めるとともに、問題行動の早期発見や未然防止を図り、生徒指導の充実と青少年の健全育成に資する。

協議内容　青少年センターからの補導状況報告　各校による生徒指導上の諸問題交流

生活のきまりの確認

・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信

各種会議において関係団体に啓発。情報を共有し協力を仰いだ。

③インターネット安全教室実施状況

幌別小学校	8/25　5･6年対象　スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ 保護者向けにも実施　講師：携帯会社契約社員
幌別西小学校	携帯やスマホ、ネットゲームの安全な利用法や調べ活動等効果的な活用法について、対象5･6年にＮＴＴドコモ職員に講話してもらった。
鷲別小学校	10/31 5・6年対象 ネットに動画等を流す危険性について 講師：ＮＴＴドコモ職員
登別小学校	2/23 5・6年対象　携帯やスマホ使用の注意点確認　講師：ＮＴＴドコモ職員
富岸小学校	11/7　5・6年と保護者対象 トラブルの防止とネットの危険性について　講師：子どもとメディア北海道事務局長　中谷通恵氏　土曜授業で実施し保護者100名近く参加
幌別東小学校	6月 4年生以上対象　スマートフォンやケータイの安全な使い方や、著作権等の指導について　講師：ＮＴＴドコモ職員
若草小学校	10/23 5・6年対象 携帯スマホの安全使用やマナー、インターネットの危険性について（時間を分けて保護者にも講話）講師：ＮＴＴドコモ職員
青葉小学校	7/15 5年生対象 携帯やスマホのマナーやトラブルについて 講師：ＮＴＴドコモ職員
幌別中学校	4月 1年対象 新たに購入した生徒に向けた注意喚起　講師：自校職員 7/16 全学年対象　正しい使用の具体例を示した講話 講師：ＮＴＴドコモ職員
鷲別中学校	7/22 全学年対象 トラブルや被害の防止法マナー啓発　講師：ＮＴＴドコモ職員
登別中学校	10/14 全学年対象 LINEトラブルの疑似体験やトラブルに合わない心構えについて 講師：北海道立教育研究所職員 3学期 動画投稿における発信者の責任について 講師：自校職員
西陵中学校	1/15 2年生対象 ＳＮＳトラブルやネットショッピングで気を付けることを確認。 グループワーク学習を実施。　講師：北海道消費者センター職員 3/7 全学年対象 ＳＮＳで注意することやフィルタリングの重要性確認 講師：ドコモ職員
緑陽中学校	全校生徒対象に年2回、外部講師を活用して携帯やスマホの適切な使用方法や危険事案に関する理解を促す

④インターネット使用に関わる保護者への啓発

小学校４年生以上の児童生徒に、携帯電話やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を実施しその結果に基づき、登別市ＰＴＡ連合会や登別市校長会と協議の結果、「ケータイ・スマホ　３つのルール」を作成。一日の使用時間、使用時刻、フィルタリング設定の推奨を随時呼びかけた。

⑤ネットパトロール

道教委委託から情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めた。平成27年度の情報提供の数は24件。対応し解決した数は24件。

評　　価	青少年センターを中心として、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導に取り組んだ。自転車等の指導が激減した。各種連絡協議会において情報を共有し不審者対策や非行の未然防止対策の充実に努めたが、不審者出現件数は増加傾向だった。インターネット使用に関する啓発として、全校で安全教室を実施するとともに、アンケートに基づくルール作りを市Ｐ連や校長会と連携して行い、啓発を重ねることができた。
今後の方向性	引き続き、市子ども育成連絡協議会や社会教育観駅団体、地域の方との協力のもと街頭指導の強化や不審者情報に対応するメール配信体制の充実、子どもたちを見守るパトロール活動の実施、子ども１１０番の家の拡充に努め、非行の未然防止と良好な環境の確保に取り組む。

項　　目	**16　学校給食**
点検内容	地元の食材を積極的に取り入れた献立づくりや栄養教諭による給食指導を通して食に対する関心を高めるとともに、発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食を提供し、健康の維持・増進、体位の向上を図る。

取組状況

○地元の食材を積極的に取り入れた献立づくり（使用回数79回　使用率38.16%）

学校給食センターでは、毎日提供している「のぼりべつ牛乳」をはじめ、富浦産だし昆布や鮭のダイスカット等の地場産品を積極的に活用し、さらに、年１回開催する学校給食展においても地場産品を活用した給食メニューを提供するなど、地産地消の取り組みを行った。

また、地場産品の使用内容を献立表やランチメール等に記載し各学校や保護者に配布したほか、野菜等についても、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定するなど、広域な地産地消の取組も実施した。

○栄養教諭による給食指導

・「食育」のための栄養教諭派遣状況

学校名	月日	曜	学年	教科・内容等	月日	曜	学年	教科・内容等
幌別西小	9/2	水	4	学級活動（朝ご飯のよさ）	11/11	水	2	学級活動（楽しい食事）
若草小					11/ 2	月	5	家庭科（望ましい食生活）
登別小	10/28	金	2	学級活動（給食について）	10/28	金	5	学活（栄養素のはたらき等）
青葉小	11/19	木	2	学級活動（食育指導）	11/26	木	4	学級活動（食育指導）
鷲別小	6/23	火	3	学級活動（食育指導）	7/17	金	4	学級活動（食育指導）
富岸小	6/10	水	2	学級活動（楽しい給食）	10/23	金	6	学級活動（楽しい給食）

・勤務校での指導状況

幌別小　１年　10/30 給食を楽しく食べよう　12/21 食べ物を大切にきちんと食べよう
２年　8/24 何でも食べよう元気に大きくなろう　2/23 はし使いの名人になろう
３年　12/22 すききらいをしないで食べよう　2/25 食べ物を大切にして残さず食べよう
４年　6/24 朝ごはんのよさ、働きを見直そう　12/8 バランスを考えて食べよう
５年　10/30 見直そう生活習慣　12/11 バランスを考えた食事をしよう
６年　11/24　朝ごはんパワーアップ大作戦　3/11　1年間の給食を振り返ろう

幌別東小　１年　6/18 給食を楽しく食べよう　２年　9/15 野菜と仲良しになろう
３年　11/30 食べ物の働きを知ろう　４年　3/1 バランスよく食べよう
５年　7/22 おやつの食べ方を工夫しよう　６年 12/18　1日の食事について考えよう
※給食指導～毎日学級訪問　食育教室の充実～年間通して児童が学べる空間の確保

○発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食の提供

学校給食センターでは、文部科学省の学校給食摂取基準等に基づき、学校栄養教諭が献立を作成するなど、児童・生徒の栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食を提供した。

しかし、児童生徒の体力不足を補い丈夫な体をつくるためには、例えば、食べることだけでなく、適度な運動や睡眠など、生活のリズムやバランスが必要となることから、学校教育Ｇと連携して各小学校に栄養教諭を派遣し、普段から栄養バランスや生活リズムの大切さなどを理解してもらうため、食育授業を年12回実施した。

○「和食」を伝えるための給食の実施(27年度)

月	和食の献立名
4月	スタミナみそ汁
5月	豆腐とわかめの味噌汁
6月	いも団子汁
7・8月	さわにわん
9月	さつま汁

月	和食の献立名
10月	石狩汁
11月	あすかなべ
12・1月	三平汁
2月	ちゃんこなべ
3月	さわにわん

○第６回登別市学校給食展

目　的　　学校給食の意義・役割等について、市民の理解と関心を高め、学校給食のより一層の充実、発展を図ることを目的とする。

期間･場所　平成27年10月8日（木）　登別市民会館大会議室

内　容　　①試食会　　・地場産品を活用した学校給食メニューを提供

②食育相談所　　・栄養教諭の先生とプチ食育相談

③食品業者紹介コーナー　・安全・安心な食品を届けてくれる業者の紹介

④給食展スタンプラリー　　⑤手洗い教室　　⑥その他　・豆つかみグランプリなど

その他　　学校給食では、地産地消･地域の食材を知ってもらうため、地元事業者等と連携を図り、「のぼりべつ牛乳」をはじめ、前浜で取れた魚や地元の牛肉、豚肉を活用した給食メニューを提供してきた。

本年は、地場産品の「のぼりべつ豚」をはじめ、西胆振の野菜を使った登別ご当地グルメの「登別閻魔やきそば」を提供した。

（実績　H21:さら貝、H22:やなぎダコ、H23･24:登別牛、H25:前浜産たらこ、H26：牛丼）

評　　価	給食の献立に地元の食材を積極的に活用したほか、給食展で登別ご当地グルメ「登別閻魔やきそば」の給食を提供したことで、児童生徒や保護者等に給食を通して、食への関心などを高める取組ができた。更に、地元の食材を活用したときは、献立表やランチメール等に記載したほか、出来るだけ近隣や道産品を活用するなど、広域な地産地消の取組もできた。 また、栄養価やエネルギーなどバランスの摂れた給食の提供に努めたほか、各小学校に栄養教諭を派遣し、栄養のバランスや生活のリズムの大切さなどを理解してもらうための食育授業を実施したことで、児童生徒の健康維持・増進、体位の向上を図ることができた。
今後の方向性	引き続き健康の保持と体位の向上を目的に、安全で安心な給食を提供するとともに、地場産品を取り入れ、児童生徒の、地域の自然や産業に対する理解を深めていく。

項　　目	17　文化・スポーツの振興
点検内容	登別市文化・スポーツ振興財団や文化協会、体育協会などと連携し、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催を通して潤いと活力ある地域社会の形成に努める。「文化振興基本計画」「スポーツ推進基本計画」については、新しい時代にふさわしいガイドポストとなるよう策定する。体力や年齢、技術に応じたスポーツ・レクリエーション活動を奨励し、市民のスポーツに対する機運の盛り上げを図る。さらに、登別市文化協会・子ども会育成連絡協議会の支援を行う。総合体育館については安全性の確保と利便性の向上を図るため大規模改修に取り組む。

取組状況

○市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催

・文化活動

西いぶり定住自立圏文化事業	10/31 381名来場	3市3町で行う芸術文化の鑑賞事業 「川畠道成 ヴァイオリン・リサイタル」　会場：室蘭文化センター
市民会館 サークル展	10/27～10/30	市民会館を中心に活動しているサークルの紹介と作品展示 9団体出展
文化財保護事業	4/10～4/28 2/26 2・3月	縄文出前講座 鷲小･西小･東小･富小計254人6年生 アイヌ文化講座　北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授 佐々木利和氏による講演 古文書教室　北海道博物館学芸員を招いての講座他
郷土資料館事業	5/23	わんぱくサムライ体験　300名 特別展3回　企画展3回
文化伝承館事業	通年	SLGによるべこもちづくり、布ぞうりづくりなど17回　252名参加

・芸術鑑賞機会の提供

移動美術館	10/16～20	ぐるっと美術館地域推進事業活用による北海道立近代美術館他美術作品の鑑賞機会の提供。会場：登別市民会館　観覧者数1303名 美術鑑賞入門講座（一般・ときめき大学）10/16・20　56名 作品解説（市教委・共催者・文化関係者）10/16　13名

・健康づくり、スポーツ

市民ラジオ体操会	7/25　168名	スポーツ推進委員を講師に、青葉小・若草小で実施 社会教育Gが所管
西胆振6市町小学生スポーツ交流会	5/30　477名	西いぶり定住自立圏構想対象事業　会場：入江運動公園 内訳：登別市109名 室蘭市239名 伊達市77名 壮瞥町25名 洞爺湖町20名 豊浦町7名
市民スポーツ・健康フェスティバル	10/4　549名	市内体育施設を会場とした市民スポーツ大会 岡志別の森運動公園：パークゴルフ･ソフトボール･駅伝大会・ヘルスウォーキング・ふれあいサッカーに293名参加 市民プール：水中玉入れ大会・障害物競争・宝探し・個人タイム計測　健康測定会・アクアビクス教室・ひめトレに256名参加
学校体育施設開放事業	通年	10施設(小8校、登中、旧温泉中体育館)を開放 延べ開放日数1,510日 延べ利用団体1,714団体 延べ利用人数24,370名

○「文化振興基本計画」「スポーツ推進基本計画」の策定

前計画期間の成果と、文化やスポーツを取り巻く状況の変化を踏まえた上で、今後の10年に向けた文化振興及びスポーツ振興の方針を定めるため、公募や関連団体の推薦による市民委員からなる検討会議にて審議を重ね、平成27年9月に策定した。

○登別市文化協会・登別市子ども会育成連絡協議会への支援

文化振興助成金～市民に根差した文化活動を行う文化団体への支援。

文化協会：加盟団体数29(昨年32)　1,188人（昨年1,340人）

機関誌・文芸誌の発行、市民文化祭、のぼりん文化講座、創立50周年記念で、姉妹都市2市の文化協会関係者を招いての合同芸能発表会を開催。

子ども会活動振興助成金～子どもたちの生きる力と健全な心身の育成を図る活動～こいのぼりマラソン参加やパン作り体験、かるた大会、登子連紙発行等の支援を通して実施

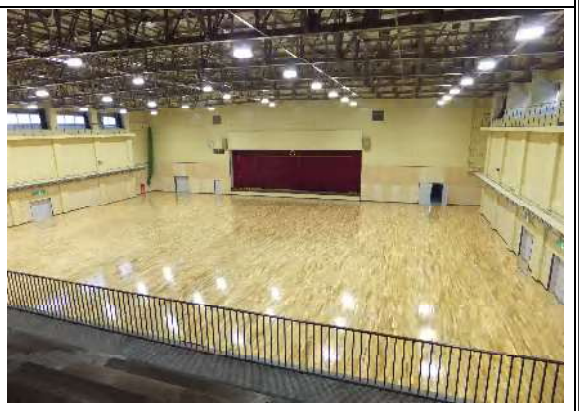
参加者数265名（昨年度148名）

○総合体育館の大規模改修

・耐震補強　～ 天井ブレース交換

・大規模改修 ～ 外壁塗装、内部塗装、アリーナ床塗装、窓の改修
アリーナ照明器具をLEDに交換、屋根板金葺き替え、
トイレ洋式化、玄関入口１ヶ所を自動ドアに交換





評　　価	各種団体と連携し、文化活動や芸術鑑賞の機会の提供や、健康づくりやスポーツを通して、潤いと活力ある地域社会の形成を目指した。「文化振興基本計画」「スポーツ推進基本計画」については、将来を見通した計画になるよう心掛けて策定した。総合体育館については大規模改修を終え、安全性の確保と利便性の向上を図ることができた。
今後の方向性	西いぶり定住自立圏合同文化事業の活用や郷土芸能、各種行事への児童生徒の積極的な活動と参加を奨励し、伝統文化の継承と郷土を愛する心の育成に努めていく。また、東京オリンピック・パラリンピック開催に向け子どもたちの夢を育むとともに競技スポーツの振興を目的に、大会出場者を招き講演会や実技講習会等の機会を設けていく。

項　　目	18　社会教育施設
点検内容	郷土資料館については、支援団体ＳＬＧ（スタディ・ライフ・グループ）などの協力のもと、各種資料の収集・整理・保存や常設展、特別展を開催するとともに、施設・設備の充実を図り、郷土の歴史や文化への興味・関心を高める。ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」については、指定管理者「ＮＰＯ法人モモンガくらぶ」により「自然体験活動」や「環境学習」、「子育て支援」などの事業を展開し、今後も、より質の高いプログラムを企画し、豊かな体験活動ができるよう支援していく。

取組状況

○郷土資料館　入館者数3,437名（昨年度3,643名）

・寄贈、寄託等の新資料～各種写真やダイヤル式電話、蓄音機、木彫り道具、戦争柄着物等、1,145点

・特別展　「戦争と登別」7月17日～9月23日　参加者855名

「登別のお宝！資料展（カルチャーナイト）　9月20日　参加者 16名

「はじめまして！平成27年度新資料　3月8日～4月10日　参加者184名

・企画展　「五月武者人形展」4～5月　「さくら写真展」5～6月　「おひな様人形展」2～3月

・資料の紛失と対応

平成15年8月に知里真志保氏ご子息より寄託を受けた「ニンカリ（耳飾り）」「タマサイ（首飾り）」が紛失（平成28年1月発覚）。委託者へ報告、謝罪。警察へ連絡。3階展示室閉鎖、鍵付きガラスケースのガラス天板を器具で固定。1・２階防犯カメラ作動中を啓発。

○ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」

・「自然体験活動」や「環境学習」、「子育て支援」などの事業展開

全小学校と中学校2校で自然体験活動を実施（5年生）～自然体験学習推進経費により補助

各学校の教員も自然を体験するよき機会として捉えるよう、校長会等で助言。

ＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶの活動内容を学校に積極的に紹介するとともに活用促進を呼びかけた。

評　　価	郷土資料館については、常設展、特別展を通して、施設・設備の充実を図り、郷土の歴史や文化への興味・関心を高めることができた。13や18の項目でも、活動の場として役目を果たした。各種資料の保存に関しては課題が明確になったので、再発防止のために対策が必要。 ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」については、自然体験学習活動推進のために支援を重ねるとともに、学校とＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶとの連携の橋渡しをした。また、通学合宿などの活動の拠点としての役割も果たした。
今後の方向性	郷土資料館については、市立図書館、登別市文化・スポーツ振興財団等とのネットワーク化を図り、登別の自然や暮らし、歴史や暮らしなどを学ぶ機会の充実を図り、市民意識の醸成とふるさとに対する愛着や誇りを一層高めていく。資料の管理に関しては適切な対策を講じていく。 ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」については、自然体験学習活動推進のための支援を継続するとともに、学校とＮＰＯ法人登別自然活動支援組織モモンガくらぶとのさらなる連携を促していく。

項　　目	19　図書館
点検内容	図書ボランティア団体との協働による読書機会の充実や質の高い図書資料の整備を進め魅力ある図書サービスを提供するとともに、豊富な知識と経験を有する図書館長の出前講座の実施やきめ細やかな情報発信に努め、市民の利用の促進を図る。 アーニス分館においては、あらゆる出版資料を入手できる「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」など、ＩＴ環境を活用したサービルの提供を進める。

取組状況

○平成27年度　図書館での貸出冊数239,977冊　移動図書館車での貸出冊数23,654冊　購入冊数6,121冊

○図書ボランティア団体との協働～図書ボランティアとの協働により実施。

おはなし会（14回）、わらべうたと手遊び（19回）、本の書評合戦「ビブリオバトルの夕べ」（7回）、文学講演会「三浦清宏の文学世界」（2月6日）、「第11回図書館まつり」（11月1日～7日）。

ボランティアと連携を図り「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡協議会」（6月26日）を開催。

市民との協働事業として、地域文化講座「たたら製鉄講座」（2月27日）・活動のあゆみ展（2月24日～27日）、登別聴覚障がい者協会創立１周年記念展（2月28日～3月4日）、「国連世界食糧デー特別展」（10月14日～21日）を実施。

○豊富な知識と経験を有する図書館長の出前講座の実施

図書館の利用法や資料の探し方、データベースの使用法、暮らしに役立つ図書館の活用術について、登別ときめき大学と連携した講座「図書館への招待」を開講。

・「図書館長による資料検索入門－本を探す―」（6月20日）、
・「初めてのデータベース」（9月12日）・登別ときめき大学「図書館ってどんなところ？」（7月22日）

著名な図書館人である才津原哲弘氏（日本経済大学講師）を招き「図書館を考える講演会」を開催。

○きめ細かな情報発信

新聞書評の資料添付によりきめ細かい書籍情報を提供。図書館ホームページで、市立図書館の新着本リスト（毎月更新）、視聴覚資料や大活字本リストを掲載。

○ＩＴ環境を活用したサービスの提供

「課題解決型図書館」への成長を図り、アーニス分館のＩＴ環境を活用したオンラインデータベース（北海道新聞記事データベース・第一法規・ジャパンナレッジ）の提供を開始。

アーニス分館で、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス・歴史的音源のサービスを開始。

デジタル資料「室蘭民報記事ＤＶＤ」を導入。

○主なイベント等の事業

5/16	「もったいないばあさんのおはなし会」講師：真珠まりこ氏（絵本作家）
6/21	「図書館長による資料検索入門－本を探す―」講師：綿貫亨（図書館長）
6/26	「学校図書担当者･学校図書ボランティア連絡会議・児童書展」
7/22	「図書館ってどんなところ？」（登別ときめき大学）講師：綿貫亨（図書館長）
7/25	「夏休み工作」
8/7～21	「図書館を使った調べる学習コンクール」第17･18回入選作品展
9/1～18	「年長児の読書感想画展」対象：市内幼保　応募221作品
9/12	「初めてのデータベース-データベースを使って調べものをする-」講師：綿貫亨（図書館長）

10/14～21　「国連世界食糧デー」展
11/3　文化講演会「宮沢賢治と札幌・北海道とのかかわり」共催：北海道立文学館
11/1～7　「第 11 回図書館まつり」（主催：図書館まつり実行委員会）
12/12　「クリスマス工作」
12/19　小･中学生の読書感想文･読書感想画コンクール入賞者表彰式
読書感想文応募：小学校 389 名･中学校 102 名　入選：小学校 48 名･中学校 17 名
読書感想画応募：小学校　55 名･中学校 27 名　入選：小学校 10 名･中学校　2 名
2/ 6　文学講演会「三浦清宏の文学世界」講師：浅野清氏
2/26　図書館を考える講演会「自殺したくなったら図書館へ行こう。」講師：才津原哲弘氏
2/27　地域文化講座『たたら製鉄講座』　講師：石崎勝男氏（室蘭・登別たたらの会）
2/28～ 3/ 4 登別聴覚障がい者協会創立１周年記念展　主催：登別聴覚障がい者協会
3/ 5～31　雑誌と本のリサイクル市

○新規事業
・「ライブラリースタート」（３歳児対象）
・「ブックスタート」（４か月健診時実施。主管：子育てグループ）
・「リサイクルブックコーナー設置」（アーニス２階）
・オンラインデータベース(３種類)、「国立国会図書館デジタル資料送信サービス・歴史的音源」導入。

評　価	読書機会の充実や質の高い図書資料の整備については、施設の狭隘による資料の飽和の解消と魅力ある書架構築のため、資料の除籍と整備に取り組んだ。また除籍資料の有効活用のため、アーニス２階にリサイクルコーナーを開設した。 魅力ある図書サービスの提供については、「課題解決型図書館」への成長を図り、「平凡社世界大百科事典」の購入、オンラインデータベースやデジタル資料（室民DVD）の導入により、レファレンス資料の拡充と刷新を行った。 市民の利用の促進については、市民の図書館利用を促進するため、図書館の利用講座を実施した。また３歳児を対象としたライブラリースタート事業の実施により、図書館の周知を図った。 ＩＴ環境を活用したサービスの提供については、アーニス分館のＩＴ環境を活用し３種類のオンラインデータベースの提供を開始した。また、「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」と「歴史的音源」を開始した。これらのサービスにより、デジタル化された国会図書館資料の閲覧が可能になった。
今後の方向性	質の高い魅力ある図書館づくりを目指して、引き続き資料の飽和状態の解消と書架整備に努めるとともに、ブックスタート・ライブラリースタートにより乳幼児からの読書啓発と図書館利用の促進を図る。「本と人を繋ぐ」ため、資料の紹介や幅広い情報提供に努めると同時に、市民の多様なニーズに応じた多様な資料の整備に努める。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	評定
1	地域とともにある学校づくり	社会全体で子どもを育てる体制づくりと学校評価に基づく経営改善を進め、家庭、地域から信頼される学校づくりに取り組む。「登別版コミュニティスクール」の一層の定着を図り、家庭・地域社会と連携した「地域とともにある学校づくり」を推進する。	A
2	学力向上対策	「学ぶ意欲」、「活用する力」、「学習習慣の確立」を各学校の共通目標に掲げ、指導方法や指導内容に対する工夫改善の取組を支援するとともに、「学習教室」ではテキスト問題の提供や指導のサポートを行うとともに新たな教室の開設を図る。	A
3	教職員の資質能力向上	「学校力向上総合実践事業」の成果が市内各学校に還元されるよう図るとともに研究実践奨励校の指定や巡回指導教員活用事業などの取組を進めると同時に、新しい学習スタイルに対応するための研修機会の充実に努める。	A
4	豊かな心の育成	子どもたちの「生命を大切にする心」や「他人を思いやる心」、「善悪の判断」、「規範意識や公共心」の醸成を図るため、自然体験や社会体験、ボランティア活動など体験活動の拡充に努め、道徳教育が推進されるよう支援する。	A
5	読書活動の推進	学校での朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせ、調べ学習などの活動を推奨するとともに、学校図書館司書の拡充を図り、子どもたちが本に親しむことのできる環境づくりに努める。	A
6	体力向上対策	一校一実践の取組や新体力テストの活用、体育インストラクターの派遣など学校における体力向上の取組を支援するとともに、子どもたちの日常的、継続的な運動習慣の確立をめざし、地域における運動や外遊びの機会の確保、家庭における生活習慣の改善などの取組を啓発する。	A
7	健康教育の推進	アレルギー対応は、保護者と学校、教職センターが情報を共有し連携を図るとともに「学校生活管理指導表」を活用し、子どもたちが安全・安心な学校生活を送ることができるよう努める。薬物乱用防止や性教育の指導については、警察署など関係機関と連携を図るとともに、外部指導を活用した教室の開催を促す。	B
8	特色ある教育活動	「スキー授業」や「温泉入浴体験」のほか「キウシト湿原」を活用した環境学習など、地域の自然や特性を生かした学校での取組を支援する。英語教育については外国人の英語指導助手を活用した小・中学校でのコミュニケーション能力の育成や外国の文化や歴史への興味を高める国際理解教育の展開を促す。「消費者教育」や「租税・年金教育」などを奨励し、次代に対応した知識の習得を図る。	A
9	幼保・小・中連携教育の推進	「幼保・小・中連携協議会」を中心に、校種ごとの特性や課題を把握し、円滑な継続をめざすための子ども同士の交流活動を実施し、一貫性のある指導が図られるよう努める。	B
10	安全対策	通学路の安全対策については、「登別市通学路安全推進協議会」を開催して、危険箇所を現地調査するなど改善に向けた取組を推進する。また学校施設の耐震化については、診断結果を計画に反映させるとともに、青葉小学校校舎の耐震化工事を実施する。鷲別小学校については校舎の建て替え工事に着手し、平成28年度末の完成をめざす。	B

11	いじめ・不登校対策	各学校が「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめ防止基本方針」を策定したので、学校の実態に応じた取組を支援するとともに、「不登校・いじめ等対策会議」を開催して、情報共有や事例研究などに取り組み、いじめの起きない環境づくりに努める。不登校については、要因が複雑・多様化していることから、スクールカウンセラー・心の教室相談員・スクールソーシャルワーカーを活用した相談体制の充実を図るとともに、子どもたちの登校支援を行う「適応指導教室」や地域ボランティアの協力による「体験教室」の充実に努める。	A
12	特別支援教育	就学前からの教育相談や就学指導に加え、その後の一貫した支援を行うため「登別市就学指導委員会」を「登別市教育支援委員会」と改称するとともに、教育委員会に「特別支援教育推進指導員」を配置し、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図る。	B
13	社会教育	「人々の支え合いと活気ある社会づくり」や「知識、技能などの学習成果を地域社会に還元できる知の循環型社会」の実現をめざした「第４次社会教育中期計画」に基づき、各種施策を展開する。地域の人材を登録、公開してい生涯学習人材バンクを整備するとともに、郷土の歴史や文化に関する各種講座の開催を奨励し、ふるさとへの愛着心と誇りを育む。	A
14	家庭教育	家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展を支援し、家庭での教育力の向上を図る。子ども会育成連絡協議会や地域のボランティア団体、企業の協力を得て、「通学合宿」や「放課後子ども教室」、「学校支援地域本部事業」、「家族の時間づくりプロジェクト」などの事業を実施し、地域社会の中で、子どもたちをのびのびと健やかに育てる環境づくりに努める。	A
15	青少年の健全育成	青少年センターを中心として、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに取り組むとともに、関係機関で構成する各種連絡協議会において情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止対策の充実に努める。ネットトラブルの防止を図るため、ネットの正しい利用方法を学ぶ「インターネット安全教室」の開催を促すとともに、保護者への啓発やネットパトロールなどに取り組む。	B
16	学校給食	地元の食材を積極的に取り入れた献立づくりや栄養教諭による給食指導を通して食に対する関心を高めるとともに、発達期にある児童生徒に豊かでおいしい給食を提供し、健康の維持・増進、体位の向上を図る。	A
17	芸術･文化･スポーツの振興	登別市文化・スポーツ振興財団や文化協会、体育協会などと連携し、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催を通して、潤いと活力ある地域社会の形成に努める。「文化振興基本計画」「スポーツ推進基本計画」については、新しい時代にふさわしいガイドポストとなるよう策定する。体力や年齢、技術に応じたスポーツ・レクリエーション活動を奨励し、市民のスポーツに対する機運の盛り上げを図る。さらに、登別市文化協会・子ども会育成連絡協議会の支援を行う。総合体育館については安全性の確保と利便性の向上を図るため大規模改修に取り組む。	A

18	社会教育施設	郷土資料館については、支援団体ＳＬＧ（スタディ・ライフ・グループ）などの協力のもと、各種資料の収集・整理・保存や常設展、特別展を開催するとともに、施設・設備の充実を図り郷土の歴史や文化への興味・関心を高める。ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」については、指定管理者「ＮＰＯ法人モモンガくらぶ」により「自然体験活動」や「環境学習」、「子育て支援」などの事業を展開し、今後もより質の高いプログラムを企画し、豊かな体験活動ができるよう支援していく。	B
19	市立図書館	図書ボランティア団体との協働による読書機会の充実や質の高い図書資料の整備を進め、魅力ある図書サービスを提供するとともに、豊富な知識と経験を有する図書館長の出前講座の実施やきめ細やかな情報発信に努め、市民の利用の促進を図る。アーニス分館においては、あらゆる出版資料を入手できる「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」など、ＩＴ環境を活用したサービスの提供を進める。	A

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

平成２７年度教育委員会点検・評価報告に関する意見等

石井　憲一　氏

はじめに

27 年度は 23 年に施行された「第４次社会教育中期計画」が完結し、国が掲げる教育委員会制度の見直しと 21 世紀の教育行政への道筋を付けるべき重要な年であり、今年 28 年 9 月には「登別市教育大綱」が示されたものと考えます。

この当該年における当市の教育委員会は、年頭初に示された 19 項目の重点施策に対する委員会の点検・評価から十分に責務を果たされていると感じました。その報告は、点検すべき内容を、それらの判断基準となる資料に関して時系列になった数値を中心にして図・表や分かりやすい文言で示しており、重点施策に関する評価と今後の方向性へと結びついていることが良く分かりました。ここでは、そういう理解の上で報告全般について意見を述べさせて頂く事に致します。

１．教育委員会の活動について

26 年度と同様、年間 12 回の「定例会議」の全てにおいて議案、報告そして情報提供があり、議事録資料(ホームページ)では 57 件の情報提供に委員の方々から多くの発言が有ったりしたことが分かりました。特に 3 月の第 12 回目の定例会議において登別版「コミュニティ・スクール」の進捗と教育の現場である学校の人事の関係に意見が出されていたことは、教育委員の方と地域の協働が進展していく礎であると考える次第です。

２．19 項目の重点施策の点検・評価について

冒頭にも述べましたように、「第４次社会教育中期計画」の集大成であると思われる節目の年度における重点施策の点検・評価であることから、注意深く読ませて頂きました。19 の重点施策は 6 項目がＢ評定、残りの 13 項目がＡ評定であると報告され、Ｃ～Ｄ評定がないことはこの一年間の教育委員会の執行状況が良かったと考えられ、喜ばしいことです。そのことを踏まえて、意見を求められた者としてその内容を考察したところ、次のように意見として申し述べさせて頂く次第です。

（１）Ｂ評定の６項目について

まず、「幼保・小・中連携教育の推進」ですが、情報交流、指導者・子どもの交流が進められている状況で、2 年目となる 26 年度の取組みでは幼稚園・保育所の視察が進められたと説明されているが 3 年目の年になって全体的に満足のいく状況でなかった由。今後の方向性には記述されていないが、視察することの必要性とその取組はどうなるかが関心事となります。

「安全対策」は通学路に対して昨年度の PDCA の取組みから示された対策の改善・充実がどうなされたかが説明されていないこと、この 3 年間に評定が上がっていない要因を見極めることが必要ではないかと考えます。

「特別支援教育」については、点検資料からも分かるように、小中学校で特別支援を必要とする児童・生徒が増えているようです。26 年度で評価に記載されていた振興協会の実技指導などの継続、そして地域にある特別支援教育機関の実態の把握も必要で有ろうかと考えます。

「健康教育の推進」の項目は、今年度の点検内容として登場した“性教育の指導”に係る

関係機関などの文言について説明不足かと考えます。また、この項を掲げる施策項目として適当であるかどうかも考える余地があると考えます。

「青少年の健全育成」に関しては、“万引き”や”不審者・変質者”の状況が経年的に見て好転していないことが問題です。児童数の減少や人口減を考えると状況はますます良くない訳で、地域と連携した対策の見直しが必要であるとも考えられます。ここで、項目に挙げられている“インターネット安全教育・〃保護者への啓発”について意見を述べたいと思います。この事柄は現代において非常に重要であり、ケータイ・スマホ 3 つのルールの発信などは良かったと考えますが、これらの環境はますます複雑になることが想定されます。27 年度の執行方針でも謳われているように、IT 活用の新しい学習スタイルやアクティブ・ラーニングへの対応からも、教職員に対する教育も含めて『情報教育』の項目が必要と提案する次第です。

新しい項目として掲げられた「社会教育施設」については、他の重点施策に関わる施設全体の中で特色ある施設を纏めて点検・評価したものと推察しますが、重点施策として掲げる事に若干の疑問があります。その点検・評価の内容はそれぞれの関係する項目にフィードバックしても良いのではと考えます。

（2） A評定の 13 項目について

当市が 3 年前に導入した登別版「コミュニティ・スクール」の構築に係る「地域とともにある学校づくり」、その道筋は注目されていると思うところで有ります。コミュニティ・スクールは国の施策として推進されているところですが、27 年 4 月 1 日現在の導入は全国で 235 市町村の 2271 校（7.6%）、北海道にあっては 9 市町村 37 校とまだまだ少ない中、近隣市町村に先駆けてしかも全市(5 中学校と 8 小学校)で進められている現況であります。点検・評価に示されているように着々とそのノウハウが蓄積されて登別市独自のルール作りに向かっていると感じます。しかし、少子化による学校の適正配置が求められ、高齢社会が進むことによる地域の支援環境が変化していくことが避けられない現況から「熟議」を論ずるには時期尚早と考えます。是非、地域・PTA・学校そして教育委員や社会教育委員などの方々が同じ場を用意し議論を深めた内容を開示して欲しいと考えます。

「教職員の資質能力向上」と「学力向上対策」の施策については、具体的な記述により様々な改善の試みが実を結びつつあることが示されましたが、アクティブ・ラーニングという学び方の本質に迫る改革に向かって行く事が必要と考えます。また、学力向上対策では全体的に前向きに感じられ地域の協力も進んでいるようですが、特定の教科目が小・中学校のいずれにおいても経年的に不安定なところは気になるところです。

「特色ある教育活動」は新たな項目として点検・評価がなされていますが、体力向上、英語教育そして環境教育（豊かな心の育成）などはそれぞれの項目建てで重点的に評価することが望ましいと考えます。

教育現場と家庭環境にあっても重要な課題である「いじめ・不登校対策」については、点検資料にその実数値が時系列で明示され、その現況が一目瞭然に読み取れることが明白です。その上で、少子化による児童生徒の減少、そして地域全体の人口減少を考慮した評価を行い、今後の方向性に繋げて行く事が重要であると考えます。

そして、教育現場に計り知れない影響のある「社会教育」と「家庭教育」の分野での点検・評価は重層する事象も多く、視点の違う評価も含めてメリハリのある文言で纏めてほしいと考えます。

今回意見を示さなかった重点施策の点検・評価については概ね妥当な内容であり、かつ絶えず点検・評価が求められる重点項目であることも確かであり、常に真摯な対応で遂行されることを望みます。

おわりに

今回の点検・評価に対しては、23 年度から 27 年度までの 5 か年を想定期間としている「第 4 次社会教育中期計画」の中核であろう登別版「コミュニティ・スクール」の進展に係る項目を軸に 19 の重点施策を 6 項目のＢ評定と 13 項目のＡ評定に分けて、その妥当性について意見を述べさせて頂きました。

さて、点検・評価のランクはＡ～Ｄの 4 段階で求められている訳ですが、この 7 年間継続されて来たことを斟酌すると、Ｄ評定は別として各項目の細目にはＣ評定と考えるべき内容も含まれてきています。地域との協働による教育行政の執行は、変化する教育現場が常に前向きな取組の姿勢を維持することへの後押しであります。したがって、この点検・評価の内容が建設的な評定であることが肝要であろうと考えます。

以上

平成２７年度　教育委員会点検・評価報告に関する意見等

福川　喜桁　氏

はじめに

本報告を受け、全体として感じたことを初めに申し上げたいと思います。

平成２７年度教育執行方針の基、重点施策・点検内容・評価・今後の方向性・そして、評定と、微に入り細に入り取り組まれたことに、先ず敬意を表します。

重点施策の評定結果は、達成されているが１３項目、おおむね達成が６項目と、非常に良い結果となっています。このことは、年度毎に各学校の学校評価も勘案し、しっかりと評価し、方向性を確認し、教育執行方針を設定し、実行された結果だと思います。特に、最重点項目の「地域とともにある学校づくり」から、第６項目に挙げる「体力向上対策」までは、官学民一体の連携・協働の力強さと重みを感じさせられました。以下の項目も、評定に違いはあれどもその実践への努力の足跡を感じ取ることができました。

以下、点検項目ごとに意見を述べさせていただきます。

１　教育委員会の活動状況について

「教育委員会」の開催は、「教育委員会定例会」のみで、「臨時会議」の開催はなかったとはいえ、その都度、「議案」「報告」「情報提供」「意見交換」など、適宜活発に行われたことがうかがわれます。

また、調査活動の実施状況では、関係団体の会議研修等への出席はじめ、「土曜授業」「公開研究会」「教育ふれあいウイーク」等の視察、各学校の主な行事への参列や、参観など、数多くの足跡が記され、大変なご労苦であったと敬意を表する。これらの活動による状況や実態把握が、上記「教育委員会」での意見交換など活発になされた要因ではないかと推察する。

２　重点施策の評価について

１　地域とともにある学校

「登別版コミュニティスクール」については、昨年導入し、点検内容が達成され、今年度最重点項目として挙げその定着を得ることができた。教育委員会の後押し、さらに各学校の創意工夫と努力が実ったものと考える。

今後は中学校区まで広げ、土曜授業を含めさらに充実を図る構想も大いに評価できる。

２　確かな学力の向上

全国学力検査については、時系列で、また、小６と中３の改善点や課題が示され、家庭

学習(復習・時間)調査などでも改善点が多く、関係者の努力が実ったものと推察される。

学力の向上は、教師の指導力にかかるところも大きいが、なんと言っても児童生徒の学習意欲の向上が大切である。そういった観点から考えると、常に、改善され、配信される「鬼っ子チャレンジテスト」や外部人材活用の「放課後学習」・「長期休業中学習サポート」・「土曜授業」などの充実は、児童生徒の学ぶ意欲のきっかけづくりを図る取組と評価したい。

3　教職員の資質能力向上

教育研究奨励校や各種活用事業などの研修や、その成果の交流などを通して、若手の教師をはじめ、教師一人一人の資質能力の向上は評価の通りと考える。

新採用や若年教師の研修について、考えていることがある。それは、幼稚園や保育所の視察や、授業を見るのも大切だが、かしこまらない状態で、朝の職員朝会から、退勤前の職員終会まで過ごし、幼稚園での園児の実態や、教師の指導の取り組みなどを学ぶ機会をとれないだろうか。一人一人の園児に対し、実に、きめ細かな見守りをしていることが分かり、自らの実践に役立つものと思うのだが。

4　豊かな心の育成

自然体験や社会体験・ボランティア活動・人権教室など、各学校の創意工夫した教育計画が行き届き、高評価につながったものと思われる。

これも私見だが、人権教室については、紙芝居・ＤＶＤなどで、身近な話題で、相手の気持ちを考えたり、思いやりの心を育てるなどの内容になっており、小学校の場合、６年間で、２度ぐらい実践されれば、道徳科と同様、より効果があるように思われる。

5　読書活動

朝読書・ボランティアによる読み聞かせ・調べ学習の充実など学校側の努力、図書館関係連絡会議や学校司書の拡充など、教育委員会の後押しで、良い結果を残せ、何よりと思う。今後とも読書好きの子どもの育成に継続した取組を期待する。

6　体力向上

平成２７年度全国体力・運動能力・運動習慣等調査結果により、改善点は明らかになっている。１校１実践計画も取り組まれ、一方では、体育コーディネーターの活用や家庭や地域に対する啓発活動など、学官民一体となりその成果を上げていることは喜ばしい。
今後、食生活の改善や地域での運動機会の充実に期待大である。

7　健康教育の推進

アレルギー対策についての対応の流れが確立され、情報を共有し、家庭・学校・給食センターなど他の関係者を含めての日常的な取組はフッ化洗口と併せて大いに評価できる。

薬物乱用や性教育については、繰り返しの指導により効果を上げ得るものと考える。日常的な指導も含め、自らの健康を考える児童生徒の育成を図ってほしい。

8　特色ある教育活動

本市での、温泉入浴体験の実施は、２０年は優に超えていて、すっかり定着している。児童生徒が将来「自分は登別市民である。」と意識できる、まさに登別ならではの教育活動だと思う。加えて「キウシト湿原」の活用も自然保護等を考える特色ある教材である。

ほかにも、ＡＬＴ派遣の英語教育・消費者教育・租税・年金教育など、各学校学年相応に展開され、効果を上げているのも喜ばしい。

観光都市登別では、海外からの観光客も多く、４年後の東京オリンピック・パラリンピックを控え、さらに多くの外国人に遭遇することになると思われる。この機会を通して、さらに多くの人種や肌の色を越えて、言語・文化・生活習慣などの違いを認め合う心を育てる国際理解教育の継続を期待したい。

９　幼保・小・中連携教育

この取組に対しては、市教委、学校とで、日常情報交流がなされ、幼保と小・中、小と中などの交流がなされており、取組の評価はできる。今後の方向性にもあるように、教職員同士が、相互理解連携を深められるような機会づくりを期待する。

１０　安全対策

通学路の点検個所・その対応それらの情報発信(学校・ＨＰ)や、地震や津波を想定した避難訓練などきめ細かい取組に敬意を表したい。各小学校とも、登下校時の交通安全や挨拶運動・見守りなど、交通指導員や地域の協力で行われているが、自らの危険や、命を自ら守る力が育っているのだろうか。「挨拶をしても無視される。」「注意を聞いてくれない。」中には「口答えをする。」などの愚痴も聞かれる。児童のほんの一部なのだろうが学校側でも注視するよう促してもらいたい。

鷲別小学校の校舎建て替え工事も進んでいるが、１次避難所としての活用を地域の人達が意識し、学校に対する近親感が持たれてきているような気がする。児童や学校への注目度も高まり、いい意味での相乗効果が期待できるような気もする。

１１　不登校・いじめ対応

様々な取組により、不登校出現件数は減少気味でいい傾向である。いじめ認知件数は変動があり、今年度は、小学校が多い。いじめに対しては、早期発見が何より重要だが、低年齢程、改善が容易であると思う。その意味では、早めの解決が期待できる。また、４でも述べたが、「人権教室」でいじめについて考えさせるのもよいのではないかと思う。

いずれにしても、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・心の教室相談員の方々の活動に期待大であるが、なんと言っても直接児童生徒と関わる、学級担任や、関係職員の眼力に期待するところである。

１２　特別支援教育

「就学指導委員会」を「支援委員会」に改称、「特別支援教育推進指導員」の配置により、就学以前からの教育相談やその後の一貫した支援体制が整い、次年度のさらなる充実を期する。ただ、点検内容と評価を比べると評価が厳しすぎるような気がするが、詳細にわたり、高い理想を持っておられることと敬意を表したい。

１３　社会教育

社会教育中期計画最終年度、青少年教育から全世代教育まで、定着を見せている事業に新しい内容も加え取り組まれ、評価通りの活動ができたものと思う。

今後の方向性にある各種活動を通し、市民意識の醸成とふるさとに対する愛着や誇りを一層高める活動を期待する。

１４　家庭教育

家庭の教育力を高めるため、家庭教育学級や、町会組織・地域ボランティア団体・企業の協力などを受け、親だけで・親子一緒に・子どもだけの活動が取り組まれたが、中でも「家族の時間づくりプロジェクト」の取組は大きく評価してよいと考える。

幌別東小学校の家庭教育学級で、「携帯・スマホ安全教室」を開催したが、内容についてはわからないが時宜を得た取組と評価したい。

これも私見になるが、子どもを持つ父母対象の人権教室を薦めたい。「ネットの裏で」や「デートＤＶ」の講座などがあり、授業形式で一緒に考えながらの学習となる。年齢相応に子どもたちの危機とその回避のために実態を学習し、役立ててほしいと思うからだ。

１５　青少年の健全育成

青少年補導センターの巡回パトロールをはじめとする各種統計、調査や各種連絡協議会での情報の共有など、その苦労がうかがわれる。なかでも、「インターネット安全教室の

実施」・保護者への啓発・「ケータイ・スマホ３つのルール」の作成など成果であると考える。非行防止、ネットやケータイ・スマホの被害防止など、継続で取り組んでほしい。

１６　学校給食

地産地消による献立の工夫(栄養価やエネルギーのバランスが摂れ、美味しい給食)、地産の内容を献立表やランチメールで、学校や保護者に配布、「食育」のための栄養教諭派遣、学校給食展の開催などにより、児童生徒の健康維持・増進、体位の向上を図ることができたことは、評価の通りであろう。今後は、給食センターと学校との連携により、地産食材から地域の自然や産業に対する理解も深めるような指導を大いに勧めたい。

１７　文化スポーツの振興

文化活動・芸術鑑賞会・健康づくり、スポーツなど、当初の狙いを達成し、文化振興基本計画、スポーツ振興基本計画も策定され、実行に移す段階を迎え、喜ばしい限りだ。

併せて、総合体育館の大規模改修も終え、新たな出発に花を添えた感がある。

リオ・オリンピックを終え、日本選手の活躍に、老若男女を問わず、スポーツの素晴らしさを実感し、興味関心が向けられている。４年後の東京オリンピック･パラリンピック開催を機会に、今後の方向性にあるように、さらにスポーツ振興に力を尽くしてほしい。

１８　社会教育

本市の歴史や文化伝承の郷土資料館は、その目的を達成するために、寄せられた文化財や資料等の展示の工夫もあり、限られてはいるが、児童生徒の学習の拠点になっていると思われる。しかし、スペース面で充実を見られないでいる感もある。長い目で、ハード面の充実が図られればと思う。

「ふぉれすと鉱山」では、市のほとんどの学校が宿泊体験・自然体験学習・環境学習などに取り組んでいる。今後、児童生徒はもちろん、広く市民にも呼びかけその活用が図られるよう推進してほしい。

１９　図書館

狭隘なスペースの中で資料等の飽和状態を除籍と整備で解消を図り、魅力ある図書提供に努力されたこと、ボランティア団体との協働やきめ細かな情報発信により図書館の周知を図る取組をしたこと、「問題解決型図書館」を志向し、アーニス分館と併せて、オンラインデーターベースの活用など、ＩＴ環境活用のサービスなどに取り組まれたこと等は、大きく評価したい。

今後益々多忙になるかと思うが、さらに市民に親しまれる図書館、課題解決型図書館の充実を図ってほしい。

おわりに

この役が、初めてなので、資料の読み込みと理解に大変苦労しました。

評定結果でわかるように、教育委員会と学校、地域やボランティア団体、関係機関等との協働や連携の力の大きさ・重さを感じる結果と向き合った、今回の仕事となりました。

本市の教育は、良き方向に向かっています。その流れに掉さす役目になればと、うぬぼれてみましたが、逆らうことにだけはならないようにと、ただただ思うだけです。

いくつか私見を述べましたが、過去の経験を生かしたつもりです。それ故、以下に主な公的機関関係の経歴を述べさせていただきます。

・義務教育(３８年)・幼稚園教育(３年)・児童相談所非常勤職員(２年)・現室蘭人権擁護委員協議会委員(８年)・現登別市民生委員児童委員(３年)・その他は、各種ボランティア活動

以上

Ⅴ 評価のまとめ

平成２７年度の登別市教育委員会の重点施策として点検・評価で取り上げた１９項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・　６項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・　０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・　０項目

であり、教育行政執行方針に沿って適切な教育行政の執行がなされたと考えております。

今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

１　平成27年度教育行政執行方針

平成２７年第１回登別市議会定例会にあたり、教育委員会所管の行政執行に関する基本方針を申し上げます。

我が国では、少子・高齢化やグローバル化の進展などにより、社会が急激な変化を遂げる中にあって、将来にわたり発展し続ける社会と、一人一人が豊かな人生を実現していくため教育の重要性は、ますます高まってきております。

現在中央教育審議会においては、「学制のあり方」や「教職員の免許制度」、「学習指導要領の改訂」など、新しい時代にふさわしい我が国の教育のあり方が審議されております。

教育委員会としましては、これらの動向をしっかりと見極めながら、先見性のある教育活動を展開し、本市教育の振興と発展に向けて全力で取り組んでまいります。

また、教育委員会制度の改革により、新たに設置される「総合教育会議」における首長との協議・調整を通して、これまで以上に、市民の意思を反映する教育行政の推進に努めてまいります。

以下、平成２７年度の重点項目について申し上げます。

はじめに、学校教育についてでありますが、子どもたちの「生きる力」を育む教育を推進するため、社会全体で子どもを育てる体制づくりと学校評価に基づく経営改善を進め、家庭地域から信頼される学校づくりに取り組んでまいります。

昨年、全小・中学校を指定した「登別版コミュニティスクール」の一層の定着を図り、家庭・地域社会と連携した「①地域とともにある学校づくり」を推進してまいります。

②確かな学力の向上については、全国学力学習状況調査において、実施科目の多くが全道や全国の正答率を上回るとともに、学校間の格差が大きく改善されるなど、一定の成果がみられたことから、引き続き、「学ぶ意欲」、「活用する力」、「学習習慣の確立」を各学校の共通目標に掲げ、指導方法や指導内容に対する工夫改善の取組を支援してまいります。

また、地域の方々が中心となって進められる放課後や長期休業中の「学習教室」については、テキスト問題の提供や指導のサポートを行うとともに、新たな教室を開設できるよう図ってまいります。

③教職員の資質向上については、研修活動や教育課程の改善、家庭、地域との連携などに取り組む「学校力向上に関する総合実践事業」が継続されますので、その成果が、市内各学校に還元されるよう図るとともに、研究実践奨励校の指定や巡回指導教員活用事業などの取組を進めてまいります。

また、子どもたちが主体的、協働的に学ぶ「アクティブ・ラーニング」や最新の「情報機器を活用した授業」など、新しい学習スタイルに対応するため、授業研究や実践交流会など研修機会の充実に努めてまいります。

④豊かな心の育成については、子どもたちの「生命を大切にする心」や「他人を思いやる心」「善悪の判断」「規範意識や公共心」の醸成を図るため、自然体験や社会体験、ボランティア活動など、体験活動の拡充に努め、道徳教育が推進されるよう支援してまいります。

⑤読書活動については、学校での朝読書や図書ボランティアによる読み聞かせ、調べ学習などの活動を推奨するとともに、学校図書館司書の拡充を図り、子どもたちが、本に親しむことができる環境づくりに努めてまいります。

⑥体力向上については、全国体力・運動能力等の調査結果において、俊敏性や持久力に依然として課題がみられますので、一校一実践の取組や新体力テストの活用、体育インストラクターの派遣など学校における体力向上の取組を支援するとともに、子どもたちの日常的、継続的な運動習慣の確立をめざし、地域における運動や外遊びの機会の確保、家庭における生活習慣の改善などの取組を啓発してまいります。

⑦児童生徒のアレルギー対応については、保護者、学校、給食センターが情報を共有し連携を図るとともに、医師の診断に基づき対処することを基本とする「学校生活管理指導表」を活用して、子どもたちが、安全・安心な学校生活を送れるよう努めてまいります。

また、薬物乱用防止教育や性教育に関する指導については、警察署など関係機関と連携を図るとともに、外部講師を活用した教室の開催を促してまいります。

⑧特色ある教育については、「スキー授業」や「温泉入浴体験」のほか、「キウシト湿原」を活用した環境学習など地域の自然や特性を生かした学校での取組を支援してまいります。

また、英語教育については、外国人の英語指導助手を活用した小・中学校でのコミュニケーション能力の育成や外国の文化や歴史への興味を高める国際理解教育の展開を促してまいります。

さらに、「消費者教育」や「租税・年金教育」などを奨励し、時代に対応した知識の習得を図ってまいります。

⑨連携教育については、「幼保・小・中連携協議会」を中心に、校種ごとの特性や課題を把握し、円滑な接続をめざすための子ども同士の交流活動を実施し、一貫性のある指導が図られるよう努めてまいります。

⑩通学路の安全対策については、道路管理者など関係機関で構成する「登別市通学路安全推進協議会」を開催して、危険箇所を現地調査するなど、改善に向けた取組を推進してまいります。

また、学校施設の耐震化については、耐震診断がすべて終了しましたので、診断結果を計画に反映させるとともに、今年度は、青葉小学校校舎の耐震化工事を実施します。

また、鷲別小学校については、校舎の建て替え工事に着手し、平成２８年度末の完成をめざします。

⑪いじめ問題については、各学校が「いじめ防止対策推進法」に基づく「いじめ防止基本方針」を策定しましたので、学校の実態に応じた取組を支援するとともに、「不登校・

いじめ等対策会議」を開催して、情報共有や事例研究などに取り組み、いじめの起きない環境づくりに努めてまいります。
　また、不登校については、要因が、複雑・多様化していることから、スクールカウンセラー・心の教室相談員・スクールソーシャルワーカーを活用した相談体制の充実を図るとともに、子どもたちの登校支援を行う「適応指導教室」や地域ボランティアの協力による「体験教室」の充実に努めてまいります。
　⑫特別支援教育については、就学前からの教育相談や就学指導に加え、その後の一貫した支援を行うため「登別市就学指導委員会」を「登別市教育支援委員会」と、改称するとともに、教育委員会に「特別支援教育推進専門員」を配置し、一人一人のニーズに応じた教育の充実を図ってまいります。

　次に、⑬社会教育についてでありますが、「人々の支え合いと活気のある社会づくり」や「知識、技能などの学習成果を地域社会に還元できる知の循環型社会」の実現をめざした「第四次社会教育中期計画」に基づき、各種施策を展開してまいります。
　また、地域の人材を登録、公開している生涯学習人材バンクを整備するとともに、郷土の歴史や文化に関する各種講座の開催を奨励し、ふるさとへの愛着心と誇りを育んでまいります。
　⑭家庭教育については、家庭教育学級で取り組まれている実技講習会や講演会、作品展を支援し、家庭での教育力の向上を図ってまいります。
　また、子ども会育成連絡協議会や地域のボランティア団体、企業の協力を得て、「通学合宿」や「放課後子ども教室」「学校支援地域本部事業」「家族の時間づくりプロジェクト」などの事業を実施し、地域社会の中で、子どもたちをのびのびと健やかに育てる環境づくりに努めてまいります。
　⑮青少年の健全育成については、青少年センターを中心として、家庭や地域との連携のもと、登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導などに取り組むとともに、関係機関で構成する各種連絡協議会において情報を共有し、不審者対策や非行の未然防止対策の充実に努めてまいります。
　また、携帯電話やスマートフォンの急速な普及により多発するネットトラブルの防止を図るためネットの正しい利用方法を学ぶ「インターネット安全教室」の開催を促すとともに、保護者への啓発やネットパトロールなどに取り組んでまいります。
　⑯学校給食については、地元の食材を積極的に取り入れた献立づくりや栄養教諭による給食指導を通して、食に対する関心を高めるとともに、発育期にある児童生徒に、豊かでおいしい給食を提供し、健康の保持・増進、体位の向上を図ってまいります。
　⑰文化・スポーツの振興については、登別市文化・スポーツ振興財団や文化協会、体育協会などと連携し、市民の文化活動への参加や芸術の鑑賞機会の提供、各種スポーツ教室やスポーツ大会の開催を通して、潤いと活力のある地域社会の形成に努めてまいります。
　また、昨年から関係団体や市民の皆さんの参画を得て検討してまいりました「文化振興基本計画」と「スポーツ推進基本計画」については、新しい時代にふさわしいガイドポストとなるよう策定してまいります。
　また、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定を契機に、国民の健康志向や体力づくりへの関心が高まっておりますので、体力や年齢、技術に応じたスポーツ・レクリエーション活動を奨励し市民のスポーツに対する機運の盛り上げを図ってまいります。
　さらに、本年度は、登別市文化協会・子ども会育成連絡協議会が創立５０周年、文化・

スポーツ振興財団が２０周年の節目を迎え、さらなる飛躍を期して、記念行事に取り組むこととしておりますので、地域の活性化やまちづくりに資するものとしてこれを支援してまいります。

総合体育館については、安全性の確保と利便性の向上を図るため、大規模改修に取り組んでまいります。

次に、⑱社会教育施設についてでありますが、郷土資料館については、支援団体ＳＬＧ（スタディ・ ライフ・グループ）などの協力のもと、各種資料の収集・整理・保存や常設展、特別展を開催するとともに、施設・設備の充実を図り、郷土の歴史や文化への興味・関心を高めてまいります。

ネイチャーセンター「ふぉれすと鉱山」については、指定管理者「ＮＰＯ法人モモンガくらぶ」により、「自然体験活動」や「環境学習」、「子育て支援」などの事業を展開し、市内はもとより近隣からも多くの学校や団体を迎え入れておりますので、今後もより質の高いプログラムを企画し、豊かな体験活動ができるよう支援してまいります。

⑲図書館については、図書ボランティア団体との協働による読書機会の充実や質の高い図書資料の整備を進め、魅力ある図書サービスを提供するとともに、豊富な知識と経験を有する図書館長の出前講座の実施やきめ細やかな情報発信に努め、市民の利用の促進を図ってまいります。

また、アーニス分館においては、あらゆる出版資料を入手できる「国立国会図書館デジタル化資料送信サービス」などＩＴ環境を活用したサービスの提供を進めてまいります。

以上、平成２７年度の重点について申し上げましたが、教育委員会といたしましては、「登別市総合計画」を基本に、学校、家庭、地域、関係機関との連携を深めながら、豊かな個性と人間性を育むまちの実現をめざし諸般の施策を推進してまいります。

市民の皆様並びに議会議員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

全体目標

登別市民憲章

登別市総合計画

登別市生涯学習基本構想

登別市教育目標

具体的な計画

学校教育基本計画（H21～H30）

重点１ 子どもたちの「生きる力」の育成

1，確かな学力向上
- ①基礎・基本の定着
- ②思考力、判断力、表現力等の育成
- ③学び続ける意欲の醸成

2，豊かな人間性の育成
- ①豊かな心を育む教育の充実
- ②生徒指導、不登校対策等の充実
- ③教育相談の充実

3，たくましく生きるための健康や体力づくり
- ①健康や体力づくりの推進
- ②食育の推進
- ③地域との連携
- ④指導者、指導技術の充実

重点２ 地域に根ざした魅力ある学校づくり

1，特色ある教育活動の推進
- ①時代の変化に伴う教育課題への対応
- ②総合的な学習の時間の充実
- ③体験学習の充実
- ④情報機器の効果的な活用

2，開かれた学校づくりの推進
- ①学校公開や地域交流推進
- ②家庭・地域との連携推進
- ③地域の教育力の活用
- ④学校評議員・学校評価の活用推進

3，教育環境の充実
- ①児童生徒の安全確保
- ②安全で衛生的な教育環境の充実
- ③特別支援教育の体制づくり
- ④教職員の資質能力の向上

第４次社会教育中期計画（H23～H27）

１ 人づくり

(1)青少年教育
次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するための各種体験活動の充実、環境の整備

(2)成人教育
市民の主体的な学習の推進
＜市民が主体となった社会教育を目指して＞

(3)高齢者教育
高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実

(4)全世代教育
異世代間交流の充実

２ 家庭教育
家庭の教育力向上のための学習支援の教化、充実

３ 条件整備
いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備

４ 文化活動
文化の保護・継承と文化活動や文化を育む環境づくりの推進を図る

文化振興基本計画（H27～H36）

５ 健康づくり・スポーツ
生涯スポーツの推進を図る

スポーツ振興基本計画（H27～H36）

点検・評価

教育員会点検・評価

- 教育行政執行方針の自己評価
- 教育委員会活動報告
- 学識経験者による評価・意見

事務事業評価

- 予算を伴う事業の評価
- 担当による自己評価

各種基本計画の進捗状況

- 学校教育基本計画
- 第４次社会教育中期計画
- 文化振興基本計画
- スポーツ振興基本計画

平成27年度　各種基本計画の進捗状況
学校教育基本計画

重点1　子どもたちの「生きる力」の育成

	主要な施策	推進項目	平成27年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費 主な事業等	執行方針 重点番号	平成26年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行 重点
1 確かな学力の向上	①基礎・基本の定着	学力向上プランの活用		○			2		○		1
		基礎・基本の徹底	○				2	○			1
		指導方法工夫改善		○		・巡回教員活用事業	3		○		2
		学校支援ボランティアの活用	○			・CS活動支援事業費	1	○			1・10
		家庭学習の充実	○				2		○		1
	②思考力、判断力、表現力等の育成	校内研修の充実	○			・教育実践研究奨励事業 ・学校力向上に関する実践事業	3	○			2
		公開研究会の開催		○		・教育実践研究奨励事業	3	○			2
		研修講座等への参加促進		○		・白老との地域連携研修事業	3	○			2
		教科との関連を図った「総合的な学習の時間」の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費	8		○		
		個に応じた指導の充実	○			・教育実践研究奨励事業 ・学校力向上に関する実践事業	3	○			2
	③学び続ける意欲の醸成	学習評価の充実		○			2		○		
		授業の充実	○			・教育実践研究奨励事業 ・学校力向上に関する実践事業	3	○			2
		生活習慣・学習習慣の形成	○				2		○		1
		創意工夫を生かした教育課程の編成	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・CS活動支援事業費	1	○			10
2 豊かな人間性の育成	①豊かな心を育む教育の充実	自然体験活動の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・自然体験学習推進経費	1・4	○			6
		社会体験活動の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費	1・4	○			6
		道徳教育の充実		○			4		○		6
		地域の人材活用	○			・CS活動支援事業	1	○			10
		読書活動の推進	○			・図書館運営管理費 ・学校図書館司書配置事業費	5	○			7・18
	②生徒指導、不登校対策等の充実	生徒指導の校内体制の充実	○				11	○			5
		情報連携・行動連携の充実	○			・青少年育成指導経費	11	○			5
		不登校・いじめ等対策	○			・不登校・いじめ等対策経費	11	○			5
		適応指導教室等の充実	○			・不登校・いじめ等対策会議	11		△		5
		関係機関との連携		○		・不登校・いじめ等対策会議	11	○			5
	③教育相談の充実	スクールカウンセラーの活用	○			・スクールカウンセラー活用事業費	11	○			5
		心の教室相談員の活用	○			・心の教室相談員活動経費	11		○		5
		電話・メール・訪問相談の充実		○		・不登校・いじめ等対策経費	11		○		5
		「いじめ問題」への適切な対応	○			・不登校・いじめ等対策経費	11	○			5
		地域、関係部局、関係機関との連携促進	○			・スクールソーシャルワーカー活用事業費	11	○			5
3 たくましく生きるための健康や体力づくり	①健康や体力づくりの推進	「体力」についての実態把握	○				6	○			8
		体育の授業の充実	○			・子ども健康・体力改善事業費	6	○			8
		体力の向上を目指した特色ある教育活動の促進		○		・スキー授業等推進経費 ・特別活動推進経費	6		○		8
		薬物乱用防止教育の推進		○			7		○		9
		性に関する指導の推進		○			7		△		9
		体育施設設備の整備・充実	○			・総合体育館大規模改修 ・鷲別中グラウンドフェンス整備	17	○			12
		中学校運動部活動の充実		○		・中学校体育連盟助成金	6		○		8
	②食育の推進	食に関する指導 「全体計画」の作成		○			16		○		9
		食の通信「すくすく」の発行		○			16		○		9
		栄養教諭による指導	○				16	○			9
		望ましい食習慣の啓発	○				16	○			9
	③地域との連携	放課後子どもプランの実践	○			・放課後子ども教室推進事業費	1	○			10
		学校支援ボランティアによる支援	○			・学校支援地域本部事業費	1	○			10
	④指導者、指導技術の充実	講習会、各種研修会の参加促進		○			3		○		2
		地域人材の活用		○		・CS活動支援事業費	1		○		

重点2　地域に根ざした魅力ある学校づくり

	主要な施策	推進項目	平成27年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費 主な事業等	執行方針重点番号	平成26年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行重点
1 特色ある教育活動の推進	①時代の変化に伴う教育課題への対応	国際理解教育の推進	○			・外国青年招致経費	8		○		
		伝統文化に触れる機会の提供	○				13		○		14
		食育の推進	○				16	○			9
		環境教育の推進	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・自然体験学習推進経費	8		○		6
		人権教育の推進		○			4	○			6
		英語教育の推進・小学校外国語活動の推進	○			・外国青年招致経費	8	○			
		安全教育の推進		○			10	○			11
		読書活動の推進	○			・学校図書システム広域化事業費 ・学校図書館司書配置事業費	5	○			7
	②総合的な学習の時間の充実	全体計画・指導計画の充実		○					○		
		地域の人材・環境の活用	○			・CS活動支援事業費	1	○			10
		特色ある活動の継承		○		・特色ある学校づくり推進経費 ・特別活動推進経費	8		○		
		キャリア教育		○					○		
	③体験活動の充実	自然体験・社会体験学習の充実	○			・特色ある学校づくり推進経費 ・自然体験学習推進経費	4	○			6
		異学年交流の促進		○			9		○		4
		子ども共同生活体験の推進	○			・通学合宿　みんなで学ぶ「子ども村」	14	○			14
	④情報機器の効果的な活用	情報教育の推進		○		・小中学校情報教育推進事業費 ・情報教育システム広域化事業費		○			11
		授業での活用促進	○					○			
		教員用コンピュータの効果的な活用		○					○		
		登別市情報教育推進協議会との連携		○					○		
2 開かれた学校づくりの推進	①学校公開や地域交流の推進	学校からの情報発信	○			・CS活動支援事業費	1		○		
		学校公開の促進	○			・CS活動支援事業費	1	○			10
		学校支援ボランティアの活用	○			・CS活動支援事業費	1	○			10
		地域活動との連携	○			・CS活動支援事業費	1	○			10
		小中学校の連携の促進		○			2・9		○		4
	②家庭・地域との連携促進	家庭教育の充実		○		・CS活動支援事業費	1	○			15
		地域教育の充実	○			・CS活動支援事業費	1	○			14
		学校支援ボランティアの体制整備	○			・学校支援地域本部事業費	1	○			10
	③地域の教育力の活用	学校支援ボランティアの活用	○			・学校支援地域本部事業費	1	○			10
	④学校評議員・学校評価の活用促進	学校評議員制度		○					○		
		学校評価の促進		○					○		
		学校評価の活用		○					○		
3 教育環境の充実	①児童生徒の安全確保	施設設備の保守点検、改修		○		・西陵中外壁、幌別小キュービクル取替、鷲別中フェンス整備他	10	○			12
		学校施設の耐震化	○			・青葉小耐震化、鷲別小建替事業費	10	○			12
	②安全で衛生的な教育環境の充実	危機管理マニュアルの点検	○					○			
		不審者対策等、登下校の安全確保	○			・青少年育成指導経費	15	○			16
		学校環境検査の実施		○				○			
	③特別支援教育の体制づくり	児童生徒の実態把握	○				9	○			3
		推進のための校内体制の整備	○			・特別支援教育推進経費	9		○		3
		コーディネーター等研修会の開催		○			9	○			3
		支援員（介助員、学習支援補助員）	○				9	○			3
		登別市特別支援教育推進協議会	○			・特別支援教育振興費	9		○		3
		部局・関係団体等との連携促進		○		・言語障害通級教室運営経費	9	○			3
	④教職員の資質能力の向上	校内研修の充実	○			・教育実践研究奨励事業 ・学校力向上に関する実践事業	3	○			2
		研修事業への派遣促進	○			・白老との地域連携研修事業	3	○			2
		学校職員評価の実施		○					○		
		教員研修会等の開催	○			・教育実践研究奨励事業	3	○			2
		登別市教育研究会との連携		○		・教育研究会運営事業補助金	3		○		2
		胆振教育研究所との連携		○			3	○			2

第４次社会教育中期計画（H23～H27）

	主要な施策	推進項目	平成27年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費 主な事業等	執行方針 重点番号	平成26年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行 重点
1	人づくり	(1)青少年 次代を切り開くたくましさと豊かな心をもつ青少年を育成するため各種体験活動の充実、環境の整備	○			・姉妹都市小中学校交流事業補助金 ・少年の主張大会経費 ・子ども会活動振興助成金 ・学校支援地域本部事業費	13	○			14
		(2)成人 市民の主体的な学習の推進＜市民が主役となった社会教育を目指して＞		○		・市民生涯学習推進講座経費 ・三市合同女性国内派遣研修経費 ・成人祭経費	13	○			14
		(3)高齢者 高齢者のニーズに応じた多様な学習機会の充実	○			・市民生涯学習推進講座経費	13	○			14
		(4)全世代 異世代間交流の充実		○		・市民生涯学習推進講座経費	13		○		14
2	家庭教育	家庭の教育力向上のための学習支援の強化、充実	○			・放課後子ども教室推進事業費 ・PTA連合会助成金	14	○			10・15
3	条件整備	いつでも、どこでも、誰もが学べる学習環境の整備・充実		○		・教育施設運営管理委託料 ・社会教育業務推進事業費	13		○		
4	文化活動	文化振興基本計画の推進	○			・文化振興助成金	17	○			17
5	健康づくり・スポーツ	スポーツ振興基本計画の推進	○			・体育協会助成金 ・生涯スポーツ振興及びスポーツ関連団体の育成経費	17	○			17

文化振興基本計画

	主要な施策	推進項目	平成27年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費 主の事業等	執行方針 重点番号	平成26年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行 重点
1	市民文化活動の活性化	・自主的な文化活動発表機会の充実 ・文化団体の支援 ・情報提供 ・文化芸術鑑賞の充実 ・施設設備	○			・婦人研修の家維持管理経費 ・公民館運営管理費 ・ネイチャーセンター運営管理経費 ・文化・スポーツ振興財団事業補助金	17	○			17
2	文化活動を担う人づくり	・団体同士の交流や活動情報の提供 ・学校教育との連携 ・文化芸術鑑賞の拡充 ・人材育成と地域人材の発掘 ・他地域との交流	○			・三市合同文化事業負担金 ・図書館運営管理事業	13・17	○			17
3	歴史・文化の伝承と活用	・博物館施設の充実と活動情報発信 ・学芸員の増員と適切な保存方法の向上 ・文化財の保管と郷土資料館収蔵庫の整備 ・民俗芸能の育成と継承支援 ・地域文化の振興		○		・文化伝承館運営管理費 ・のぼりべつ文化交流館運営管理費 ・郷土資料館運営管理費	17・18	○			17
4	アイヌ文化の振興	・関係機関との協働・連携 ・関係団体との連携 ・歴史や文化を正しく理解できる人づくり	○			・文化財保護経費	13		○		

スポーツ振興基本計画

	主要な施策	施策の方向	平成27年度 進捗状況 進展	維持	遅延	教育総務・小・中学校費 主な事業等	執行方針 重点番号	平成26年度 進捗状況 進展	維持	遅延	執行 重点
1	スポーツ・レクリエーション活動の推進	・多様なスポーツ活動の機会の充実 ・スポーツに関する情報提供の充実 ・生涯スポーツ指導者の育成 ・高齢者や障がい者のスポーツ支援 ・幼児期のスポーツに触れる機会の充実	○			・姉妹都市スポーツ交流事業助成金 ・スポーツ推進委員会経費 ・文化・スポーツ振興財団事業補助金	17	○			17
2	健康・体力づくり	・関係機関の連携 ・プールを利用した健康づくり ・豊かな自然を利用した健康づくり		○			17		○		
3	競技スポーツの推進	・選手の育成 ・指導者の育成・活用 ・交流を通じて豊かな心の育成 ・トップアスリートとのふれあい	○			・市町スポーツ交流会事業費 ・児童生徒スポーツ振興助成金 ・登別市スポーツ少年団育成助成金		○			
4	学校におけるスポーツ活動の推進	・健康や体力づくりの推進 ・地域との連携 ・指導者・指導技術の充実	○			・市民プールバスパック業務委託費			○		
5	施設整備の推進	・スポーツ施設の安全確保と充実 ・スポーツ施設の有効活用 ・スポーツ施設情報の充実	○			・青少年会館運営管理費 ・市民プール運営管理経費 ・総合体育館整備事業 ・学校開放事業	17	○			17